

## 柳田國男の著作・著作収録書 書誌

---

Research Materials

田中正明

### 1

わが国で民俗学が創始されてからおよそ70年、その創設に深く関わった柳田國男が誕生してから130年余り、2012年には没後50年を迎えようとしている。

このような時空の経過に連れて、当然のことではあるが、草創期の日本民俗学と現在の日本民俗学との間には大きな乖離が認められる。この間社会が大きく変質し、所謂生活目的、生活意識、生活技術が著しく変容した。それに伴って柳田に対峙する際の意識に移ろいがあり、日本民俗学もこのような時代の変化や要請を容れ研究対象が細分化し研究が深化した結果と首肯することもできる。

このことはまた、民俗学の研究者についても指摘できる。柳田と時代を共有した研究者は少なくなった。世代の交代が進み現在ではその直後の、更にはそれらの研究者の薫陶や指導を受けた方々が枢要な立場を占めるまでになっている。これらの研究者は柳田にまみえたり警咳に接したことがなく、柳田國男に対する意識や対応に差異が認められるのは自然の成り行きであるが、柳田との距離が次第に開いていることは否定できないであろう。その結果、柳田の著作を例にしても、著作は柳田の多岐にわたった活動や研究と連関することなく、極言すればテキストとしてのみ受け止められ、個々の著作の読み方にしても様々な観点から提言が行われ、時には嘸み合わないまま熱心に議論のみが交わされているという現実もある。

有り体に言えば、この点について筆者は少しばかり疑義を覚えている。次の文章は、かつて公刊した拙書『柳田國男 私の歩んできた道』[2000年10月 岩田書院]中に記したものである。

今日これらの研究書が対象としている分野は多岐にわたっており、今後も各方面の研究者によって、多彩な分野の成果を踏まえた書物が公刊され続けると思われる。これらの書目を通観すると、比較的早い時期のものには柳田の評伝あるいは柳田学の入門書に類するものが認められるが、近時出版されている書の多くは柳田の偉大な業績や思想を対象とし、研究対象を小分野ごとに画し、そこから導き出された成果を問おうとする特質があるように思われる。このように柳田に起因する関心事に推移があり、対処の仕方に変化があることは研究史上自然なことで、その結果研究が深化し学問上の蓄積がはかられるならば、それ自体は結構なことであろう。しかしながら、研究分野が細分化されると、ややもすると全体を見失うという弊害が生じてくる可能性がある。

---

即ち、明治・大正・昭和（戦前・戦後）にわたった柳田の超人的な活躍は、如何に多岐にわたろうとも、柳田國男という一人の人間に起因したことであり、個々の業績や研究内容が別々のもののように見えても、深層で関連し合っているということに、私たちは留意をするべきではないであろうか。「人と学問」と、という言葉がある。この言葉の意味を理解しようとする時、大別して異なった二つの理解の仕方があるように思われる。即ち、一つは「人」と「学問」とに相応のウエイトを置き、対置する主体あるいは個別の対象として理解をはかろうとする考え方であり、他は「人」と「学問」を別けることのできない不可分の主体として認識し、理解を深化させようとする捉え方である。また、その場の必要や有用性に即して二つの捉え方を使い分ける場合もあるであろうが、基本的にはここに記したいずれかの思考方法によることとなる。以上は一般論であるが、それでは具体的に人に柳田國男を当て、「柳田國男と学問」あるいは「柳田國男と業績」として、理解をはかろうとすると如何であろうか。前者の立場に立って考えると、「柳田國男」と「その学問（業績）」との関係は稀薄となり、そうして「その学問（業績）」にのみ関心を向ける人にとって、柳田國男という人の実在は等閑にされ、その営為は思考の外に置かれることとなる。しかしながら、「学問」にしても「業績」ひとつをとってもそれ自体で存在するものでなく、程度の差は措くとして、ひとたびは柳田という人間の営為に意を用いるべきではないかと考えている。

摘記としては些か冗長であるが、筆者の意図の一端を、理解していただくことができればと考えた。

学祖柳田國男に対峙した時の意識の変化は、研究者の間でのみ認められることではない。同様にかつて、高等学校で使用している検定済み教科用図書の中で、生徒たちに向けて柳田がどのように取り上げられたり紹介されたりしているかを検証したことがあった。「現代社会」「倫理」「日本史」を通じて、柳田の取り上げられ方、換言すると頻出の度合いは、同時代の類縁の分野の人物に比して少なくなかった。詳細については既に公にしてある稿 [「教科書の中の柳田國男」『柳田國男の書物－書誌的事項を中心として－』2003年1月 岩田書院、増補して『柳田國男と教科書－児童と生徒へのまなざし－』2006年4月 開成出版に収録] に譲ることとし、「日本史」の中から十数例を記してみたい。

単元ではいずれの教科書でも大正時代の「大正デモクラシー」と同時代の文化の項で取り上げられている。このような結果、別会社ながら表現が酷似している例もあるが、ここでも編纂者・著作者による振幅が認められた。数字は教科書番号である。

\* 柳田國男の（略）民俗学研究などもすぐれた業績として認められた。[『日本史 改訂版』自由書房 日史021]

\* 文字に表現されない民衆の文化を確立し大成した。/「常民」の心を明らかにする新しい学問が成立した。[『新編 日本史』原書房 日史036]

\* 柳田國男は民間伝承などの調査・研究を進めて民俗学を確立した。[『新詳説 日本史』山川出版 日史036]

\* 独自の途を追求し続けた。/民俗学の確立に貢献した。[『高等学校日本史B』第一学習社 日史564]

\* 柳田國男の日本民俗学にかんする研究などは、もっとも独創的な業績であった。[『新日本史B』

三省堂 日 B558]

- \* 柳田国男は民俗学を確立し [『日本史 B 改訂版』 実教出版 日 B582]
- \* 日本民俗学では柳田国男らがすぐれた業績をのこした。 [『高等学校編 新日本史 B 改訂版』 桐原書店 日 B587]
- \* 柳田国男は民衆の習俗の中に新しい文化創造の源泉を探ろうとする民俗学を唱えた。 [『高等学校 改訂版 新日本史 B』 第一学習社 日 B586]
- \* 柳田国男は民俗学の基礎をきずいた。 [『要約 日本史 B』 清水書院 日 B583]
- \* 柳田国男は (略) 民俗学の基礎をきずいた。 [『日本史 B』 東京書籍 日 B622]
- \* 柳田国男は全国各地をたずねあるいて民間伝承を集め、民俗学の基礎をきずいた。 [『新選日本史 B』 三省堂 日 B623]
- \* 柳田国男は日本にはじめて民俗学を確立した。 [『詳解 日本史 B 改訂版』 三省堂 日 B625]
- \* 柳田国男は (略) 民衆生活の変遷を明らかにする民俗学を開拓した。 [『新版 高校 日本史 B 二訂版』 日本書籍 日 B621]
- \* 民間伝承・風習などの研究をつうじて庶民の生活史をあきらかにした民俗学の柳田国男, [『現代の日本史』 山川出版 日 A619]
- \* 人文科学では (略) また、柳田国男は民間伝承などの調査・研究を進めて民俗学を確立した。 [『新日本史 改訂版』 山川出版 日 B627]

民俗学との関わり (業績) について記述した箇所を列挙したが、①唱えた、②開拓した、③基礎をきずいた、④確立に貢献した、⑤確立した、更には⑥独創的な業績であった、⑦柳田国男の民俗学研究、⑧柳田国男の日本民俗学にかんする研究、といったように一様でない。例えば①唱えたと⑤確立したとでは、単に表現上の違いに止どまるだけでなく、両者の間には隔たりがあり同一の概念とは考え難い。このように、認識に差異が認められるのである。

## 2

前項では、柳田が置かれている今日的な状況の一端について一瞥した。拠ってきた要因は多岐にわたると考えられるが、昭和 37 年 8 月に柳田が没して 50 年近い歳月が経過したこと、それに伴って生前の柳田を知る人が少なくなっていること、柳田への関心が薄れてきたこと、日本民俗学として柳田への依存の度合いが減じていること、その帰結として柳田國男像が鮮明さを失いつつあることなども主要な要因を成しているであろう。また先に指摘した柳田に関する研究が膨大で細分化していることも、全体像が捉えきれなくなったり、全体を見失う弊害を生み出す一因になっているのではないだろうか。「木を見て森を見ない」という警句に学ぶまでもなく、このことは留意しても過ぎることはないと考えている。

このことに関連して、もう一つのことを挙げてみたい。柳田は終生を通じて、著作と講演による研究と啓蒙活動を続けた。これらの著作については水木直箭・橘正一・鷺尾三郎・森山太郎などの先人によって、早くから目録づくりが始められた。竹田且・大藤時彦・鎌田久子・相馬庸郎・谷沢永一などの方々が続ぎ、今日これら先学の学恩に浴しているわけであるが、この分野においても視線はある種の書目や特定の分野の書目に向けられ、100 冊を超える柳田の単行書の中で、全体を俯

瞰した検証や対象とされ難い書目についての関心は稀薄で、柳田に関わる他の研究分野に比して過少に属すると思われる。

私事で僭越であるが、この点に関して従前から各般にわたる柳田の書目の目録の整備と、単行本の目録の公刊とを待望してきた。しかしながら、総体としては依然としてその機運を感じる事ができず、このため力の不足を承知した上で先般、柳田の著書及び編著書、柳田が著した論文・記事・作品・談話・書簡・序文などを収めている全集・叢書・講座・講演集・単行書を可能な限り渉猟し、『柳田國男 書目書影集覧』[1994年6月 岩田書院]という書物を公刊した。

それから20年近い時日が経過したが、現在刊行中の『柳田國男全集』[全36巻 別巻2巻 筑摩書房]に収められている「解題」を除いて、ここに指摘した実態はなお大きく動いていない。因に、同書の「解題」は同全集の編集委員の執筆にかかる書誌及び書誌に類するもので、仔細を尽くし一篇の論考と見紛うものもある。数多くの知見を含んで、裨益されることが多い労作である。

### 3

柳田は、単行の著書だけでも優に100冊を超える書目を世に送っている。これに柳田が著した論文・記事・作品・談話・書簡・序文などを収めている全集・叢書・講座・講演集・単行書などを加えると数百冊にもなると思われる。更に、校訂・編輯(纂)、あるいは甲寅叢書[大正3年7月～4年2月6冊(冊数は刊行分のみ、以下同じ) 甲寅叢書刊行会]、炉辺叢書[大正9年2月4冊 玄文社]、炉辺叢書[大正11年3月～昭和4年2月36冊 郷土研究社]、第二叢書[大正15年11月～昭和5年7月11冊 郷土研究社]、真澄遊覧記[昭和4年8月～5年9月 覆刻本共14冊 三元社・郷土研究社]、民家図集[昭和5年5月～6年7月12輯 大塚巧芸社]、言語誌叢刊[昭和5年7月～11年9月12冊 刀江書院]、全国方言集[昭和16年8月～19年9月7冊 中央公論社]、全国昔話記録[昭和17年7月～19年3月13冊 中央公論社]、女性叢書[昭和17年11月～19年6月17冊 三国書房]、日本民謡大観[昭和19年7月 生前刊行されたものは3巻4冊 日本放送出版協会]、全国民俗誌叢書[昭和24年4月～26年10月7冊 三省堂・刀江書院]などのようにそれぞれの企画や編輯(纂)、監修などに直接・間接に関わった書目を合わせたならば果たしてその数は何冊位になるのであろうか。関与の程は明確でないが、世界昔ばなし文庫[昭和23年1月～4月7冊 彰考書院]、中学生全集[昭和25年～29年100冊 筑摩書房]、日本のむかし話[昭和36年6月6冊 実業之日本社]、更に朝日古典全集[朝日新聞社]などの監修者をつとめていることも付記しておきたい。

その際のこととして、これらの著書の編輯(纂)や発行に力を尽くした編輯(纂)者や発行者、更に発行所(出版社)などについての調査や検証も十分に行われて来たとは言えないのではないか。

書肆聚精堂店主田中増蔵は本業の医学書の出版の傍ら民俗学や考古学の書目の刊行を積極的に助け、今井甚太郎はそのもと印刷会社杏林舎で高度な技術をもって印刷に当たった人物である。柳田との関係をもみても、学史上初期の記念碑的な書目の誉れが高く今日では稀覯本となっている『石神問答』[明治43年5月]、『遠野物語』[明治43年6月]、『時代ト農政』[明治43年12月]を世に送り出している。『嗚呼田中増蔵君』[大正5年11月 杏林舎]、『故今井甚太郎君を忍ぶ』[昭和31年9月 故今井甚太郎氏追悼録刊行会]の二書は関係者によって編まれ幸いにして二人について知ることのできる得難い書物である。岡茂雄は文化人類学者岡正雄の令兄で書肆岡書院の社主を務め、同社から

数多くの研究書を刊行したことは良く知られているが、『雪国の春』[昭和3年2月]、『女性と民俗学』[柳田著・早川孝太郎編 昭和7年12月]、『地名の話その他』[昭和8年1月]などの柳田の著書も手掛けたが、時には意思の疎通や齟齬もあったのだという。その岡には、『本屋風情』[昭和49年7月 平凡社]と名付けた回想録がある。雑誌『SUMUS』第4号[2000年9月 編集人代表山本善行]は、「甲鳥書林周辺」を特集した号であった。甲鳥書林は凝った造本をして高名な書肆であったが、戦時下当時の多くの出版社と同一の軌跡を辿り、出版企業整備令を受けて養徳社として発展的解消を遂げるに至った経緯を有している。その書肆について、同特集記事は貴重な資料を提示している。因に、昭和19年5月に公刊した『雪国の民俗』（三木茂との共著）の奥付には両書肆名が記され、『笑いの本願』[昭和21年1月]は養徳社の版に成るものである。

しかしながら、ここに示したような事例は過少に属している。日本民俗学会として関係者の協力を得て学史に関わる聞き取りや調べを断続的に進め、成果の一端を公にしていることは承知をしているが、その内容や進捗状況にもどかしさを覚えている。

#### 4

他にも指摘したい事柄はあるが、それらの事柄を述べ立てることが本稿の主題ではない。一先ずここに記したことを踏まえて畢竟すると、遅きに失した観は否めないが、最も基礎的な事柄に改めて意を尽くす必要があるのではないだろうか。

柳田國男の存命中に早くも開始された柳田研究は継続して続けられ、その成果は多大で、論考や研究書となり研究者や読書家に陸續と提供されてきた。その際顕著に認められることとして、これらの研究に携わられた方々が、民俗学の範疇に止どまらず類縁の学問はもとより広範囲に及んでいることである。当然のことながらその関心は多岐にわたり、業績の理解の仕方や評価についても様々である。

しかしながら、その反面これらの研究の前提となる基礎的な事柄についての検証や研究に着目すると、研究成果の蓄積は果たして十分に為されてきたのであろうか。医学の世界では、研究を臨床医学と応用医学に大別することがある。この事例に例えれば後者に相応する研究の広がりや深まりには目を見はらせられるが、前者については一考を要するのではないだろうか。

その一つに、前項で言及した書誌をあげることができる。柳田は同時代の人に向けて、また後代の人たちに向けて数多くの論考や著書を残している。継ぎ送られた数多くの論考や書目に関連した営為は、『定本 柳田國男集』[全31巻・別巻5巻 筑摩書房]の巻末の「内容見本」「あとがき」、『柳田國男全集』[全36巻・別巻2巻 刊行中 筑摩書房]の巻末に収められた「解題」と、管見の及ぶ範囲で他には僅かの成果が認められるだけである。しかし、これらの成果を除くと、没後50年を間近に控えた現時点において、最も基礎となる調査や研究はなお不十分の誇りを免れ得ないのではないか。躊躇することなく有り体に言えば、この種の営為は今日までの時空の中で、一先ずは中樞をなすべき事柄でなかったのではないだろうか。

確かに、『定本 柳田國男集』別巻5[定本柳田國男集編纂委員会 昭和46年5月]には詳細な「書誌」が、また『日本民俗学文献総目録』[日本民俗学会 昭和55年5月 弘文堂]には大部の「文献データ内容」が収められている。しかしながら、両書は共に雑誌記事を中心に据えており、単行書を

引き出して俯瞰しようとする場合は困難を覚える。単行書を主体にして作成されている目録は、『秋風帖』[昭和7年11月 梓書房]、『郷土生活の研究法』[昭和10年8月 刀江書院]、『山の神とヲコゼ』[昭和11年8月 寧楽書院]、『後狩詞記』[柳田國男先生喜寿記念会編 昭和26年10月 実業之日本社]、『故郷七十年』[昭和34年11月 のじぎく文庫]などの柳田の著書や、研究書・全集・文庫本の巻末などに付されている著書目録と個人が公にした僅かな成果を措くと、『柳田先生 著作目録』[昭和14年10月 大阪民俗談話会]、『日本民俗学大系』第13巻[昭和37年4月 平凡社]、『柳田國男方言文庫目録』[昭和39年7月 慶應義塾大学言語文化研究所]、『やしの実から『海上の道』へ』[昭和50年9月 三省堂]、『柳田國男著作・研究文献目録』[昭和57年5月 日本地名研究所]、更には『柳田文庫蔵書目録』[昭和42年5月 成城大学]、『柳田國男事典』(平成10年7月 勉誠出版)『増補改訂 柳田文庫蔵書目録』[平成15年3月 成城大学民俗学研究所]などの書目中に設けられている単行書に関わる頁などが纏まりをもっている程度である。

## 5

心に懸る幾つかの事柄について述べたが、以下本稿に於いて柳田國男の著書及び編著書、柳田が著した論文・記事・作品・談話・書簡・序文などを収めている単行書・全集・叢書・講演集を、管見に入った範囲で可能な限り記すこととしたい。

以下の書目の多くは先に刊行した『柳田國男 書目書影集覧』に掲載した書目と同一であるが、その後入手したり存在を知った書目も少なくない。なお、先行の『柳田國男 書目書影集覧』の体裁は、柳田の文庫・著作集・定本集・選集・全集、校訂書・編輯(纂)書・監修書、更には柳田がその書の成立や刊行に関わった書目を網羅し、単行書・共書・合書は一冊づつ表紙やカバーあるいは函などを写真にとって書影を掲げていること、同様に発行年月日、著者(編著者)、発行所(出版社)などの奥付頁の刊記も複写にとって影印を掲出していることを明記しておきたい。なおまた、叢書・講座・講演集などは他者の編輯(纂)にかかったものが多く、書中では柳田の頁は僅かに過ぎなかったり、如何かと思われるものも含めることとしたが、本稿は基礎的な資料を提示することを意図したもので、管見に入ったものはできるだけ収録しておくこととした。これらの書目を柳田の著作目録に掲げることの是非は、個々に判断をしていただきたい。蛇足であるが、柳田國男の意識や研究の軌跡を辿ることともなり、「日本における民俗研究の形成と発展に関する基礎研究」を主題とした、当該共同研究の主意に些かなりとも叶うのではないかと考えている。

掲出にあたっての留意事項は、次の通りである。

1. 柳田の存命中に刊行された書物と、没後に出版された書物とがある。前者の書目は管見に入ったものすべてを、後者は精選して掲げた。ただし、両者共に日本語以外の言語で著わされた書物と、教科書、事(辞)典類は除いた。教科書と大学の講義録の詳細については、拙稿「柳田國男と教科用国語教科書－概要と書誌的事項を中心に－」[『日本民俗学』212号 平成9年11月 日本民俗学会]、「大学人としての柳田國男－講義録の検証を中心に－」[『日本民俗学』198号 平成6年5月 日本民俗学会]を参照していただきたい。
2. 文庫判の版型をとり柳田を著者や校訂者とする書物が、岩波文庫(10冊)・角川文庫(元版19冊・改訂版11冊)・創元文庫(10冊)・新潮文庫(4冊)・旺文社文庫(5冊)・講談社学術文庫(11

冊)・ちくま文庫(33冊)に収められている。本稿ではこれらの書目は除いた(その他の文庫と「ワイド版岩波文庫」「岩波文庫別冊」,「ちくま文庫」の1冊は収載)。文庫本の詳細については、拙稿「柳田国男と文庫本-刊行の状況と表記を中心として-」〔『柳田国男 研究論集』第3号 2004年12月 柳田国男の会〕を参照していただきたい。

3. 取り上げた書物は、奥付に記されている発行年月日に依拠して刊行順に配列した。発行の月や日が未記載であったり明らかでないものは、原則として月や年の終わりに掲げた。
4. 元版が刊行された後、改訂版、新版などが出版されている書目がある。その際、出版社が変わっている場合もあり、これらは重版と異なるためその都度掲げた。ただし、復刻(復刊)版は原則として元版の備考に記した。しかし、この原則に拠らなかった場合もある。
5. 個々の書物については、書名、発行年月日、発行所・出版社名、著書・他者の編著書の別、判型、本文頁(総頁)、序文・跋文について記述し、更に若干の事柄を「備考」として掲げた。
6. 書名は、表紙(または背文字)と奥付とが異なっている書目がある。この場合は、原則として表紙(または背文字)記載の通りとした。また、篇数や巻数を漢数字で記載している書と洋数字で記載している書とがあるが、明記されているままと記した。
7. 発行年月日は、奥付に従って和暦・西暦の別なく、明記されているままと記した。
8. 柳田の著作は柳田自身が深く関わって成った書物と、第三者によって纏められたり編輯(纂)された書物とがある。「他者の編著書」とは後者に属するもので、「第三者による編輯(纂)書」「第三者による著書」といった意味であるが、編輯(纂)書と著書の区別が明瞭でない書物もあり便宜的にこのように記した。自著以外で柳田が序文を寄せている書目は、「他者の編著書」と記し、またその他の表現を用いた場合もある。なお、著書については没後に柳田を著者・著作者として出版された書物は、すべて「著書」と明記した。
9. 判型は、旧規格寸法による菊半裁判・菊判・四六判・四六倍判。JIS規格寸法によるB6判・B5判・A5判、更に文庫判(A6判)・新書判(B40取)・全書判などに類別し、これらの規格によらない書物は実測値を記した。しかしながら、四六判一つをとってもすべての書物が同一寸法に仕上げられているわけではなく、大小の差異や変形しているものがある。また、旧規格寸法とJIS規格寸法とを判別することが困難な書物もある。従って、これらのことを踏まえ目安として理解していただきたい。
10. 頁は、巻初から通している書物、目次・序文・解説・索引など別々に付している書など様々である。このため後者の書物は、本文頁(目次や序文を含む場合もある)と、その他の部分を合計した総頁とを記した。なお、巻初に置かれている写真頁などは総頁数に加えていない。頁数についても、一応の目安として理解していただきたい。
11. 序文や跋文については、その旨が明記されている場合は「」を付し、副題が添えられている場合は副題も記した。なお、序文や跋文と明記されていなくとも序文や跋文と見做すことが出来る場合は、「」で囲んだ。
12. 他に「(参考)」として掲げた、書目がある。

- 
- 『抒情詩』 明治30年4月29日 民友社 合著 92x127 256頁(259頁) 「例言」(宮崎八百吉) 松岡國男。「野辺のゆきゝ」(31～64頁)を、編んでいる。  
なお、本書は昭和39年12月20日東京の冬至書房から「近代文芸復刻叢刊」、また昭和55年4月1日に東京の日本近代文学館から「名著復刻 詩歌文学館」の1冊として復刻された。
- 『山高水長』 明治31年1月5日 文学同士の会 他者(大月隆)の編著書 131x96 380頁(383頁) 序文なし  
松岡國男の名で、「野辺の小草」(179～210頁)と題し、18篇の作品を収めている。
- 『談白砂青松』 明治32年7月2日 大学館 他者(高松正道)の編著書 四六判 326頁(331頁) 「緒言」(茅村)  
「名家文庫」の1冊として、公刊された。赤松國祐の変名で、「利根の夜船」(238～287頁)を収めている。
- 『花天月地』 明治32年7月15日 大学館 他者(石橋愛太郎)の編著書 菊判 264頁(276頁) 「序」(松籟)、「例言」(編者)  
松男の変名で、抒情詩「春の夜」(8頁)、「園の清水」(112頁)、「月の夜」(113～114頁)、「我かさは姫の君に」(129～131頁)を収めている。
- 『新体詩歌 春風秋水』 明治33年4月10日 松村三松堂 他者(松邑金次郎)の編著書 四六判 208頁(218頁) 序文なし  
松岡國男の名で、「春の夜」(28頁)を収めている。
- 『クロノウエル』 明治34年7月15日 博文館 他者(田山花袋)の著書 菊判 144頁(146頁) 序文なし  
「世界歴史譚」の1冊として、公刊された。「著者 松岡國男」と記されているが、田山花袋に名前を貸したもので、花袋の著作と考えられている。
- 『専修学校経済論集 第二輯』 明治35年5月23日 専修学校 他者(櫻井義廉)の編著書 菊判 137頁(138頁) 「開会の辞」(鈴木純一郎)  
「専修学校経済論集」の1冊として、公刊された。「農業界に於ける分配問題に就て」(本文中には「農業界に於ける分配問題」と記されている59～84頁)を、収めている。
- 『産産業組合通解』 明治35年12月20日 大日本実業学会 著書 菊判 244頁(324頁) 「自序」(1～8頁) 本文に続けて、「産業組合関係法令」「模範定款」を収めている。
- 『近近世奇談全集』 明治36年3月17日 博文館 田山録弥との共編 四六判 1010頁(1014頁) 「序言」(編者)  
「続帝国文庫」の1冊として、公刊された。本扉には「田山花袋 柳田國男 校訂」と記されている。なお、同書の巻末に「続帝国文庫」の広告が付されているが、柳田を「山田法学士」と誤記している。
- 『農政学』 明治37年 早稲田大学出版部 著書 菊判 179頁(180頁) 序文なし
-



- 
- 早稲田大学政治経済科講義録として公刊されたもので、引き続いて明治38年度・39年度・40年度版が刊行された。37年度・38年度・39年度版は版を異にしており、40年度版は39年度版と同一と考えられる。いずれの書にも、奥付や刊記等は付されていない。
- 『新体詩歌 朗吟集』明治38年2月15日 山本文友堂 他者(山本完蔵)の編著書 185x91 116頁(125頁) 序文なし  
松岡國男の名で、「ある時」(87～91頁)、「心の花」(92～93頁)を、収めている。
- 『芳宜乃古枝』明治38年7月30日 松浦辰男(発行者) 他者(松浦辰男)の編著書 188x155 187頁(192頁)  
表紙の書名は「芳宜乃古枝」、本文中では「萩の古枝」と記されている。上下巻を合本して公刊された。  
“序文”(頁は付されていない)を、収めている。
- 『農政学』明治39年 早稲田大学出版部 著書 菊判 164頁(165頁) 序文なし  
前掲書の、明治39年版である。
- 『農業政策学』明治40年と思われる 中央大学 著書 菊判 255頁(257頁) 序文なし  
中央大学講義録として、公刊された。奥付や刊記等は、付されていない。『中央大学講義録一覧』(明治44年8月 中央大学)の「明治45年度講義録科目担当講師」中に、「農業政策 柳田國男」とあり同講義録の見本が付されているが、掲載されている頁は「農業政策学」と同一である。
- 『二十八人集』明治41年4月15日 新潮社 他者(田山録弥)の編著書 菊判 553頁(563頁)  
“序文”(徳富蘇峰)  
前編と後編とから成り、後編に「遊海島記」(62～82頁)を収めている。
- 『農業政策』明治41年 早稲田大学出版部 著書 菊判 201頁(203頁) 序文なし  
早稲田大学政治経済科講義録として公刊されたもので、引き続いて明治42年度版が刊行された。奥付や刊記等は、付されていない。
- 『農務省開設 第貳回産業組合講義録』明治41年7月23日(日付は19日の上に線を引き印を押して23と書き改めている) 他者(佐藤寛次)の編著書 菊判 815頁(一)「序」(松岡康毅)、「産業組合講義録序」(平田東助)  
「産業組合の歴史」(1～59頁)を、収めている。
- 『後狩詞記』明治42年3月15日 自刊 著書 菊判 56頁(70頁)「序」(1～19頁)  
附録として、「狩之巻」を収めている。  
本書には、後に記すように数種類の改版本がある。その中に孔版で糸を使って袋綴じにし、発行年度や発行所などが明記されていない改版本があるので、ここに記しておきたい。236x163 86頁(87頁)「序」
- 『松楓集』明治42年4月3日 宮澤栞 他者(宮澤栞)の編著書 185x154 107頁(111頁)  
“序”(宮澤栞)
-

- 
- 一門の作品集で、全編を通じて柳田の作品を収めている。
- 『新古文範』 明治42年12月16日 博文堂 他者(田山花袋・前田木城)の編著書 四六判 520頁(535頁) 「凡例」(編者)  
「神島」(454～460頁)を、収めている。
- 『石神問答』 明治43年5月20日 聚精堂 著書 三六判 287頁(315頁) “序文”(頁は付されていない)  
背文字は「イシガミ」、巻末に『遠野物語』の近刊予告を掲げている。
- 『遠野物語』 明治43年6月14日 自刊(売捌所 聚精堂)著書 菊判 114頁(125頁) “序文”(1～6頁)  
なお、本書は昭和43年9月10日に「名著復刻全集 近代文学館」、昭和59年12月1日に「秀選名著復刻全集 近代文学館」の1冊として、共に東京の日本近代文学館から復刻された。また、平成22年6月14日に「『遠野物語』発刊100周年記念」として、遠野市(文化政策部)から、復刻された。
- 『時代ト農政』 明治43年12月8日 聚精堂 著書 菊判 306頁(320頁) 「開白」(1～10頁)  
表紙が、緑色と茶褐色の2種類の本がある。
- 『耳の趣味』 大正2年6月15日 左久良書房 他者(鈴木鼓村)の編著書 菊判 336頁(364頁)  
「序文」(1～16頁)を、収めている。
- 『北蝦夷古謡遺編』 大正3年3月10日 甲寅叢書刊行所 他者(金田一京助)の編著書 四六判 192頁(205頁)  
「甲寅叢書」の1冊として公刊され、巻末に「甲寅叢書発起者」による「甲寅叢書刊行趣意書」を付している。発起者の氏名は記されていないが、柳田は当該叢書の発行者であり柳田の文章と思われる。
- 『山島民譚集』 大正3年7月4日 甲寅叢書刊行所 著書 四六判 194頁(198頁)  
「小序」(1頁)  
「甲寅叢書」の1冊として、公刊された。巻末に『山島民譚集』続刊予告、「甲寅叢書刊行趣意書」等を付している。趣意書には7名の氏名が記され、また文言も前掲の『北蝦夷古謡遺編』と異なっているが、柳田の文章と思われる。
- 『植物妖怪考(下)』 大正3年8月22日 甲寅叢書刊行所 他者(白井光太郎)の編著書 四六判 168頁(173頁)  
「甲寅叢書」の1冊として、公刊された。巻末に、『山島民譚集』と同一の「甲寅叢書刊行趣意書」を付している。
- 『明治聖徳記念学会紀要 第五卷』 大正5年5月13日 明治聖徳記念学会 他者(明治聖徳記念学会)の編著書 菊判 202頁(一)  
「雑録」の項に「御大礼参列感話」(183～186頁)を、収めている。ただし、同稿の文末に「(一記者報)」と付記されている。
- 『心の響』 大正5年9月18日 春江堂書店 他者(水野葉舟)の編著書 文庫判 429頁(445頁) 「序」(水野盈太郎)
-

- 
- 松岡國男 (37～107 頁)。既刊の『抒情詩』『山高水長』に収載されている作品を中心に、43 篇の作品を収めている。
- 『是でも武士か』 大正 5 年 12 月 18 日 丸善 翻訳書 252x190 日本文 231 頁 (248 頁), 英文 156 頁 (167 頁)  
 「巻頭詩」(無署名), 「緒言」(編輯者)  
 著者はジェー, ダブリュー, ロバートソン, スコット。日英両国語の合本で、翻訳者の氏名は明記されていないが、大藤時彦が翻訳者は柳田である旨を明言している。初版は定価 1 円 80 銭で丸背の本製本 (上製本) であるが、翌大正 6 年 4 月 1 日に定価 50 銭の仮製本 (並製本) の再版が発行された。
- 『民家図集 第一集 埼玉県』 大正 7 年 10 月 25 日 他者 (白茅会) の編輯・発行書 362x263  
 赤壁徳彦・佐藤功一・今和次郎と共に、柳田は同図集の編輯・執筆者の 1 人。民家の写真や図面 10 枚を収め、解説を付している。
- 『たぬき』 大正 7 年 12 月 3 日 三進堂書店・清和堂書店 他者 (戸川残花) の編著書 四六判 197 頁 (201 頁) 「小序」(戸川残花)  
 「狸とデモノロジー」(22～38 頁) を、収めている。
- 『赤子塚の話』 大正 9 年 2 月 20 日 玄文社 著書 袖珍判 90 頁 (93 頁) 「炬辺叢書序」(無署名)  
 玄文社版「炬辺叢書」の 1 冊として、公刊された。
- 『おとら狐の話』 大正 9 年 2 月 20 日 玄文社 早川孝太郎との共書 袖珍判 140 頁 (143 頁) 「炬辺叢書序」(無署名)  
 玄文社版「炬辺叢書」の 1 冊として、公刊された。
- 『奥州のザシキワラシの話』 大正 9 年 2 月 20 日 玄文社 他者 (佐々木喜善) の編著書 袖珍判 109 頁 (110 頁) 「炬辺叢書序」(無署名)  
 玄文社版「炬辺叢書」の 1 冊として、公刊された。「此序に言つて置きたい事」(101～109 頁) を、収めている。
- 『神を助けた話』 大正 9 年 2 月 20 日 玄文社 著書 袖珍判 105 頁 (108 頁) 「炬辺叢書序」(無署名)  
 玄文社版「炬辺叢書」の 1 冊として、公刊された。
- 『ハルマヘイラ島生活』 大正 10 年 6 月 28 日 東洋協会 他者 (江川俊治) の編著書 262 頁 (280 頁)  
 「序」(江川俊治)  
 「序」(1～4 頁) を、収めている。なお、本書は「柳田國男の本棚」の 1 冊として、1997 年 9 月 29 日に東京の大空社から復刊された。
- 『郷土誌論』 大正 11 年 3 月 30 日 郷土研究社 著書 菊半裁判 144 頁 (146 頁) 「序」(頁は記されていない)  
 郷土研究社版「炬辺叢書」の 1 冊として、公刊された。「序」の中に、「此論文は我社の菅沼可児彦君の書いたものです」と記されているが、菅沼可児彦は柳田の変名である。柳田は、本叢書の企画・推進者。造本は、フランス装の製本によっている。本叢書は、昭和 51・2 年に東京の名著出版から復刻された。
- 『祭礼と世間』 大正 11 年 8 月 20 日 郷土研究社 著書 菊半裁判 87 頁 (93 頁) 「小序」(1～4 頁)
-

- 
- 郷土研究社版「炉辺叢書」の1冊として、公刊された。フランス装の、製本によっている。
- 『横田文庫目録』 大正11年10月30日 横田孝史（発行者）他者（横田孝史）の編著書 四六判 328頁(332頁) 「書横田文庫後」(車谷実秀), 「横田文庫を惟ふ」(小出雅雄), 「文庫目録の編成に就いて」(横田芳次郎) 無題(28～31頁)を、収めている。
- 『時局問題批判』 大正13年3月25日 朝日新聞社 他者(鈴木兼一)の編著書 四六判 260頁(264頁) 「序に代へて－開会の辞」(高原操一) 「政治生活更新の期」(35～50頁), 「普通選挙の準備作業」(221～240頁)を収めている。
- 『明治聖徳記念学会紀要 第二十二巻』 大正13年9月25日 他者(明治聖徳記念学会)の編輯兼発行書 菊判 190頁(199頁) 「雑纂」の項に「土人保護の事業」(177～179頁)を、収めている。ただし、文末に(大要取意文責記者)と付記されている。
- 『能美郡民謡集』 大正13年11月15日 郷土研究社 他者(早川孝太郎)の編著書 菊半裁判 148頁(162頁) 「編者附言」(早川孝太郎) 郷土研究社版「炉辺叢書」の1冊として、公刊された。 「序」(目次には「序文」と記されている1～13頁)を収めている。
- 『炉辺叢書解題』 大正13年11月 郷土研究社 編輯書 菊半裁判 24頁(一) 「炉辺叢書序」(無署名) 奥付や刊記等は付されていないが、柳田が著した「炉辺叢書刊行趣旨」(1～4頁)に大正13年11月と記されている。
- 『沖縄の人形芝居』 大正14年1月20日 郷土研究社 他者(宮良當壯)の編著書 菊半裁判 145頁(156頁) 「凡例」(宮良當壯) 郷土研究社版「炉辺叢書」の1冊として、公刊された。「小序」(目次には「序文」と記されている1～5頁)を収めている。
- 『明治大正詩選』 大正14年2月13日 新潮社 他者(詩話会)の編著書 215x163 410頁(425頁) 「序」(白鳥省吾・川路柳紅・福田正夫) 松岡國男の項(21～22頁)に2篇の詩を収め、巻末に「明治大正詩壇年表」「明治大正詩書一覧」を付している。
- 『郷土会記録』 大正14年4月13日 大岡山書店 編輯書 四六判 264頁(270頁) 「緒言」(1～4頁)
- 『海南小記』 大正14年4月24日 大岡山書店 著書 四六判 379頁(402頁) 「序」(1～8頁) 巻末に、「附言」(1～7頁)を付している。
- 『成人教育』 大正14年6月15日 朝日新聞社 他者(赤松静太)の編著書 四六判 247頁(255頁) 「序」(大阪朝日新聞社編輯局) 「朝日講演集」として、公刊された。「移民政策と生活安定」(167～184頁), 「文
-

- 
- 化史上の日向」(229～247頁)を取めている。
- 『炉辺叢書解題』 大正14年7月 郷土研究社 編輯書 菊半裁判 32頁(一)「同情ある諸君に御願ひする」(無署名)  
刊行書の増加に伴い、大正13年版を増補したもので、巻頭に同一の「炉辺叢書刊行趣旨」を掲げている。奥付や刊記等は付されていないが、同趣旨に添えられた年月日は、上記のように改められている。
- 『通俗経済講座 第九輯』 大正14年8月3日(表紙には8月1日発行と記されている)日本評論社 他者(日本評論社)の編著書 菊判 156頁(158)序文なし  
「通俗経済講座」の1冊として公刊された。「日本の人口問題」(61～72頁)を、収めている。同講座公刊に先立って「内容見本」が作成されているが、「科外講義」の部に「題未定 東京朝日新聞編輯顧問 柳田國男」と記されている。
- 『通俗経済講座 第十輯』 大正14年8月19日(表紙には8月15日発行と記されている)日本評論社 他者(日本評論社)の編著書 菊判 186頁(188頁)序文なし  
「通俗経済講座」の1冊として公刊された。「日本の人口問題」(47～56頁)を、収めている。
- 『啓明会第十五回講演集』 大正14年12月29日 啓明会事務所 他者(笠森伝繁)の編著書 菊判 175頁(186頁)「開会の辞」(平山威信)  
「南島研究の現状」(33～68頁)を、収めている。
- 『一日一文』 大正15年1月20日 朝日新聞社 他者(赤松静太)の編著書 四六判 320頁(330頁)「はしがき」(無署名)  
「童子と神」(50～54頁)を、収めている。
- 『女人政治考』 大正15年6月20日 岡書院 他者(佐喜真興英)の編著書 菊判 242頁(251頁)  
「小序」(「目次」には「柳田國男序」と記されている 1～6頁)を、収めている。なお柳田の「小序」を含め本書は『南島説話』(大正11年5月10日)、『シマの話』(大正14年5月28日 共に郷土研究社版炉辺叢書)と合わせて『佐喜真興英全集』の書名で、昭和45年1月10日に琉球史料復刻頒布会から復刻された。
- 『遠野方言誌』 大正15年6月25日 郷土研究社 他者(伊能嘉矩)の編著書 菊半裁判 122頁(140頁)  
郷土研究社版「炉辺叢書」の1冊として、公刊された。「序」(1～2頁)を、収めている。
- 『啓明会第十八回講演集』 大正15年8月15日 啓明会事務所 他者(笠森伝繁)の編著書 菊判 90頁(99頁)「開会の辞」(鶴見左古雄)  
「眼前の異人種問題」(3～14頁)を、収めている。
- 『東石見田唄集』 大正15年8月30日 郷土研究社 他者(三上永人)の編著書 菊半裁判 104頁(111頁)「此の集の末に」(三上永人)  
郷土研究社版「炉辺叢書」の1冊として、公刊された。「小序」(1～7頁)を、収めている。
-

- 
- 『農村青年読本 上巻』大正15年9月15日 精華堂書店 他者(小山勝清)の編著書 菊判 138頁(一)  
「附属」(無署名)  
表紙に、「柳田國男先生 島崎藤村先生 他十一先生作 小山勝清先生編」と記されている。「学問の為に」(1～7頁)、「一青年の旅行記」(56～62頁)、「農民の詩歌」(94～102頁)、「おどけ話」(118～122頁)を、収めている。
- 『山の人生』 大正15年11月15日 郷土研究社 著書 四六判 285頁(315頁)「自序」(1～3頁)  
「郷土研究社第二叢書」の1冊として、公刊された。
- 『甲斐の落葉』 大正15年11月15日 郷土研究社 他者(山中共古)の編著書 菊半裁判 137頁(140頁)「甲斐の落葉」(山中共古)  
郷土研究社版「炉辺叢書」の1冊として、公刊された。「跋文」(187頁)を、収めている。
- 『旋風』 大正15年11月28日 東京朝日新聞社 他者(成沢金兵衛)の編著書 四六判 287頁(304頁)「序」(杉村楚人冠)、「跋」(成沢金兵衛)  
「富士の頂上にて」(114～122頁)を、収めている。
- 『早稲田大学 政治経済講義』大正15年12月6日 早稲田大学出版部 他者の編著書 菊判 186頁(一)  
17の講義録が掲載されており、柳田の「日本農民史」(33～40頁)が含まれている。
- 『日本農民史』 大正15年 早稲田大学出版部 著書 菊判 87頁(88頁)序文なし  
早稲田大学政治経済科講義録として、公刊された。表紙を異にした、複数の異装本がある。
- 『日本農民史』 菊判  
早稲田大学中央図書館が所蔵しているもので、東京・神田の古書店から購入した旨が記されている。孔版で、「日本農民史」とその他の原稿を合わせているが、「日本農民史」は164頁を占めている。後に刊行されたものと思われるが、奥付や刊記等が付されていないため、便宜的にここに掲げておく。
- 『日本文学講座 第三巻』昭和2年1月20日 新潮社 他者(佐藤義亮)の編著書 菊判 358頁(一)  
序文なし  
「日本文学講座」の1冊として、公刊された。項目ごとに独立しており、巻初から巻末を通した頁は付されていない。「民謡の今と昔」(39～60頁)を、収めている。
- 『紀州文化読本』 昭和2年3月20日 紀州土俗資料刊行会 他者(紀州土俗資料刊行会)の編著書 四六判 536頁(544頁)「序」(無署名)  
「熊野路の現状」(275～282頁)を、収めている。
- 『現代随筆大観』 昭和2年3月28日 新潮社 他者(佐藤義亮)の編著書 四六判 536頁(542頁)  
「序言」(評論・随筆家協会)  
「海入部史のエチュウド」(54～60頁)を、収めている。
-

- 
- 『現代日本文学全集 第十五篇』昭和2年4月5日 改造社 他者(国木田独歩)の編著書 菊判 332頁(334頁) 序文なし  
 「現代日本文学全集」の1冊として、公刊された。「国木田独歩小伝」(2頁)を、収めている。
- 『経済随想』 昭和2年5月7日 日本評論社 他者(牧野輝智)の編著書 四六判 378頁(398頁)  
 「序」(下村海南)  
 「友食ひの犠牲」(362～365頁)を、収めている。
- 『農政講座 2』 昭和2年9月15日 農政研究会 他者(北尻茂)の編著書 菊判 246頁(一)「巻頭言」(一宮房治郎)  
 農政講座の1冊として、公刊された。項目ごとに独立しており、巻初から巻末を通した頁は付されていない。「農村家族制度と慣習」(1～18頁)を、収めている。なお同講座公刊に際して「内容見本」が作成されているが、組み方の一例として柳田の1頁が掲載されている。
- 『農政講座 3』 昭和2年12月 農政研究会 他者(北尻茂)の編著書 菊判 218頁(一)「巻頭言」(赤松克麿)、「編輯後記」(無署名)  
 農政講座の1冊として、公刊された。項目ごとに独立しており、巻初から巻末を通した頁は付されていない。「農村家族制度と慣習」(19～27頁)を、収めている。
- 『雪国の春』 昭和3年2月10日 岡書院 著書 四六判 380頁(389頁)「自序」(1～3頁)
- 『日本文学講座 第十六卷』昭和3年4月15日 新潮社 他者(佐藤義亮)の編著書 菊判 354頁(一) 序文なし  
 「日本文学講座」の1冊として、公刊された。項目ごとに独立しており、巻初から巻末を通した頁は付されていない。「昔話解説」(203～246頁)を、収めている。
- 『青年と学問』 昭和3年4月28日 日本青年館 著書 四六判 352頁(358頁)「小序」(1～3頁)
- 『農政講座 4』 昭和3年5月3日 農政研究会 他者(北尻茂)の編著書 菊判 205頁(一)「巻頭言」(麻生久)、「編輯後記」(無署名)  
 農政講座の1冊として、公刊された。項目ごとに独立しており、巻初から巻末を通した頁は付されていない。「農村家族制度と慣習」(29～39頁)を、収めている。
- 『隣日本詩集』 昭和3年5月15日 帝国教育研究会 他者(高木斐川・古賀峡谷)の編著書 四六判 1170頁(1212頁)「巻首に」(編者)  
 126名の作品を集めている。松岡國男(208～212頁)もその1人で、明治30年4月29日に公刊された『抒情詩』から2作品を収めている。
- 『方言採集手帖』 (参考)昭和3年6月20日 他者(東條操)の編著書 菊半截判 262頁(307頁)  
 「各位に」(東條操)  
 郷土研究社版「炉辺叢書」の1冊として公刊されたもので、柳田が資料の一部
-

---

を提供している。表紙の意匠と紙質を異にした、2種類の本がある。

『古書籍目録 日本志篇』 昭和3年9月1日 巖松堂書店古典部 他者（巖松堂書店古典部）の編著書 四六判 851頁（部門別で全体を通した頁は付されていない）「巻頭言」（坪谷善四郎），“巻頭言”（森本謙蔵）

同書店の「古書籍在庫目録」として、公刊された。「巻頭言」（1～4頁）を、収めている。

『台湾文化志 上巻』 昭和3年9月20日 刀江書院 他者（伊能嘉矩）の編著書 菊判 957頁（1023頁）「台湾文化志に序す」（徳田徳三郎）

「台湾文化志」の1冊として公刊された。「小序」（1～6頁）を、収めている。なお、本書は「柳田國男の本棚」の1冊として、1997年4月27日に東京の大空社から復刊された。

『都市と農村』 昭和4年3月1日 朝日新聞社 著書 四六判 284頁（294頁）「自序」（1～6頁）「朝日常識講座」の1冊として、公刊された。「内容見本」が作威されており、160字程の柳田の言葉が記載されている。なお同見本では、書名は『都市と農村の問題』と紹介されている。

『日本神話伝説集』 昭和4年5月3日 アルス 著書 四六判 226頁（247頁）「はしがき」（1～3頁）「日本児童文庫」の1冊として、公刊された。巻末に、「伝説分布表」を付している。なお、「内容見本」が作成されており、「教えるよりは学ばせたい」と題した570字程の柳田の言葉が記載されている。本書は「復刻版 日本児童文庫」の1冊として、昭和56年8月20日東京の名著普及会から復刻された。

『日本伝説集』 昭和4年5月3日 アルス 著書 四六判 226頁（247頁）「はしがき」（1～3頁）前掲の『日本神話伝説集』の、著者贈呈用の異装本で、表紙・背・奥付を異にしているが内容は同一である。

『山水大観』 昭和4年6月7日 新潮社 他者（評論随筆家協会）の編著書 四六判 330頁（334頁）「はしがき」（評論・随筆家協会）「游秦野記」（276～281頁）を、収めている。

『民謡の今と昔』 昭和4年6月15日 地平社書房 著書 四六判 146頁（147頁）序文なし「民俗芸術叢書」の1冊として、公刊された。出版社の「お詫びの言葉」と題した、紙片が挟みこまれている。

『明治大正新詩選』 昭和4年6月18日 白帝書房 他者（風巻景次郎）の編著書 四六判 299頁（315頁）「凡例」（風巻景次郎）松岡國男。詩集『心の響』（大正5年9月18日）から、7篇の作品（13～16頁）を採録している。

『人類学論叢』 昭和4年6月20日 岡書院 他者（木川半之丞）の編著書 260x199 164頁（180頁）「序」（小金井良精・白井光太郎）雑誌『人類学雑誌』第500号記念特別号を、特装単行本としたもので、「葬制の沿革について」（95～118頁）を、収めている。

---



- 
- 『現代日本文学全集 第三十六篇』昭和4年8月12日 改造社 他者（著者代表 戸川明三）の編著書 菊判 558頁（一）「序」（無署名）  
 「現代日本文学全集」の1冊として、公刊された。背文字と本扉に、「紀行随筆集（附）「春」「嵐」と記されている。18名の作品を収録したもので、「柳田國男篇」（219～242頁）には、5篇の作品と自記の「旅行略記」を収めている。天金を施し、表紙を異にした特装本がある。
- 『来目路の橋』 昭和4年8月15日 三元社（発売所）校訂書 四六判 82頁（87頁）「巻の終に」（真澄遊覧記刊行会）  
 和書と覆刻本の2冊から成り、「真澄遊覧記」の1冊として公刊された。柳田は同会の代表者で、奥付には「編輯兼発行者 柳田國男」と記されている。覆刻本に、「序説」として「百年を隔て、」（1～12頁）を収めている。
- 『変わった実話』 昭和4年8月20日 東京朝日新聞社 他者（刀弥館正雄）の編著書 四六判 186頁（187頁）序文なし  
 「熊谷弥惣左衛門の話」（107～129頁）を、収めている。
- 『言語学記念論文集』 昭和4年10月25日 岡書院 他者（齋藤斐章）の編著書 258x195 830頁（902頁）  
 「序」（中山久四郎）  
 「聳入考」（565～626頁）を、収めている。
- 『日本地理大系 近畿篇』 昭和4年10月28日 改造社 他者（山本三生）の編著書 四六倍判 510頁（一）序文なし  
 「八瀬村聚落」（64頁）を、収めている。
- 『伊那の中路』 昭和4年11月1日 三元社（発売所）校訂書 四六判 72頁（97頁）「巻の終に」（真澄遊覧記刊行会）  
 和書と覆刻本の2冊から成り、「真澄遊覧記」の1冊として公刊された。
- 『わがこゝろ』 昭和4年11月1日 三元社（発売所）校訂書 四六判 38頁（64頁）「巻の終に」（真澄遊覧記刊行会）  
 和書と覆刻本の2冊から成り、「真澄遊覧記」の1冊として公刊された。覆刻本に、「信濃の部跋」として「遊歴文人のこと」（1～8頁）を収めている。
- 『趣味と嗜好』 昭和4年11月10日 岡書院 他者（山中鹽）の編著書 菊判 321（326頁）「序に代へて」（山中鹽）  
 山中笑（共古）の、追悼記念として公刊された。「チギリコッコ考」（55～88頁）を、収めている。
- 『伊那の中路 わがこゝろ』 昭和4年12月1日 三元社（発売所）校訂書 四六判 総頁160頁  
 「真澄遊覧記」の1冊として公刊された。「信濃の部跋」として「遊歴文人のこと」（1～8頁）を、収めている。
- 『よはひ草 第四輯』 昭和4年12月15日 小林商店広告部 他者（小林富次郎）の編著書 A5判 158頁（174頁）「凡例」（小林富次郎）  
 「唾を」（1～12頁）を、収めている。
-

- 
- 『資料別東筑摩郡家名一覽』昭和4年12月20日 郷土研究社 他者(手塚縫藏)の編著書 四六判 231頁(271頁) 「序」(手塚縫藏), 「卷末記」(胡桃沢勘内)  
「序説-家名小考-」(1~28頁)を, 収めている。
- 『日本地理大系 関東篇』昭和5年1月3日 改造社 他者(山本三生)の編著書 四六倍判 536頁(一)  
序文なし  
「日本地理大系」の1冊として, 公刊された。「塔の沢」(70~71頁), 「行徳河岸」(276頁)を, 収めている。
- 『歌・俳句・諺』昭和5年1月10日 アルス 柳田と折口信夫・高浜虚子との合書 四六判 250頁(256頁) 序文なし  
「日本児童文庫」の1冊として, 公刊された。折口信夫の「歌の話」, 高浜虚子の「俳句の話」, 柳田の「ことわざの話」(169~250頁)とから成っている。なお, 本書は「復刻 日本児童文庫」の1冊として, 昭和57年10月20日に東京の名著普及会から復刻された。
- 『ことわざの話』昭和5年1月10日 アルス 著書 四六判 82頁(一)  
前掲の『歌・俳句・諺』の抜刷りに表紙と目次を付した, 著者贈呈用の異装本である。
- 『奥の手ぶり』昭和5年2月10日 三元社(発売所) 校訂書 四六判 66頁(82頁) 「巻の終りのことば」(中道等)  
和書と覆刻本の2冊から成り, 「真澄遊覧記」の1冊として公刊された。覆刻本に, 「序」として「正月及び鳥」(1~10頁)を収めている。
- 『日本昔話集(上)』昭和5年3月20日 アルス 著書 四六判 228頁(242頁) 「はしがき」(1~4頁)  
「日本児童文庫」の1冊として, 公刊された。なお, 本書は「復刻 日本児童文庫」の1冊として, 昭和56年8月20日に東京の名著普及会から復刻された。
- 『日本昔話集』昭和5年3月20日 アルス 著書 四六判 228頁(242頁) 「はしがき」(1~4頁)  
前掲の『日本昔話集(上)』の著者贈呈用の異装本で, 奥付と表紙等装丁を異にしているが内容は同一である。
- 『花祭 前編』昭和5年4月15日 岡書院 他者(早川孝太郎)の編著書 菊判 719頁(762頁)  
後編に「後記」(早川孝太郎), 「跋」(折口信夫)  
本扉の裏頁に「柳田國男先生に捧ぐ 著者」と記されており, 「序」(3~24頁)を収めている。なお, 本書は『早川孝太郎全集』第一・二巻(1972年7月20日 未来社)に収載され, 柳田の「序」は第一巻の1~11頁に掲げられている。
- 『民家図集 第一輯 山梨県』(参考) 昭和5年5月8日 編輯者 緑草会(横山信) 発行所 大塚巧芸社 315x230 序文なし  
石黒忠篤・大熊喜邦・武田五一・今和次郎・小林古径・佐藤功一と共に, 柳田は同図集の監輯(者)の1人。白茅会が編輯し大正7年10月25日に刊行した, 『民家図集』を引き継いだもの。以下, 第二輯(富山県 昭和5年6月24日), 第三輯(島根県 昭和5年7月24日), 第四輯(岐阜県 昭和5年9月10日),
-

- 
- 第五輯（静岡県 昭和5年10月25日）、第六輯（青森県 昭和5年11月25日）、第七輯（新潟県 昭和5年12月25日）、第八輯（奈良県 昭和6年1月25日）、第九輯（埼玉県 昭和6年3月25日）、第十輯（岡山県 昭和6年4月25日）、第十一輯（滋賀県 昭和6年5月31日）、第十二輯（長野県 昭和6年7月20日）が公刊された。本図集は各輯ごとに民家の写真を25枚集成して解説を付し、「民家輯報」を添えている。第七輯の「民家輯報」に、『郷土誌論』（大正11年3月30日）の中の「農に関する土俗」の一部が収められている。なお、本図集は『写真集 よみがえる古民家一緑草会編『民家図集』』の書名で、2003年1月15日に東京の柏書房から一括して復刊された。
- 『東北の土俗』 昭和5年6月10日 三元社 他者（佐藤吾一）の編著書 四六判 288頁（294頁）序文なし  
「東北と郷土研究」（101～124頁）を、収めている。
- 『甲斐昔話集』 昭和5年6月20日 郷土研究社 他者（土橋力）の編著書 四六判 314頁（345頁）「自序」（土橋里木）  
「昔話の運搬と管理」（1～9頁）を、収めている。なお、本書は「日本民俗誌大系」第六卷（1975年3月10日 角川書店）に掲載されている。
- 『山と伝説』 昭和5年6月28日 発行所名は記されていない 著書 四六判 12頁（一）  
後掲の『山の伝説 日本アルプス篇』の抜刷りを別仕立てしたもの。奥付はないが、最終頁の最終行に「昭和五年六月二十八日 箱根小涌谷に於て」と記されている。
- 『蝸牛考』 昭和5年7月10日 刀江書院（発売所）著書 菊判 149頁（186頁）「小序」（1～5頁）  
「言語誌叢刊」の1冊として、公刊された。巻末に、「蝸牛異名索引」「蝸牛異称分布図索引」を収めている。柳田は、同叢刊を企画・発行をした同人の1人。
- 『山の伝説 日本アルプス篇』 昭和5年7月17日 丁未出版社 他者（青木純二）の編著書 四六判 309頁（333頁）「自序」（青木純二）  
「山と伝説」（1～12頁）を、収めている。なお、本書は「柳田國男の本棚」の1冊として、1994年4月27日に東京の大空社から復刊された。
- 『菴の春秋』 昭和5年9月5日 三元社（発売所）校訂書 四六判 53頁（62頁）「信濃の部の終の言葉」（胡桃沢勘内）、「卷末記」（真澄遊覧記刊行会）和書と覆刻本の2冊から成り、「真澄遊覧記」の1冊として公刊された。
- 『ひなの一ふし』 昭和5年9月5日 郷土研究社 校訂書 四六判 98頁（115頁）「鄙の一曲に就いて」（胡桃沢勘内）  
和書と覆刻本の2冊から成り、覆刻本に「校訂者の言葉」（1～2頁）を収めている。
- 『九州の鳥』 昭和5年10月8日 九州民俗学会 著書 菊判 20頁（一）序文なし  
表紙には「柳田國男著」、奥付には「編輯兼発行人 三松莊一」と記されている。
-

---

孔版。

『郷土史は如何に研究すべきか』昭和5年10月11日 四海書房 他者(四海民蔵)の編著書 菊判 474頁(480頁) 「序」(中山久四郎)

「郷土史研究の希望」(1～3頁)を、収めている。

『紀行文集 第二十二篇』昭和5年10月15日 博文館 校訂書 四六判 833頁(845頁)

「帝国文庫」の1冊として、公刊された。「解題」(1～11頁)を、付している。なお、本書は昭和54年10月30日に、「日本紀行文集成」の1冊として、東京の日本図書センターから復刊された。

『紀行文集 第二十二篇』昭和5年10月15日 博文館 校訂書 四六判 833頁(845頁)

前掲の『紀行文集 第二十二輯』の装飾本で、同一内容であるが天金を施すなど装丁を異にしている。「解題」(1～11頁)を付している。

『日本地理大系 奥羽篇』昭和5年11月3日 改造社 他者(山本三生)の編著書 四六倍判 392頁(一) 序文なし

「日本地理大系」の1冊として、公刊された。「雪の東北」(266～268頁)を、収めている。

『創価教育学体系 第一巻』昭和5年11月18日 創価教育学会(発売)・富山房(発売) 他者(牧口常三郎)の編著書 四六判 250頁(299頁) 「序」(田辺壽利), 「序」(新渡戸稲造), 「緒言」(著者)

「創価教育学体系」の1冊として、公刊された。「序」(目次には「文」と記されている1～6頁)を、収めている。

『郷土史は如何に研究すべきか』昭和5年12月18日 四海書房 他者(四海民蔵)の編著書 菊判 480頁(506頁) 「序」(中山久四郎)

奥付の書名は、「増補版〔郷土史は如何に研究すべきか〕」同年10月11日に公刊された、同名書の増補版。「郷土史の編集」「附録 郷土史研究参考文献略録」を増補している。「郷土史研究の希望」(1～3頁)を、収めている。

『嶽南史 第一巻』昭和6年1月10日 嶽南史刊行会 他者(鈴木覚馬)の編著書 菊判 1140頁(1174頁) 「自序」(鈴木覚馬)

「嶽南史」の1冊として、公刊された。「序」(1～5頁)を、収めている。なお、本書は「柳田國男の本棚」の1冊として、1998年11月26日に東京の大空社から復刊された。

『明治大正史 世相篇』昭和6年1月20日 朝日新聞社 編輯書 菊判 398頁(417頁) 「自序」(1～6頁)

「明治大正史」の1冊として、公刊された。なお「内容見本」が作成されているが、300字程の柳田の言葉が掲載されている。

『聴耳草紙』昭和6年1月25日 三元社 他者(佐佐木喜善)の編著書 菊判 582(597頁) 「凡例」(佐佐木喜善)

「序」(1～5頁)を、収めている。表紙に「柳田國男序 佐々木喜善著」、本扉

---

- 
- に「本書を柳田國男先生に捧ぐ 佐佐木喜善」と記されている。
- 『ふるさと』 昭和6年2月20日 沢田四郎作（印刷兼発行者）他者（沢田四郎作）の編著書 159x117 127頁（138頁）「自序」（沢田四郎作）、「後記」（贅川慶太郎）「小序」（「目次」には「序」と記されている 頁は付されていない）を、収めている。
- 『現代名士の教育革新論』 昭和6年7月10日 モナス 他者（齋藤和堂）の編著書 菊判 421頁（441頁）「序」（蘇峰迂人）、「緒言」（齋藤和堂）「義務教育の条件」（243～264頁）を、収めている。
- 『現代日本文学全集 第五十八篇』 昭和6年8月19日 改造社 共書 菊判 431頁（一）序文なし  
「現代日本文学全集」の1冊で、「新村出集・柳田國男集・吉村冬吉集・斎藤茂吉集」として公刊された。「柳田國男集」は、131～234頁。前掲の本全集第三十六篇と同様に、並製本と特装本とがある。
- 『簡約方言手帖』 （参考）昭和6年8月20日 郷土研究社 他者（東條操）の編著書 菊半裁判 121頁（122頁）「はしがき」（東條操）  
昭和3年6月20日に刊行された『方言採集手帖』を、単語数を減らすなど全面的に改訂したもの。
- 『尾張の方言 正篇』 昭和6年9月10日 土俗趣味社 他者（加賀治雄）の編著書 菊判 47頁（92頁）  
「序」（東條操・他）、「自序」（加賀治雄）、「後記」（加賀治雄）  
「序文」として「採集者と話主」（13～15頁）を、収めている。なお本書は続篇と共に、昭和50年2月15日に東京の国書刊行会から復刊された。
- 『郷土科学講座』 昭和6年9月18日 四海書房 監修書 菊判 302頁（304頁）序文なし  
「郷土科学講座」の1冊として、公刊された。「郷土科学に就いて」（5～12頁）、「郷土研究の将来」（13～32頁）を、収めている。柳田は本講座監修者の1人で、12冊から成る重厚な講座を目指し詳細な「内容見本」も作成されたが続刊は未刊で終わってしまった。なお「内容見本」によると、柳田は他に「郷土研究の意義と沿革」「郷土科学に於ける素材の研究」「地域的研究の要素」「食物及び調理の変遷」「道德律」「口頭伝承」「民謡」の主題で執筆することとなっていた。
- 『総合ジャーナリズム講座 XI』 昭和6年10月20日 内外社 他者（小沢正元）の編著書 菊判 303頁（一）序文なし  
「総合ジャーナリズム講座」の1冊として、公刊された。「世間話の研究」（169～186頁）を、収めている。
- 『日本農民史』 昭和6年12月14日 刀江書院 著書 四六判 187頁（192頁）“跋”（佐々木彦一郎）  
大正時代に刊行された同名の早稲田大学政治経済科講義録を、単行本として公刊したもの。なお、本書は昭和12年に改版された。それ以降の版には、「改版に際して」を付している。
- 『北安曇郡郷土誌稿 年中行事篇』 昭和6年12月15日 郷土研究社 他者（高田吉人）の編著書 四
-

- 
- 六判 205頁(248頁)「序」(高田吉人)  
「北安曇郡郷土誌稿」の1冊として、公刊された。「民間暦小考」(1～31頁)を、収めている。
- 『郷土研究十講』 昭和6年12月20日 日本青年館 著書 四六判 352頁(359頁)「再版に際して」(頁は付されていない)、「小序」(1～3頁)  
昭和3年4月28日に刊行された『青年と学問』の改訂版で、改訂再版に際し出版元の希望を容れて書名を改めたものである。
- 『夏期講習会講演集』 昭和7年3月5日 神宮皇学館 他者(神宮皇学館)の編著書 菊判 175頁(177頁)「はしがき」(神宮皇学館)  
「郷土史研究の方法」(「目次」には「郷土史」と記されている100～153頁)を、収めている。
- 『滋賀県方言集』 昭和7年3月10日 刀江書院 他者(大田栄太郎)の編著書 菊判 176頁(188頁)  
「凡例」(大田栄太郎)  
第2期「言語誌叢刊」の1冊として、公刊された。「序」(1～5頁)を収め、巻末に『蝸牛考』と同様に同人の連名で「『言語誌叢刊』発行趣旨」を収めている。なお、本書は「柳田國男の本棚」の1冊として、1998年8月6日に、東京の青空社から復刊された。
- 『北飛驒の方言』 昭和7年3月10日 刀江書院 他者(荒垣秀雄)の編著書 菊判 176頁(197頁)  
「自序」(荒垣秀雄)  
第2期「言語誌叢刊」の1冊として、公刊された。「序」(1～2頁)を収め、巻末に『蝸牛考』と同様に同人の連名で「『言語誌叢刊』発行趣旨」を収めている。なお、本書は「柳田國男の本棚」の1冊として、1998年8月6日に東京の青空社から復刊された。
- 『岡山県動植物方言図譜 鱗鱗部』 昭和7年3月20日(15日の上に黒ペンで線を引き20と書き改めである)中国民俗学会 他者(桂又三郎)の編著書 240x165 60頁(71頁)「自序」(桂又三郎)  
「序」(頁は付されていない)を、収めている。
- 『口承文芸大意』 昭和7年4月15日 岩波書店 著書 菊判 52頁(54頁)序文なし  
「岩波講座 日本文学」の1冊として、公刊された。
- 『福正統神都百物語』 昭和7年5月30日 古川書店 他者(松本時彦)の編著書 菊判 518頁(539頁)  
「改訂序」(松本時彦)、「小序」(森田実)、「跋」(中山朝之助)  
6名の「推薦文」を巻末に収め、柳田も「二つの新しい意義がある」(頁は付されていない)を寄せている。なお「扉」に記されている書名は「正統 神都百物語 改訂版」。本書は昭和47年12月1日に伊勢市の古川書店から、また1997年4月27日に、「柳田國男の本棚」の1冊として東京の青空社から復刊された。
- 『講特殊研究篇』 昭和7年8月12日 改造社 他者(山本三生)の編著書 菊判 451頁(455頁)  
序文なし
-

- 
- 「俳句講座」の1冊として、公刊された。「神釋と俳句」(275～288頁)を、収めている。
- 『北安曇郡郷土誌稿 第四輯 俗信俚諺篇』昭和7年9月25日 郷土研究社 他者(高田吉人)の編著書 四六判 366頁(404頁)「序」(高田吉人)、「卷末記」(一志茂樹)  
「北安曇郡郷土誌稿」の1冊として、公刊された。「序説 俚諺と俗信との関係」(1～30頁)を、収めている。
- 『日本文学講座 平安時代 下編』昭和7年9月25日 新潮社 他者(佐藤義亮)の編著書 菊判 414頁(416頁)序文なし  
同社から刊行された既刊の『日本文学講座』を再編集したもので、新編の「日本文学講座」の1冊として公刊された。「民謡の今と昔」(391～414頁)を、収めている。
- 『秋風帖』 昭和7年11月10日 梓書房 著書 四六判 231頁(233頁)「序」(1～15頁)  
巻末に、「柳田國男著作目録」を収めている。
- 『日本の伝説』 昭和7年11月15日 春陽堂 著書 162x110 204頁(207頁)「はしがき」(1～2頁)  
「春陽堂少年文庫」の1冊として、公刊された。昭和4年5月3日に刊行された、『日本神話伝説集』を改題・改版したものである。なお昭和11年5月10日に10版を出しているが、同じ日に装丁と文庫の番号を変え「春陽堂文庫」の10版、「山年文庫」の10版として同一書が出版されている。
- 『佐渡郷土文学選』 昭和7年12月1日 佐渡郷土研究会 他者(山本修之助)の編著書 四六判 197頁(235頁)「序文」(相馬御風)  
「鳥の極楽」(149～152頁)を、収めている。
- 『女性と民間伝承』 昭和7年12月15日 岡書院 著書 四六判 317頁(336頁)「序にかへて」(1～9頁)、「編者として」(早川孝太郎)
- 『山村語彙』 昭和7年12月20日 大日本山林会 編輯書 菊判 57頁(一)「序」(1頁)、「跋」(57頁)  
表紙の用紙を異にした、2種類の本がある。
- 『桃太郎の誕生』 昭和8年1月1日 三省堂 著書 四六判 577頁(608頁)「自序」(「目次」には「序」と記されている 頁は付されていない)
- 『大和の伝説』 昭和8年1月15日 大和史蹟研究会 他者(奈良県童話連盟・高田十郎)の編著書 四六判 299頁(346頁)「緒言」(高田十郎)  
「大和叢書」の1冊として、公刊された。「大和の人々に」(1～4頁)を、収めている。なお、本書は1998年6月30日に、「柳田國男の本棚」の1冊として東京の大空社から復刻(復刊)された。
- 『地名の話その他』 昭和8年1月25日 岡書院 著書 菊半裁判 207頁(210頁)「後記」(池上隆祐)
- 『小さき者の声』 昭和8年4月5日 玉川学園出版部 著書 文庫判 106頁(110頁)「序」(1～2頁)  
「玉川文庫」の1冊として、公刊された。表紙の著者名を、「柳田國夫」と誤記
-

- 
- している。
- 『昔話採集の栞』 昭和8年4月10日 梓書房 編輯書 菊判 88頁(90頁) 序文なし  
雑誌『旅と伝説』(通巻40号 昔話号)を、単行本としたもので、「昔話採集者の為に」(3～27頁)を収めている。
- 『東北の土俗』 昭和8年5月20日 一誠社 他者(佐藤吾一)の編著書 四六判 288頁(290頁)  
序文なし  
「東北と郷土研究」(101～124頁)を、収めている。昭和5年6月10日に刊行された同名書を、復刊したもの。
- 『土の香 創刊五周年記念』(参考) 昭和8年5月25日 土俗趣味社 他者(加賀紫水)の編著書 菊判 134頁(149頁) 序文なし  
雑誌『土の香』の創刊五周年を記念したもので、表紙に『土の香 創刊五周年記念』、本扉に『土の香 創刊五周年記念号 第五十号』と記されている。土俗編と方言編とから成り、単行書のようにも見受けられる。土俗編に「忌みと物忌の話」(1～18頁)を、収めている。孔版。
- 『十島図譜』 昭和8年6月1日 単美社他者(鹿児島県十島村役場)の編著書 159x234 袋綴じの和装本で31丁、「白野夏雲翁と十島村」(永井龍一)  
「序」(頁は付されていない)を、収めている。
- 『聴耳草紙』 昭和8年6月13日 中外書房 他者(佐々木喜善)の編著書 232x160 582頁(597頁) 「凡例」(佐々木喜善)  
「序」(1～5頁)を、収めている。昭和6年2月1日に刊行された『聴耳草紙』の新版。表紙に「柳田國男序 佐々木喜善著」、本扉に「本書を柳田國男先生に捧ぐ 佐々木喜善」と記されている。出版社と装丁を異にしているが、内容は昭和6年1月25日に発行された三元社版と同一である。
- 『退読書歴』 昭和8年7月20日 書物展望社 著書 四六判 316頁(326頁) 「○」(「目次」には「序」と記されている 頁は付されていない)  
巻末に、「著作目録」を付している。
- 『郷土教育講演集』 昭和8年7月20日 郷土教育連盟(発行)・刀江書院(発売) 他者(文部省普通学務局)の編著書 菊判 317頁(320頁) 「序」(文部省普通学務局)  
「地名の研究」(77～89頁)を、収めている。
- 『花月随筆』 昭和8年9月20日 富山房 他者(飯島保作)の編著書 菊判 630頁(657頁)  
「序」(佐佐木信綱・高野辰之)、「校訂の後に記す」(花岡茂三郎)  
「序」(5～10頁)を、収めている。
- 『山村民俗誌』 昭和8年11月13日 一誠社 他者(由中喜多見)の編著書 四六判 233頁(265頁)  
「自序」(田中喜多見)、「跋言」(田中喜多見)  
「序」(「目次」には「序文」と記されている 1～5頁)を収めている。
- 『山さと』 昭和8年11月20日 大瀧由次郎(発行者) 他者(外山且正)の編著書 四六判 191頁(195頁) “跋” (外山英策)
-



- 
- 「序」(1～11頁)を、収めている。
- 『石神問答』 昭和8年11月 石神問答複製本頒布会 197x121 287頁(315頁) “序文”(頁は付されていない)
- 明治43年5月20日に刊行された同名書を、復刻(復刊)したもの。孔版で、背文字は「イシカミ」、表紙裏に「白塔社版」と記されている。
- 『婚姻・誕生・葬礼』 昭和8年12月12日 一誠社 他者(萩原正徳)の編著書 菊判 533頁(一) 序文なし
- 雑誌『旅と伝説』の通巻61号(婚姻習俗号)と同67号(誕生と葬礼号)を合わせて単行本としたもので、「生と死と食物」(葬礼の部1～13頁)を収めている。なお頁は雑誌のままになっており、函には「柳田國男 折口信夫 喜田貞吉 孫晋泰 中山太郎 他数十氏共書」と記されている。
- 『備中土面子の図』 昭和8年12月15日 洗心齋 他者(水原岩太郎)の編著書 菊判 文12頁・図15頁 「序」(沼田頼輔)
- 「序」(ハ～ヘ頁)を、収めている。孔版。
- 『鼓村襍記』 昭和9年2月25日 古賀書店 他者(雨田光平)の編著書 四六判 362頁(370頁) 「鼓村のおもかげ」(蒲原有明)
- 「序」(34～44頁)を、収めている。
- 『秋田郷土叢話』 昭和9年3月5日 秋田県図書館協会 他者(細江省吾)の編著書 菊判 580頁(592頁) 「発刊の辞」(相野田弥平)
- 「秋田県と菅江真澄」(451～479頁)を、収めている。なお昭和54年3月8日に、東京の東洋書院から第二版(実態は復刻)が出版された。
- 『笹森儀助翁伝』 昭和9年3月5日 今泉書店 他者(横山武夫)の編著書 菊判 258頁(269頁) 「序」(佐々木新七)、「自序」(横山武夫)
- 「序」(「目次」には「序文」と記されている1～4頁)を、収めている。
- 『豊後方言集 第二輯』 昭和9年3月30日 大分県立第一高等女学校内国文会 他者(国文会)の編著書 菊判 61頁(70頁) 「例言」(編者)
- 「序」(1～6頁)を、収めている。
- 『国語学講習録』 昭和9年4月1日 岡書院 他者(手塚縫蔵)の編著書 菊判 201頁(204頁) 「序言」(手塚縫蔵)、「後記」(胡桃沢勘内)
- 「国語史論」(1～47頁)を、収めている。
- 『採集手帖』(参考) 昭和9年5月15日 郷土教育研究所 他者(比嘉春潮)の編著書 菊半裁判 200頁(206頁) 「趣意書」(無署名)
- 背に「郷土生活採集手帖」と記され、巻末に白紙10枚と罫紙10枚が付されている。なお、昭和10年と11年に改訂版が公刊された。
- 『日本の昔話』 昭和9年5月29日 春陽堂 著書 161x110 196頁(一) 「はしがき」(1～3頁) 奥付に記されている書名は、「【日本の昔話】前篇」。「春陽堂少年文庫」の1冊として、公刊された。昭和5年3月20日に刊行された、『日本昔話集(上)』を
-

---

改題・改版したものである。

- 『一目小僧その他』 昭和9年6月15日 小山書店 著書 四六判 434頁(464頁) 「自序」(1～8頁)  
なお昭和16年8月25日に第二版が公刊されたが、装丁を異にし、縦(8ミリ)  
横(5ミリ)共に小さくなっている。
- 『新語論』 昭和9年7月15日 明治書院 著書 菊判 65頁(一) 序文なし  
「国語科学講座」の1冊として、公刊された。
- 『民間伝承論』 昭和9年8月25日 共立社書店 著書 菊判 293頁(309頁) 「序」(1～10頁)、  
「巻末小記」(後藤興善)  
「現代史学大系」の1冊として、公刊された。柳田が記述した部分は僅かで、後  
藤興善によって纏められたものである。
- 『民間伝承論』 昭和9年8月25日 共立社 著書 菊判 293頁(309頁) 「序」「巻末小記」(後  
藤興善)  
前掲の『民間伝承論』の、単行本である。
- 『五島民俗図誌』 昭和9年11月10日 一誠社 久保田清と橋浦泰雄の共著 四六判 548頁(579頁)  
「自序」(久保田清)、「緒言」(橋浦泰雄)  
函と本扉に、「柳田國男序 久保田清・橋浦泰雄共著」と記されている。「序」(「目  
次」には「序文」と記されている1～5頁)を、収めている。
- 『秋田県と菅江真澄』 昭和9年 発行所名は記されていない 著書 四六判 27頁(一) 序文なし  
奥付は付されていないが、最終頁の最終行に、「秋田考古会誌第二卷第三号より  
転載」と記されている。同論考は柳田の「菅江真澄翁百年祭記念講演」に基づ  
いており、前掲の『秋田郷土叢話』に収載されているものと同文である。奥付  
や刊記等が付されていないため、便宜的にここに掲げておく。
- 『山村語彙(続編)』 昭和10年1月30日 大日本山林会 編輯書 菊判 40頁(一) 「小引」(頁は付  
されていない)
- 『国史と民俗学』 昭和10年2月14日 岩波書店 著書 菊判 52頁(一) 序文なし  
「岩波講座 日本歴史」の1冊として、公刊された。
- 『球陽外伝 遺老説伝』 昭和10年2月22日 学芸社 他者(鳥袋盛敏)の編著書 菊判 191頁(208頁)  
「序」(伊波普猷)、「訳者の言葉」(鳥袋盛敏)  
「序」(1～5頁)を、収めている。なお、本書は「柳田國男の本棚」の1冊と  
して、1998年6月30日に東京の大空社から復刊された。
- 『山村生活調査 第一回報告書』 昭和10年3月10日 他者(大間知篤三)の編著書 菊判 116頁(125  
頁) 序文なし  
「採集事業の一画期」(1～7頁)を、収めている。孔版。
- 『案山子考』 昭和10年3月10日 住吉土俗研究会 他者(横井照秀)の編著書 菊判 188頁(195  
頁) 「自序」(横井照秀)  
「案山子祭のこと」(1～11頁)を、収めている。孔版。
- 『土佐の方言』 昭和10年5月1日 春陽堂 他者(土井八枝)の編著書 四六判 265頁(294頁)
-

- 
- 「序」(東條操・寺石正路・吉村冬彦・甲藤義治・土井八枝)  
「序」(1～11頁)を、収めている。
- 『島原半島民話集』 昭和10年5月15日 他者(関敬吾)の編著書 四六判 325頁(349頁) 「序」(3～14頁)  
「序」(本文中では「採集期の問題」と記されている 3～14頁)。また函と扉には、「柳田國男序 関敬吾著」と記されている。なお、本書は「全国昔話記録」の1冊とし再編集され『島原半島昔話集』の書名で、1977年4月15日に東京の岩崎美術社から刊行された。
- 『ことばの講座 第二集』 昭和10年5月21日 日本放送出版協会 他者(和田利彦)の編著書 菊判 169頁(172頁) 「序」(和田利彦)  
「ことばの講座」の1冊として、公刊された。「家具に関する日本語」(1～15頁)、「感動詞の歴史」(157～169頁)を収めている。
- 『壱岐島昔話集』 昭和10年6月30日 郷土研究社 他者(山口麻太郎)の編著書 四六判 233頁(261頁) 「自序」(山口麻太郎)  
「諸国叢書」の1冊として、公刊された。「序」(1～8頁)を収めている。函と扉には、「柳田國男序 山口麻太郎著」と記されている。
- 『遠野物語 増補版』 昭和10年7月31日 郷土研究社 著書 菊判 417頁(433頁) 「後記」(折口信夫)  
明治43年6月14日に刊行された、同名書の増補版である。「再版覚書」(1～6頁)を付し、巻頭に刊本や稿本の原稿の写真を掲げている。
- 『郷土生活の研究法』 昭和10年8月18日 刀江書院 著書 四六判 333頁(356頁) 「序」(村落社会学会)、「編者のあとがき」(小林正熊)  
柳田が記述した部分は僅かで、編者によって纏められたものである。巻末に、「柳田國男著作目録」を付している。
- 『柿本人麿（参考）』 昭和10年10月20日 岩波書店 他者(齋藤茂吉)の編著書 菊判 328頁(365頁) 「序」(齋藤茂吉)  
昭和9年6月15日に刊行された『一目小僧その他』からの、引用文(284～291頁)を収めている。
- 『産育習俗語彙』 昭和10年10月30日 恩賜財団愛育会 橋浦泰雄との共書 119頁(126頁) 「序」(1～3頁)  
なお、本書は昭和50年10月10日に、東京の国書刊行会から復刊された。
- 『産育習俗語彙』 昭和10年10月30日 恩賜財団愛育会 著書 188x127 119頁(126頁) 「序」(1～3頁)  
装丁を改め著者を柳田とした、前掲書の別本である。
- 『日本民俗学研究』 昭和10年12月5日 岩波書店 編輯書 四六判 587頁(594頁) 「開白」(1～5頁)、「巻末に」(大藤時彦)  
「採集期と採集技能」(1～22頁)を、収めている。
- 『風位考資料』 昭和10年12月15日 国学院大学方言研究会 著書 菊半裁判 246頁(252頁)
-

- 
- 「序」(岡田武松),「おひがき」(今泉忠義 他8名)  
背文字には「柳田國男」と記されているが, 実態は柳田の論考を含む, 他者による編著書である。
- 『現代随筆全集 第八巻』昭和10年12月20日 金星堂 他者(福岡益雄)の編著書 四六判 478頁(494頁) 序文なし  
「現代随筆全集」の1冊として, 公刊された。「旅と故郷」(185～227頁)を, 収めている。なお, 抜刷を元にして柳田國男著『旅と故郷』と題した冊子がつくられている。
- 『地名の研究』 昭和11年1月18日 古今書院 著書 四六判 368頁(380頁) 「序」(1～4頁), 「あとがき」(山口貞夫)  
「あとがき」に, 「本書の編輯, 校正, 索引作製は小生に委せて頂いた」と記されている。
- 『山村生活調査 第二回報告書』昭和11年3月18日 発行所の記載なし 編輯書 菊判 134頁(138頁)  
「緒言」(1～5頁), 「後記」(無署名)
- 『採集手帖』(参考) 昭和11年4月15日 民間伝承の会 菊半截判 200頁(206頁) 「趣意書」(守随一)  
本扉と背には「郷土生活研究採集手帖」と記され, 巻末に白紙20枚と, 方眼紙4枚が付されている。
- 『日本犬の検討』昭和11年5月5日 犬の研究社 他者(犬の研究社)の編著書 260x200 写真80頁・本文130頁(214頁) 「巻頭言」(無署名)  
「日本犬随筆」の部に, 「村の犬, 送り狼」(92～95頁)を収めている。
- 『随筆読本』 昭和11年5月17日 三笠書房 他者(丸山林平)の編著書 四六判 383頁(395頁)  
「序」(丸山林平)  
「鳥の極楽」(222～225頁)を, 収めている。
- 『山の神とヲコゼ』 昭和11年8月1日 寧楽書院 著書 209x154 162頁(172頁) 「序」(1～4頁), 「おひがき」(鈴木裳三)  
巻末に, 「柳田國男著作目録」を付している。
- 『採集手帖』 昭和11年8月10日 民間伝承の会 編輯書(関敬吾との共編) 菊半截判 200頁(224頁)  
「昔話を愛する人に」(1～20頁)を, 収めている。本扉と背に「昔話採集手帖」と記され, 巻末に白紙17枚が付されている。
- 『諸国民謡精査』 昭和11年8月18日 東宛書房 他者(白鳥省吾)の編著書 四六判 520頁(533頁)  
「序」(白鳥省吾)  
「董の方言など」(1～8頁)を, 収めている。
- 『木曾民謡集』 昭和11年9月5日 原和海(著作兼発行者代表) 他者(原和海)の編著書 四六判 224頁(242頁) 「序」(原和海), 「巻末小記」(磯川準一)  
「序」(3～8頁)を, 収めている。なお, 本書は別刷りの「木曾民謡集 解説」
-

- 
- の冊子を付して、木曾教育会創立100周年記念出版として1985年3月2日に松本市の郷土出版社から復刻（復刊）された。
- 『信州随筆』 昭和11年10月5日 山村書院 著書 四六判 260頁(266頁) 「小序」(1～4頁)  
 なお、本書は「解説」(後藤総一郎)を付して、昭和61年8月5日に、松本市の郷土研究社から復刻（復刊）された。
- 『校長和田鼎先生追悼誌』 昭和11年10月20日(納本日) 故和田鼎先生追悼誌編輯取扱所 他者(故和田鼎先生追悼誌編輯委員会)の編著書 菊判 148頁(一) 「追悼誌編輯に就き」(故和田先生追悼誌編輯委員)  
 「一旧友の感懐」(35～37頁)を、収めている。
- 『譯耳のあか』 昭和11年10月23日 象文閣 他者(中山太郎)の編著書 四六判 266頁(257頁)  
 「巻頭数言」(中山太郎)  
 「塩の路」(2頁)を、収めている。
- 『九戸郡誌』 昭和11年11月3日 岩手県教育会九戸郡部会 他者(岩手県教育会九戸郡部会)の編著書 菊判 616頁(658頁) 「九戸郡誌の編纂を終へて」(佐川元本部長), 「序」(伊藤謹二), 「自序」(岩手県教育会九戸郡部会)  
 「序」(頁は付されていない)を、収めている。
- 『国語史 新語篇』 昭和11年12月5日 刀江書院 著書 四六判 214頁(218頁) 「序」(1～2頁)  
 「国語史」の1冊として、公刊された。
- 『日本鳥類生態学資料』 昭和12年2月5日 巢林書房 他者(川口孫治郎)の編著書 568頁(595頁)  
 「序」(川口孫治郎), 「跋」(川村多実二)  
 「序」(1～6頁)を、収めている。なお、本書は「柳田國男の本棚」の1冊として、1997年9月29日に東京の大空社から復刊された。
- 『民俗座談』 昭和12年2月25日 民間伝承の会 他者(守随一)の編著書 四六判 89頁(92頁)  
 「おひがき」(民間伝承の会)  
 表紙には、「第二回日本民俗学講習座談会記録」と付記されている。同講習会の柳田の発言が、詳細に記されている。
- 『婚姻習俗語彙』 昭和12年3月10日 民間伝承の会 大間知篤三との共書 四六判 339頁(349頁)  
 「序」(「目次」には「序文」と記されている1～5頁)を、収めている。なお、本書は昭和50年10月30日に、東京の国書刊行会から復刻された。
- 『山村生活の研究』 昭和12年6月10日 民間伝承の会 編輯書 菊判 562頁(567頁) 序文なし  
 「山立と山隊」(538～548頁)を収め、巻末に「経過報告」「調査地一覧表」「山村生活調査項目」等を付している。なお、本書は昭和50年6月30日に、東京の国書刊行会から復刊された。
- 『南島論叢』 昭和12年7月1日 沖縄日報社 他者(島袋全発)の編著書 菊判 457頁(462頁)  
 「はしがき」(伊波先生記念論文集編輯委員)  
 「玉依姫の問題」(1～22頁)を、収めている。
- 『分類農村語彙』 昭和12年7月1日 信濃教育会(発行)・信濃毎日新聞社(発売) 著書 四六
-

- 
- 判 417頁(427頁)「緒言」(1～5頁)  
扉には「柳田國男著 信濃教育会編」, 奥付には「著者 柳田國男」と記されている。また流布している後掲書は並製本であるが, 本書は上製本で造本も異にしている。定価は共に90銭。
- 『国語史 昔の国語教育』昭和12年7月10日 岩波書店 合書 菊判 61頁(合書では89頁)「緒言」(3～8頁), 「後記」(55～61頁)  
「岩波講座 国語教育」の1冊として, 『国語史』(安藤正次)と合冊で公刊された。なお, 抜刷に「昔の国語教育」の表紙を付した別本がある。
- 『分類農村語彙』昭和12年7月20日 信濃毎日新聞社 著書 四六判 417頁(427頁)「緒言」(1～5頁)  
表紙には「柳田國男著 信濃教育会編」, 奥付には「編纂者 信濃教育会」と記されている。奥付である最終頁を切取り, 別刷りした奥付頁を貼り付けて造本している。
- 『葬送習俗語彙』昭和12年9月20日 民間伝承の会 著書 四六判 233頁(241頁)「序」(「目次」には「序文」と記されている 頁は付されていない)  
なお, 本書は昭和50年10月30日に, 東京の国書刊行会から復刻された。
- 『越後方言考』昭和12年11月21日 高志社(発行所)・萬葉堂書店(発売所) 他者(小林存)の編著書 菊判 294頁(350頁)「序文」(新村出), 「序文」(東條操), 「あとがき」(著者)  
「序文」(5～8頁)を, 収めている。なお, 本書は「全国方言資料集成」の1冊として, 昭和50年1月25日に, 東京の国書刊行会から復刊された。
- 『採集手帖(沿海地方用)』(参考)昭和12年11月25日 民間伝承の会 編輯書 菊半截判 200頁(211頁)「緒言」(郷土生活研究所同人)  
巻末に, 白紙が35枚付されている。
- 『家族制度全集 史論篇第三卷 親子』昭和12年12月20日 河出書房 他者(河出孝雄)の編著書 四六判 393頁(395頁)序文なし  
「親方子方」(「目次」には「親方・子方」と記されている 89～124頁)を, 収めている。
- 『二戸の昔話集』昭和12年12月20日 発行所の記載なし 他者(菊池勇)の編著書 菊判 124頁(139頁)「自序」(菊池勇), 「後記」(菊池勇)  
『二戸の昔話』を読む(1～8頁)を, 収めている。
- 『日向馬関田の伝承』昭和12年12月30日 鹿児島民俗研究会 他者(植木範行)の編著書 190頁(196頁)  
「序」(頁は記されていない)を, 収めている。なお, 本書は「柳田國男の本棚」の1冊として, 1997年9月29日に東京の大空社から復刊された。
- 『文芸と民衆生活』昭和12年12月 第一高等学校 著書 菊判 26頁(一) 序文なし  
昭和12年6月18日に第一高等学校で行った講演原稿を, 印刷に付したもので
-

- ある。
- 『長門方言集』 昭和12年12月10日 防長文化研究会 他者(重本多喜津)の編著書 223x152 94頁(100頁)「凡例」(無署名),“跋”(小川五郎)  
「防長方言資料」の1冊として, 公刊された。「序」を, 収めている。なお, 本書は「全国方言資料集成」の1冊として, 昭和51年5月31日に東京の国書刊行会から復刊された。
- 『佐々木彦一郎遺稿と追憶』 昭和13年4月10日 白猫社 他者(佐々木梅)の編著書 四六判 393頁(399頁)「御挨拶に代へて」(佐々木梅)  
「境を歩む人」(379～384頁)を, 収めている。
- 『禁忌習俗語彙』 昭和13年4月15日 国学院大学方言研究会 著書 四六判 138頁(143頁)「追記」(国学院大学方言研究会)  
「序」(1～3頁)を, 収めている。なお, 本書は昭和50年10月30日に, 東京の国書刊行会から復刻された。
- 『好日紀行』 昭和13年4月25日 矢の倉書店 他者(大草実)の編著書 四六判 342頁(344頁)  
「あとがき」(大草実)  
背には「好日紀行-旅の随想集-」とある。「空中断片」(71～78頁)を, 収めている。なお, 本書には別装本がある。
- 『木綿以前の事』 昭和13年5月17日 創元社 著書 四六判 411頁(418頁)「自序」(1～5頁)  
「創元選書」の1冊として, 公刊された。
- 『服装習俗語彙』 昭和13年5月20日 民間伝承の会 編輯書 四六判 207頁(215頁)「序」(「目次」には「序文」と記されている 1～6頁)  
なお, 本書は昭和50年10月30日に, 東京の国書刊行会から復刻された。
- 『海村調査報告 第一回』 昭和13年6月24日 民間伝承の会 編輯書 菊判 69頁(一)「緒言」(郷土生活研究所同人)
- 『桂女資料』 昭和13年7月25日 大岡山書店 他者(名取壤之助)の編著書 菊判 351頁(366頁)「例言」(名取壤之助)  
「桂女由来記」(328～345頁)を, 収めている。
- 『町村誌編纂の栞』 昭和13年7月25日 石川県図書館協会 他者(石川県図書館協会)の編著書 菊判 113頁(126頁)  
「小序」(1～9頁)を, 収めている。
- 『本尊美翁追憶録』 昭和13年9月10日 本尊美翁追憶録編輯刊行会 他者(山本安之助)の編著書 236x163 301頁(309頁)「はしがき」(本尊美翁追憶録編輯実行委員会代表),  
「編集後記」(無署名)  
「大きな未完成」(259～261頁)を, 収めている。和装本。
- 『小学国語読本総合研究 卷二』 昭和13年9月15日 岩波書店 他者(藤村作)の編著書 菊判 237頁(243頁)序文なし  
初め「岩波講座国語教育」の1冊として公刊され, 改めて「小学国語読本総合

- 
- 研究」の1冊として刊行された。「テルテルバウズについて」(43～46頁)を、収めている。
- 『佐渡年中行事』 昭和13年9月20日 民間伝承の会 他者(中山徳太郎)の編著書 四六判 220頁(255頁)「あとがき」(中山徳太郎)  
「佐渡民間伝承叢書」の1冊として、公刊された。表紙には「柳田國男先生序 中山徳太郎・青木重孝共編」と記されている。  
「序」(1～14頁)を、収めている。なお、本書は元版に「佐渡年中行事調査標目」(中山徳太郎・青木重孝),「『佐渡年中行事』成立の経緯」(池田哲夫)を加えて、1999年7月25日に東京の高志書院から増補版が公刊された。
- 『小学国語読本総合研究 卷四』 昭和13年9月23日 岩波書店 他者(藤村作)の編著書 菊判 200頁(206頁)序文なし  
初め「岩波講座国語教育」の1冊として公刊され、改めて「小学国語読本総合研究」の1冊として刊行された。「参考(かぐやひめ)」(45～48頁),「ひなまつり」(177頁)を、収めている。
- 『分類漁村語彙』 昭和13年12月1日 民間伝承の会 倉田一郎との共書 四六判 388頁(456頁)  
「序」(「目次」には「序文」と記されている 1～9頁)  
なお、本書は昭和50年10月30日に、東京の国書刊行会から復刻された。
- 『昔話と文学』 昭和13年12月10日 創元社 著書 四六判 342頁(353頁)「序」(「目次」には「序文」と記されている 1～9頁)  
「創元選書」の1冊として、公刊された。
- 『ふりがな廃止論とその批判』 昭和13年12月22日 白水社 他者(白水社)の編著書 四六判 506頁(530頁)「後記」(白水社)  
「国語に対する山本有三氏の意見について」(156～157頁)を、収めている。
- 『歳時習俗語彙』 昭和14年1月25日 民間伝承の会 著書 四六判 703頁(765頁)「自序」(「目次」には「序文」と記されている 1～4頁)  
なお、本書は昭和50年10月30日に、東京の国書刊行会から復刻された。
- 『日本文化論纂』 昭和14年1月31日 拓文社 他者(大森志朗)の編著書 四六判 260頁(266頁)  
「あとがき」(大森志朗)  
「小鍋立て」(237～244頁)を、収めている。
- 『稗の未来』 昭和14年5月18日 農村更生協会 著書 四六判 23頁(合書では49頁)序文なし  
「稗叢書」の1冊として、公刊された。『稗と稲』(藤原相之助)と合書で刊行された別本がある。なお、両書の奥付は同一である。
- 『豊田先生農具の話』 昭和14年5月19日 和泉郷土文庫 他者(小谷方明)の編著書 菊判 和装本12丁 “解説”(沢田四郎作),「巻末に申し上げます」(小谷方明)  
「和泉郷土文庫叢書」の1冊である、『稿本 大阪府民具図録』の別冊として公刊された。「民具研究の将来に対する注文」(巻頭の8丁)を、収めている。限定
-



70部。孔版。

- 『稿本 大阪府民具図録』昭和14年5月19日 和泉郷土文庫 他者(小谷方明)の編著書 菊判 和装本12丁 「まへがき」(小谷方明), “解説”(沢田四郎作)  
前掲書の『柳田國男 農具の話』は『稿本 大阪府民具図録』との2冊から成っているが, 本書はその別刷で2冊を1冊に纏めたもの。限定30部。「民具研究の将来に対する注文」(巻頭の8丁)を, 収めている。孔版。
- 『居住習俗語彙』昭和14年5月20日 民間伝承の会 山口貞夫との編輯書 四六判 302頁(336頁)  
「序」(「目次」には「序文」と記されている 1~5頁)  
表紙には「柳田國男 山口貞夫共編」, 奥付には「著者 柳田國男」と記されている。なお, 本書は昭和50年10月30日に東京の国書刊行会から, 復刻された。
- 『峠』昭和14年8月5日 青木書店 他者(深田久弥)の編著書 199x157 517頁(523頁) 「編集後記」(深田久弥)  
「峠に関する二・三の考察」(37~46頁), 「勢至堂峠」(416~419頁)を, 収めている。なお, 昭和17年12月10日に普及版3版を公刊しているが, 186x137と版型が改められている。
- 『国語の将来』昭和14年9月15日 創元社 著書 四六判 406頁(412頁) 「著者の言葉」(1~4頁)  
「創元選書」の1冊として, 公刊された。
- 『全村学校叢書 第一輯』昭和14年9月25日 全村学校連盟 他者(香月秀雄)の編著書 菊判 86頁(87頁) 「序語」(松本学)  
「全村学校叢書」の1冊として, 公刊された。「村及部落に就て」(39~59頁), 「柳田先生への質疑応答」(59~71頁)を収めている。
- 『現代文章規範』昭和14年9月25日 悲凡閣 他者(菊池寛)の編著書 四六判 415頁(430頁)  
「序文」(菊池寛)  
「佐多へ行く路」(166~170頁), 「盆踊」(213~216頁)を収めている。なお, 本書は版を重ね昭和16年4月10日に16版を公刊している。
- 『狐猿隨筆』昭和14年12月17日 創元社 著書 四六判 283頁(291頁) 「自序」(1~6頁)  
「創元選書」の1冊として, 公刊された。
- 『安藤教授記念論文集』昭和15年2月25日 三省堂 他者(植松安)の編著書 菊判 1372頁(1444頁)  
“序文”(安藤教授還暦記念会)  
「方言の成立」(1044~1074頁)を, 収めている。
- 『日本農民史』昭和15年2月27日 刀江書院 著書 四六判 186頁(196頁) 「改版に際して」(1~3頁)  
昭和6年12月14日に刊行された同名書の, 訂正新版(通計12版)である。なお, 昭和17年12月12日に通計13版を公刊しているが, 同版には表紙とカバーを異にした2種類の本がある。
- 『雪国の春』昭和15年3月20日 創元社 著書 四六判 314頁(320頁) 「自序」(1~3頁)

- 
- 「創元選書」の1冊として、公刊された。昭和3年2月10日に刊行された、同名書の復刊である。
- 『秋風帖』 昭和15年3月30日 創元社 著書 四六判 160頁(177頁) 「自序」(「目次」には「序文」と記されている 1～14頁)  
「創元選書」の1冊として、公刊された。昭和7年11月10日に刊行された、同名書の復刊である。
- 『海南小記』 昭和15年4月15日 創元社 著書 四六判 299頁(310頁) 「自序」(「目次」には「序」と記されている 1～7頁), 「附記」(295～299頁)  
「創元選書」の1冊として、公刊された。昭和7年11月10日に刊行された、同名書の復刊である。
- 『食物と心臓』 昭和15年4月22日 創元社 著書 四六判 315頁(319頁) 「序」(1～2頁)  
「創元選書」の1冊として、公刊された。
- 『民謡覚書』 昭和15年5月20日 創元社 著書 四六判 416頁(426頁) 「自序」(1～8頁)  
「創元選書」の1冊として、公刊された。
- 『支那風俗綺談』 昭和15年8月25日 大東出版社 他者(井東憲)の編著書 四六判 291頁(296頁)  
「序文」(1～2頁)を、収めている。
- 『妹の力』 昭和15年8月29日 創元社 著書 四六判 404頁(415頁) 「序」(「目次」には「自序」と記されている 1～9頁)  
「創元選書」の1冊として、公刊された。
- 『伝説』 昭和15年9月5日 岩波書店 著書 新書判 180頁(186頁) 「自序」(1～2頁)  
「岩波新書」の1冊として、公刊された。
- 『標準語と国語教育』 昭和15年9月28日 岩波書店 他者(藤村作)の編著書 菊判 444頁(447頁)  
「刊行の辞」(藤村作)  
「国語教育学会叢書」の1冊として、公刊された。「東京語批判」(29～44頁)を、収めている。
- 『野草雑記』 昭和15年11月30日 甲鳥書林 著書 菊判 174頁(191頁) 「記念の言葉」(1～13頁)
- 『野鳥雑記』 昭和15年11月30日 甲鳥書林 著書 菊判 263頁(267頁), 序文なし
- 『日本の伝説』 昭和15年12月20日 大東出版社 著書 四六判 270頁(278頁) 「はしがき」(1～3頁)「再び世に送る言葉」(1～4頁)  
昭和4年5月3日に刊行された『日本神話伝説集』の、改題・新訂版である。なお、本書と同様に大東出版社を発売所として、昭和16年1月15日に発行された本があるが、奥付に「第10版発行」と明記されている。
- 『日本の伝説』 昭和15年12月20日 三国書房 著書 四六判 270頁(278頁) 「再び世に送る言葉」(1～4頁), 「はしがき」(1～3頁)  
前掲の『日本の伝説』と同一内容であるが、「序」に相当する箇所を異にしている。
-

- 
- 『菅江真澄翁<sup>著書  
生地  
伝記</sup>研究』昭和16年1月10日 典籍研究会 他者(服部聖多朗)の編著書 菊判 32頁(34頁) 「菅江真澄研究書誌にかへて－編輯余燼－」(服部聖多朗)  
「白井秀雄と其著述」(1～16頁)を、収めている。
- 『豆の葉と太陽』 昭和16年1月18日 創元社 著書 四六判 309頁(317頁)「自序」(1～6頁)  
「創元選書」の1冊として、公刊された。
- 『山崎珉平昔談』 昭和16年2月28日 山崎讓一(発行者) 他者(佐々木克子)の編著書  
240x163 164頁(168頁)「序」(中村明人),「後記」(佐々木克子)  
「跋 さゝやかなる昔」(159～164頁)を、収めている。題簽も柳田。和装。
- 『分類山村語彙』 昭和16年5月15日 信濃教育会 倉田一郎との編輯書 四六判 410頁(418頁)  
「序」(「目次」には「序文」と記されている 1～4頁)
- 『国民学術協会公開講座 第一輯』昭和16年6月8日 中央公論社 他者(雨宮庸蔵)の編著書 菊判 375頁(410頁)「序に代へて」(桑木巖翼)  
「涕泣史談」(343～369頁)を、収めている。
- 『食習採集手帖』 (参考)昭和16年6月30 民間伝承の会 他者(橋浦泰雄)の編著書 菊半截判 200頁(206頁)「緒言」(民間伝承の会)  
巻末に、白紙7枚が付されている。
- 『柱松考』 昭和16年7月1日 他者(山田隆夫)の編著書 菊判 117頁(118頁)「緒言」(山田隆夫)  
表紙に「尾芝古樟著 山田隆夫編」, 奥付に「著者 尾芝古樟」と記されている。  
尾芝古樟は柳田が雑誌『郷土研究』誌上で用いた変名。山田が柳田の承諾を得、  
研究用テキストとして復刻し少数を研究者・同学者に頒ったものである。孔版。
- 『倫理学 第七冊』 昭和16年7月10日 岩波書店 他者(岩波茂雄)の編著書 菊判 331頁(一)  
序文なし  
「岩波講座倫理学」の1冊として、公刊された。項目ごとに独立しており、巻初  
から巻末を通した頁は付されていない。「誕生と成年式」(1～36頁)を、収め  
ている。
- 『国語文化講座 国語問題篇』 昭和16年7月20日 朝日新聞社 他者(桜木俊晃)の編著書 菊判 368頁(373頁)「序」(朝日新聞社)  
「国語文化講座」の1冊として、公刊された。「標準語と方言」(244～264頁)を、  
収めている。
- 『尾瀬と日光』 昭和16年8月10日 山と溪谷社 他者(武田久吉)の編著書 四六判 348頁(一)  
「序に代へて」(武田久吉)  
「山と溪谷社選書」の1冊として、公刊された。表紙には「尾瀬と日光」, 奥付  
には「日光と尾瀬」と記されている。「南会津に於ける高倉宮御旧跡」(153～  
159頁)を、収めている。
- 『喜界島方言集』 昭和16年8月15日 中央公論社 他者(岩倉市郎)の編著書 菊判 326頁(340頁)  
柳田を編者とする「全国方言集」の1冊として、公刊された。「全国方言記録計
-

- 
- 画」(1～8頁),「喜界島方言集を第一編とした理由」(1～6頁)を,収めている。
- 『日本の昔話』 昭和16年9月25日 三国書房 著書 四六判 243頁(260頁)「新訂版の始めに」(1～5頁),「はしがき」(6～9頁)  
昭和5年3月20日に刊行された,『日本昔話集(上)』の,改題・新訂版である。造本や表紙は同一であるが,カバーは2つの種類がある。
- 『稗食の研究』 昭和16年10月10日 農村更生協会 他者(楠正克)の編著書 菊判 418頁(423頁)「序」(農村更生協会)  
「稗の未来」(191～213頁)を,収めている。
- 『国語教育の現状』 昭和16年11月1日 白水社 他者(大田行蔵)の編著書 四六判 222頁(一)序文なし  
「何をこの本は説いて居るか」(5～12頁)を,収めている。なお,本書は「あとがき」(岩下保)を付して国語問題協議会から,昭和54年2月15日に,復刻された。
- 『倫理学 第十二冊』 昭和16年11月10日 岩波書店 他者(岩波茂雄)の編著書 菊判 393頁(一)序文なし  
「岩波講座倫理学」の1冊として,公刊された。項目ごとに独立しており,巻初から巻末を通した頁は付されていない。「婚姻方式の変遷」(1～35頁)を,収めている。
- 『上山満之進 上巻』 昭和16年12月20日 成武堂 他者(小野幸吉)の編著書 菊判 1061頁(1085頁)  
「序」(後藤文夫)  
「法制局時代の上山氏」(103～115頁)を,収めている。
- 『石神問答』 昭和16年12月30日 創元社 著書 四六判 288頁(323頁)「再刊序」(1～7頁)  
「日本文化名著選」の1冊として,公刊された。明治43年5月20日に刊行された,同名書の新訂版である。
- 『奈良叢記』 昭和17年1月10日 駸々堂書店 他者(仲川明)の編著書 菊判 491頁(498頁)  
「緒言」(仲川明・森川辰蔵)  
「和州地名談」(17～28頁)を,収めている。
- 『蒜澤歳時記』 昭和17年1月31日 佐藤弟助(発行編纂人) 他者(赤川菊村)の編著書 菊判 658頁(694頁)「校閲を終りて」(赤川菊村)  
「序」(1～28頁)を,収めている。本書は1983年12月20日に,秋田市の無名舎出版から復刻(復刊)された。なお,復刻版の著者は「佐藤金重・佐藤平治」と記されている。
- 『こども風土記』 昭和17年2月27日 朝日新聞社 著書 四六判 93頁(100頁)「小序」(1～3頁)  
上製版の造本であるが,戦後昭和21年3月30日に刊行された再版は並製本に改められている。
- 『菅江真澄』 昭和17年3月6日 創元社 著書 四六判 252頁(260頁)「序」(1～3頁)
-

- 
- 「創元選書」の1冊として、公刊された。なお、昭和17年7月20日に刊行された第二版は、新たに「再版に際して」を付している。
- 『郷土史は如何に研究すべきか』 昭和17年3月20日 四海書房 他者（四海民蔵）の編著書 菊判 496頁（522頁）「序」（中山久四郎）  
 「郷土史研究に就いての希望」（1～3頁）を、収めている。本書は昭和5年12月18日に公刊された『増補版 郷土史は如何に研究すべきか』に更に二項目を加えて増補したものであるが、前書のことについては言及されていない。
- 『日本の伝説』 昭和17年3月30日 三国書房 著書 四六判 270頁（278頁）「再び世に送る言葉」（1～4頁）、「はしがき」（1～3頁）  
 昭和15年12月20日に同書房から刊行された、同名書の奥付を改めたものである。
- 『大隅肝属郡方言集』 昭和17年4月20日 中央公論社 他者（野村伝四）の編著書 210頁（233頁）  
 「序」（野村伝四）  
 「全国方言集」の1冊として、公刊された。「肝属郡方言集に題す」（1～6頁）、「全国方言記録計画」（1～8頁）を、収めている。なお、本書は新装改版の上、昭和52年11月30日に東京の国書刊行会から復刊された。
- 『学術の日本』 昭和17年4月20日 中央公論社 他者（桑木巖翼）の編著書 菊判 376頁（411頁）「序」（桑木巖翼）  
 「国民学術協会叢書」の1冊として、公刊された。「日本民俗学」（157～235頁）を、収めている。なお、主として大藤時彦の執筆に成った旨が、文中に明記されている。
- 『歌・ことば』 昭和17年4月25日 天理時報社 他者（土岐善麿）の編著書 四六判 309頁（317頁）「自序」（土岐善麿）  
 東北民謡巡礼の行を共にした、柳田・釈超空と土岐とで車中で行った「東北車中三吟」（298～309頁）を、収めている。
- 『方言覚書』 昭和17年5月30日 創元社 著書 四六判 409頁（419頁）「自序」（1～6頁）  
 「創元選書」の1冊として、公刊された。
- 『伊豆大島方言集』 昭和17年6月15日 中央公論社 編輯書 菊判 76頁（94頁）「編輯者の言葉」（1～8頁）、「全国方言記録計画」（1～8頁）  
 柳田を編者とする「全国方言集」の1冊として、公刊された。なお、本書は新装改版の上、昭和52年11月30日に東京の国書刊行会から復刊された。
- 『登山講座 第一巻』 昭和17年7月15日 山と溪谷社 他者（川崎隆章）の編著書 四六倍判 221頁  
 （一）序文なし  
 「地名考説」（87～89頁）を、収めている。
- 『桃太郎の誕生』 昭和17年7月20日 三省堂 著書 四六判 550頁（587頁）「自序」（1～3頁）、「改版に際して」（1～4頁）  
 昭和8年1月1日に刊行された、同名書の改版である。表紙が青色と白色の2
-

- 
- 色から成る本と、黄色の本との2種類がある。
- 『風位考資料』 昭和17年7月25日 明世堂 編輯書 四六判 401頁(419頁) 「序」(岡田武松), 「後記」(今泉忠義)  
昭和10年12月15日に刊行された『風位考資料』の増補版で、新たに「序-資料とその利用-」(1~9頁)を、収めている。
- 『磐城昔話集』 昭和17年7月31日 三省堂 編輯書 四六判 191頁(204頁) 「後記」(岩崎敏夫)  
「全国昔話記録」の1冊として、公刊された。「全国昔話記録趣意書」(関敬吾との連名)を、収めている。なお、「全国昔話記録趣意書」は「全国昔話記録」として刊行された『佐渡島昔話集』(昭和17年7月31日 鈴木棠三), 『島原半島昔話集』(昭和17年7月31日 関敬吾), 『紫波郡昔話集』(昭和17年12月15日), 『阿波祖谷山昔話集』(昭和18年1月25日 武田明), 『喜界島昔話集』(昭和18年1月25日 岩倉一郎)にも収められている。本記録集は、「日本昔話記録シリーズ」として、昭和48・49年に同社から再度出版された。
- 『日本民俗学入門』 昭和17年8月11日 改造社 関敬吾との共著 四六判 477頁(487頁) 「序」(1~7頁)  
柳田(分類配列)と関(執筆)の分担に成った旨が、明記されている。
- 『日本の伝説』 昭和17年8月20日(4版) 三国書房 著書 四六判 270頁(278頁) 「再び世に送る言葉」(1~4頁), 「はしがき」(1~3頁)  
本書は昭和15年12月20日に大東出版社から、昭和17年3月30日に三国書房から公刊されている。両書の刊記を初版、第3版とし、本書を第4版としたものであろうか。装丁は昭和17年3月の版と同一である。
- 『地を拓く』 昭和17年10月10日 警醒社 他者(別所梅之助)の編著書 四六判 325頁(337頁) 「まへ書き」(別所梅之助)  
「序」(1~6頁)。「柳田先生から跋として戴いたのを、此方が勝手に序にしました。(別所生)」との注記がある。なお、本書は「柳田國男の本棚」の1冊として、1997年9月29日に東京の大空社から復刊された。
- 『木思石語』 昭和17年10月20日 三元社 著書 四六判 269頁(277頁) 「自序」(1~4頁)
- 『武蔵野随筆』 昭和17年11月20日 文林堂双魚房 他者(松村英一)の編著書 四六判 359頁(361頁) 序文なし  
「双魚房良書」の1冊として、公刊された。「野中の清水」(11~29頁)を、収めている。
- 『小さき者の声』 昭和17年11月25日 三国書房 著書 四六判 203頁(209頁) 「自序」(「目次」には「序」と記されている 1~4頁)  
「女性叢書」の1冊として、公刊された。昭和8年4月5日に刊行された、同名書の増補・新訂版である。
- 『山島民譚集』 昭和17年11月30日 三国書房 著書 四六判 249頁(258頁) 「小序」(頁は記されていない), 「再版序」(1~5頁)
-

- 
- 「日本文化名著選」の1冊として、公刊された。大正3年7月4日に刊行された、同名書の新訂版である。
- 『海女記』 昭和17年11月30日 三国書房 他者(瀬川清子)の編著書 四六判 244頁(249頁) 「自序」(瀬川清子)
- 「女性叢書」の1冊として、公刊された。「序」(1～5頁)を、収めている。昭和18年9月20日に再版が刊行されたが、初版の最終頁の後に「漁村の農業」の項目を加えている。256頁(268頁)。なお、本書は「柳田國男の本棚」の1冊として、1998年6月30日に東京の大空社から復刊された。
- 『飛騨の女たち』 昭和17年12月8日 三国書房 他者(江馬三枝子)の編著書 四六判 250頁(255頁) 「自序」(江馬三枝子)
- 「女性叢書」の1冊として、公刊された。「著者に贈る言葉」(1～5頁)を、収めている。
- 『日本の祭』 昭和17年12月10日 弘文堂書房 著書 菊判 280頁(285頁) 「自序」(1～4頁)
- 『現代日本文明史 世相篇』 昭和18年1月16日 東洋経済新報社出版部 大藤時彦との共著 菊判 386頁(396頁) 「自序」(大藤時彦)
- 「現代日本文明史」の1冊として、公刊された。大藤時彦の執筆に成った旨が、明記されている。
- 『日本の四季』 昭和18年1月17日 月明会出版部 他者(山崎斌)の編著書 四六判 93頁(94頁) 序文なし
- 「黄金の小枝」(84～85頁)を、収めている。
- 『武蔵野隨筆』 昭和18年1月20日 靖文社 他者(福原信三)の編著書 四六倍判 159頁(一)
- 「序」(鷹司信輔), 「はしがき」(福原信三)
- 「序」(2～5頁)を、収めている。なお、本書は「柳田國男の本棚」の1冊として、1998年6月30日に東京の大空社から復刊された。
- 『周防大島方言集』 昭和18年2月5日 中央公論社 他者(原安雄)の編著書 菊判 119頁(128頁)
- 「全国方言集」の1冊として、公刊された。「序」(1～7頁)を、収めている。
- 『尾瀬と檜枝岐』 昭和18年2月11日 那珂書店 他者(川崎隆章)の編著書 菊判 704頁(726頁)
- 「序に代えて-尾瀬を紹介した入と文-」(廣瀬潔), 「編纂を了して」(川崎隆章)
- 「会津の木地屋」(127～136頁)を、収めている。
- 『蝸牛考』 昭和18年2月25日 創元社 著書 四六判 229頁(246頁) 「改訂版の序」(1～9頁), 「初版序」(1～5頁)
- 「創元選書」の1冊として、公刊された。昭和5年7月10日に刊行された、同名書の改訂版である。
- 『隨筆民話』 昭和18年3月10日 桑名文星堂 他者(高田十郎)の編著書 四六判 290頁(328頁) 「緒言」(高田十郎)
- 「隨筆民話序」(1～18頁)を、収めている。なお、本書は「柳田國男の本棚」の1冊として、1997年9月29日に東京の大空社から復刊された。
-

- 
- 『村の女性』 昭和18年3月30日 三国書房 他者(能田多代子)の編著書 四六判 260頁(一)  
「自序」(能田多代子)  
「女性叢書」の1冊として、公刊された。「序」(1～11頁)を、収めている。  
なお、本書は「柳田國男の本棚」の1冊として、1998年6月30日に東京の大空社から復刊された。
- 『昔話覚書』 昭和18年4月10日 三省堂 著書 四六判 290頁(299頁)「自序」(1～7頁)  
本書は上製本であるが、昭和21年9月20日に刊行された2版は並製本に改め、  
「再版の序」(1～3頁)を付している。
- 『登山講座 第五卷』 昭和18年4月20日 山と溪谷社 他者(川崎隆章)の編著書 四六倍判 221頁  
(一) 序文なし  
「登山講座」の1冊として、公刊された。「山人の道路」(23～25頁)を、収めている。
- 『神道と民俗学』 昭和18年4月28日 明世堂書店 著書 菊判 146頁(一)「自序」(1～3頁)、  
「跋」(三島安精)  
本書は上製本であるが、昭和21年10月25日に刊行された3版は並製本に改められている。
- 『族制語彙』 昭和18年5月5日 日本法理研究会 著書 四六判 253頁(284頁)「はしがき」  
(日本法理研究会)、「自序」(1～8頁)  
本書は、昭和50年10月30日に、東京の国書刊行会から復刻された。
- 『東筑摩郡誌別篇 第三 農村信仰誌 庚申念仏篇』 昭和18年7月10日 六人社 他者(大地蠶雄)の編著書 四六判 366頁(405頁)「序」(大地蠶雄)  
「東筑摩郡誌」の1冊として、公刊された。カバーに「柳田國男序」と記されている。「序」(1～15頁)を、収めている。
- 『南天莊集 井上通泰翁歌集』 昭和18年8月3日 三国書房 編輯書 菊判 570頁(574頁) "跋文"  
(1～4頁)
- 『岳』 昭和18年9月25日 山と溪谷社 他者(川崎隆章)の編著書 四六判 389頁(404頁)  
「編纂覚書」(川崎隆章)  
「序」(2～7頁)を、収めている。
- 『日本神話伝説の研究』 昭和18年9月25日 萩原星文館 他者(高木敏雄)の編輯書 菊判 570頁(574頁)  
「凡例」(岡村千秋)、「高木先生を憶ふ」(井狩英太郎)  
「序」(1～5頁)を、収めている。
- 『支那習俗』 昭和18年10月8日 三国書房 他者(大田陸郎)の編著書 四六判 213頁(一)  
「序」(1～4頁)を、収めている。なお、本書は「柳田國男の本棚」の1冊として、1997年9月29日に東京の大空社から復刊された。
- 『神道と民俗学』 昭和18年10月15日 明世堂書店 著書 菊判 146頁(一)「自序」(1～3頁)、  
「跋」(三島安精)  
昭和18年4月28日に刊行された、同名書の改訂版である。本書は上製本である。
-



- 
- るが、昭和19年4月20日に刊行された改訂再版は並製本に改められている。
- 『科学春秋』 昭和18年10月15日 力書房 他者(林蘂・藤島亥治郎)の編著書 四六判 399頁(408頁) 「序」(林蘂), 「序」(藤島亥治郎), 「跋」(荒木茂郎)  
「熙譚目録」(97～101頁)を、収めている。
- 『直入郡昔話集』 昭和18年12月10日 三省堂 編輯書 四六判 132頁(152頁) 「直入郡といふところ」(鈴木清美), 「後記」(鈴木清美)  
「全国昔話記録」の1冊として、公刊された。「編纂者の言葉」(1～9頁)を収めている。なお、「編纂者の言葉」は、「全国昔話記録」として刊行された『御津郡昔話集』(昭和18年12月10日 今村勝臣), 『壱岐島昔話集』(昭和18年12月25日 山口麻太郎), 『上閉伊郡昔話集』(昭和18年12月25日 佐々木喜善), 『南蒲原郡昔話集』(昭和18年12月30日 岩倉市郎), 『讃岐佐柳島志々島昔話集』(昭和19年3月15日 武田明), 『甌島昔話集』(昭和19年3月30日 岩倉市郎)にも、収められている。本記録集は「日本昔話記録シリーズ」として、昭和48・49年に、東京の三省堂から復刊された。
- 『伊予大三島北部方言集』 昭和18年12月25日 中央公論社 他者(藤原与一)の編著書 菊判 137頁(144頁) 「あとがき」(藤原与一)  
「全国方言集」の1冊として、公刊された。「序」(1～4頁)を、収めている。なお、本書は「全国方言資料」の1冊として、昭和52年11月30日に東京の国書刊行会から復刊された。
- 『国史と民俗学』 昭和19年3月15日 六人社 著書 四六判 243頁(249頁) 「自序」(1～5頁)  
「民俗選書」の1冊として、公刊された。昭和10年2月14日に刊行された同名書を大幅に増補したもの。昭和23年5月(日は記されていない)に刊行された第2版には、「第二版自序」を付している。
- 『和州祭礼記』 昭和19年3月20日 天理時報社 他者(辻本好孝)の編著書 菊判 460頁(480頁)  
「序」(1～11頁)を、収めている。
- 『高砂族パイワヌの民芸』 昭和19年4月5日 三国書房 他者(小林保祥)の編著書 四六判 190頁(206頁) 「自序」(小林保祥)  
「推薦者の一人として」(1～7頁)を、収めている。なお、本書は「柳田國男の本棚」の1冊として、1997年9月29日に東京の大空社から復刊された。
- 『能楽全集 第五卷』 昭和19年5月10日 創元社 他者(小林茂)の編著書 菊判 462頁(463頁)  
序文なし  
「能と力者」(235～252頁)を、収めている。
- 『雪国の民俗』 昭和19年5月20日 養徳社 三木茂との共著 四六倍判 295頁(一) 「あとがき」(三本茂)  
巻初から巻末を通した頁は、付されていない。なお、本書は昭和52年4月25日に、東京の第一法規出版から復刻(復刊)された。
- 『児やらひ』 昭和19年5月30日 三国書房 他者(大藤ゆき)の編著書 四六判 226頁(235頁)
-

- 
- 「自序」(大藤ゆき)  
「四鳥の別れ」(1～4頁)を、収めている。
- 『黒百合姫物語』 昭和19年6月10日 言霊書房 著書 菊判 99頁(105頁) 「はしがき」(藤原相之助)  
後、昭和49年5月25日に刊行された同名書の中で、「柳田國男著」としたことについて、柳田から異議が呈されたと、発行人の佐藤朔太郎が述懐している。これを受けたためか、原本の題箋の上に「柳田國男編」と記した題箋を貼ったものもある。ただし、奥付の「著者 柳田國男」はそのままである。
- 『史料としての伝説』 昭和19年6月20日 発行所は記されていない 著書 菊判 84頁(一) 「後記」(鷺尾三郎)  
柳田の古稀の祝いなどの記念として、鷺尾三郎が柳田の許諾を得て公刊したものである。
- 『八雲 第三輯』 昭和19年7月15日 小山書店 他者(川端康成)の編著書 A五判 369頁(371頁) 序文なし  
「家と文学」(85～105頁)を、収めている。
- 『日本民謡大観 第一編 関東篇』 昭和19年7月20日 日本放送出版協会 他者(金川義之)の編著書 四六判 385頁(399頁) 「はしがきと凡例」(日本放送協会業務局)  
「序」(頁は付されていない)を、収めている。
- 『地理と民俗』 昭和19年8月5日 六人社 他者(山口貞夫)の編著書 四六判 327頁(333頁) 「あとがき」(山口壽々栄)  
「序」(1～4頁)を、収めている。なお、本書は「柳田國男の本棚」の1冊として、1997年9月29日に東京の大空社から復刊された。
- 『火の昔』 昭和19年8月25日 実業之日本社 著書 菊判 216頁(226頁) 「自序」(1～2頁)  
本書は上製本であるが、昭和21年3月20日に刊行された再版は並製本に改められている。
- 『百穂手翰』 昭和20年4月30日 言霊書房 他者(富木友治)の編著書 200x315 92頁(116頁) 「例言」(富木友治), 「巻末記」(富木友治)  
表紙に「富木友治編 柳田國男序」と記されており、「平福百穂君と時代」(1～5頁)を収めている。和装本
- 『村と学童』 昭和20年9月30日 朝日新聞社 著書 四六判 182頁(194頁) 「はしがき」(1～5頁)
- 『笑の本願』 昭和21年1月20日 養徳社 著書 四六判 191頁(199頁) 「自序」(「目次」には「序」と記されている 4～8頁)
- 『先祖の話』 昭和21年4月15日 筑摩書房 著書 菊判 253頁(263頁) 「自序」(1～4頁)
- 『俳諧手引』 昭和21年6月15日 創元社 他者(高浜年尾)の編著書 B6判 135頁(136頁) 「あとがき」(高浜年尾)  
「百花文庫」の1冊として、公刊された。「明治神宮奉獻連句」(77～79頁)に、
-

- 
- 作品が収められている。
- 『毎日の言葉』 昭和21年7月1日 創元社 著書 四六判 148頁(154頁) 「自序」(1～3頁)  
「創元選書」の1冊として、公刊された。
- 『日本農民史』 昭和21年9月5日 東亜出版社 著書 四六判 183頁(192頁) 「改版に際して」  
(1～3頁)  
昭和15年2月27日に刊行された訂正新版と同一であるが、最終4頁の26行が  
削除されている。
- 『女の本 若き友におくる民俗学』 昭和21年9月30日 朝日新聞社 他者(女性民俗学研究会)の編  
著書 四六判 215頁(224頁) 「あとがき」(池田弘子)  
「序」(1～3頁)を、収めている。なお、本書は「柳田國男の本棚」の1冊と  
して、1998年6月30日に東京の大空社から復刊された。
- 『物語と語り物』 昭和21年10月10日 角川書店 著書 四六判 272頁(278頁) 「自序」(1～4頁)  
「飛鳥新書」の1冊として、公刊された。
- 『家閑談』 昭和21年11月15日 鎌倉書房 著書 四六判 228頁(234頁) 「自序」(1～5頁)
- 『新国学談 第一冊』 昭和21年12月10日 小山書店 著書 四六判 200頁(205頁) 「解説」(1～2頁)  
「新国学談」の1冊として、公刊された。本扉には「新国学談 第一冊 祭日考」、  
奥付と背には「祭日考」と記されている。
- 『百人一趣 上巻』 昭和22年1月1日 土俗趣味社 他者(土俗趣味社)の編著書 菊判 90頁(101  
頁) 「編輯後記」(加賀紫水)  
土俗趣味社創立20周年記念誌で、上下巻を合本して公刊された。「山帽子」(1  
～4頁)を、収めている。孔版。
- 『柳田國男 折口信夫 先生書簡』 昭和22年1月14日 岩手県立遠野中学校 他者(山下久男)の編著書 菊  
判 32頁(36頁) 「あとがき」(山下久男)  
柳田の書簡を、収めている。孔版。
- 『口承文芸史考』 昭和22年1月20日 中央公論社 著書 四六判 294頁(313頁) 「序」(1～9頁)
- 『桃太郎の誕生』 昭和22年2月20日 三省堂出版 著書 四六判 468頁(503頁) 「自序」(1～  
3頁), 「改版に際して」(1～3頁)  
昭和8年1月1日に刊行され、同17年7月20日に改版された同名書の新版で  
ある。
- 『山の人生』 昭和22年5月25日 実業之日本社 著書 四六判 287頁(299頁) 「刊行の言葉」  
(柳田國男先生著作集刊行会)  
「柳田國男先生著作集」の1冊として、公刊された。大正15年11月15日に刊  
行された同名書を、復刊したものである。
- 『分類農村語彙 上巻』 昭和22年5月30日 東洋堂 著書 四六判 287頁(301頁) 「増補版解説」(1  
～5頁), 「初版農村語彙自序」(7～12頁)  
昭和12年7月20日に刊行された同名書の増補版で、2分冊にして公刊された。  
なお、本書は昭和50年10月30日に、東京の国書刊行会から復刻された。
-

---

『日本民俗学入門 上巻』昭和22年5月30日 東洋堂 関敬吾との共著 四六判 235頁(243頁) 「序」(1～6頁)

昭和17年8月11日に刊行された同名書の復刊で、2分冊にして公刊された。

『新国学談 第二冊』昭和22年6月15日 小山書店 著書 四六判 236頁(244頁) 「解説」(1～4頁)  
「新国学談」の1冊として、公刊された。本扉には「新国学談 第二冊 山宮考」、奥付と背には「山宮考」と記されている。

『日本民俗学入門 下巻』昭和22年6月20日 東洋堂 関敬吾との共著 四六判 230頁(232頁) 「再刊の跋」(無署名)

昭和17年8月11日に刊行された同名書の復刊で、2分冊にして公刊されたものの下巻である。

『俳諧評釋』昭和22年8月10日 民友社 著書 菊判 311頁(315頁) 「はしがき」(1～4頁)

『信濃の祭』昭和22年9月15日 長野県農業会 他者(諸田盛男・須山計一)の編著書 250x345 画26頁・文26頁(55頁) 「発刊の言葉」(長野県農業会), 「序」(石井柏亭), 「画家の言葉」(須山計一)  
「序」(頁は付されていない)を、収めている。

『社会科の新構想』昭和22年10月10日 成城教育研究所 他者(成城教育研究所)の編著書 四六判 86頁(一) 「序」(無署名)

柳田と他者との座談を、収めている。

『地名の研究』昭和22年10月15日 実業之日本社 著書 四六判 418頁(430頁) 「自序」(1～5頁)

「柳田國男先生著作集」の1冊として、公刊された。昭和11年1月18日に刊行された、同名書を復刊したものである。

『民俗学新講』昭和22年10月31日 明世堂書店 他者(民俗学研究所)の編著書 四六判 296頁(300頁) 「序」(民俗学研究所同人)

「現代科学といふこと」(1～22頁)を、収めている。

『在宥威徳院』昭和22年11月7日 小井川静夫(発行者) 他者(著者小井川潤次郎・編者山下甚六)の編著書 177x128 89頁(一) 「自序」(小井川潤次郎)

「歌及び序」(1～13頁)を、収めている。孔版。和装本。

『新国学談 第三冊』昭和22年11月20日 小山書店 著書 四六判 254頁(一) 「解説」(1～4頁)  
「新国学談」の1冊として、公刊された。本扉には「新国学談 第三冊 氏神と氏子」、奥付と背には「氏神と氏子」と記されている。

『沖縄文化叢説』昭和22年12月20日 中央公論社 編輯書 菊判 342頁(344頁) 「編纂者の言葉」(1～4頁), 「あとがき」(鳥袋源七)

「尾類考」(313～339頁)を、収めている。

『火の鳥』昭和23年1月25日 彰考書院 他者(石田英一郎)の編著書 四六判 235頁(238頁) 「はしがき」(石田英一郎)

「世界昔ばなし文庫」の1冊として、公刊された。柳田は川端康成と共に監修者

---

- 
- をつとめ、「監修者のことば」(1～3頁)を収めている。なお、「監修者のことば」は同文庫として刊行された『りくんべつの翁』(金田一京助 昭和23年4月25日),『山の神とほうき神』(関敬吾 昭和23年6月15日),『家とさるとバラモンと』(河田清史 昭和23年7月10日),『ほら貝王子』(江尻英太郎 昭和23年9月15日),『金の燭台』(小川亮作郎・河崎珪一 昭和23年11月25日),『金と銀のさいころ』(服部四郎 昭和23年11月25日)にも収められている。
- 『信州随筆』 昭和23年2月1日 実業之日本社 著書 四六判 298頁(307頁) 「自序」(1～5頁)  
 「柳田國男先生著作集」の1冊として、公刊された。昭和11年10月5日に刊行された、同名書の復刊である。
- 『日本昔話名彙』 昭和23年3月1日 日本放送出版協会 監修書 菊判 323頁(357頁) 「序」(高野岩三郎)  
 「昔話のこと」(1～11頁)を、収めている。なお、本書は「復刊にあたって」(前田義徳),「改版の辞」(大藤時彦)を加えて、昭和46年12月20日に同出版協会から復刊(第2版)された。
- 『家閑談』 昭和23年4月1日 鎌倉書房 著書 四六判 228頁(234頁) 「自序」(1～5頁)  
 「鎌倉選書」の1冊として、公刊された。昭和21年11月15日に同社から刊行された同名書を、選書に加えたものである。
- 『時代ト農政』 昭和23年5月25日 実業之日本社 著書 四六判 320頁(338頁) 「自序」(1～10頁)  
 「柳田國男先生著作集」の1冊として、公刊された。明治43年12月8日に刊行された、同名書の復刊である。
- 『西は何方』 昭和23年6月10日 甲文社 著書 四六判 378頁(387頁) 「自序」(1～7頁)
- 『村のすがた』 昭和23年7月25日 朝日新聞社 著書 四六判 123頁(131頁) 「著者の言葉」(1～4頁)
- 『上毛の民俗』 昭和23年8月1日 煥乎堂 他者(上野勇)の編著書 四六判 74頁(77頁) “序文”(無署名)  
 「狸とムジナ」(1～9頁)を、収めている。
- 『十三塚考』 昭和23年8月25日 三省堂 堀一郎との共書 四六判 243頁(246頁) 「信仰と伝説-序にかへて-」(1～7頁),「跋文」(堀一郎)
- 『婚姻の話』 昭和23年8月30日 岩波書店 著書 四六判 312頁(一) 「まへがき」(1～4頁)
- 『木思石語』 昭和23年9月10日 実業之日本社 著書 四六判 299頁(307頁) 「自序」(1～4頁)  
 「柳田國男先生著作集」の1冊として、公刊された。昭和17年10月20日に刊行された、同名書の増補版である。
- 『分類農村語彙 上巻』 昭和23年9月30日 東洋堂 著書 四六判 287頁(301頁) 「増補版解説」(1～5頁),「初版農村語彙自序」(7～12頁)
-

- 
- 昭和22年5月30日に刊行された同名書の、増補版である。
- 『遠野物語』 昭和23年10月1日 文芸春秋新社 著書 四六判 312頁(322頁) 「序」(3～6頁), 「後記」(折口信夫)  
「文芸春秋選書」の1冊として、公刊された。昭和10年7月31日に刊行された、同名書(増補版)の復刊である。なお、表紙の意匠が異なる異装本がある。
- 『北国紀行』 昭和23年11月20日 実業之日本社 著書 四六判 325頁(330頁) 「自序」(1～4頁)  
「柳田國男先生著作集」の1冊として、公刊された。
- 『現代隨筆選集 第一卷』昭和23年11月20日 金星堂 他者(福岡益雄)の編著書 四六判 313頁(319頁) 序文なし  
同社から刊行された既刊の「現代隨筆全集」を再編集したもので、「現代隨筆選集」の1冊として公刊された。「旅と故郷」(ただし前掲作品中から2篇を除いている 285～313頁)を、収めている。『現代隨筆選集 第一集』(昭和25年1月25日 金星堂)という別本がある。
- 『分類農村語彙 下巻』昭和23年12月15日 東洋堂 著書 四六判 289頁(351頁) 序文なし  
昭和22年5月30日に刊行された同名書の、増補版である。上製本と並製本の、2種類の本がある。なお、本書は昭和50年10月30日に、東京の国書刊行会から復刻された。
- 『分類児童語彙 上巻』昭和24年1月15日 東京堂 著書 四六判 223頁(227頁) 「緒言」(1～3頁)  
下巻は、未刊。
- 『女性と民間伝承』昭和24年2月5日 実業之日本社 著書 四六判 280頁(289頁) 「再刊序」(1～3頁), 「序言」(1～9頁)  
「柳田國男先生著作集」の1冊として、公刊された。昭和7年12月15日に刊行された、同名書の復刊である。
- 『年中行事』 昭和24年3月10日 日東出版社 著書 四六判 71頁(一) 「著者の言葉」(1～2頁)  
通信省総務局教養課発行の「教養の書」の1冊として、公刊された。「著者略歴」の中で、「日本民族学会会長」と記し、族の文字を誤記している。ただし、民間伝承の会が日本民俗学会と改称して発足し、柳田が会長となったのは4月1日である。
- 『退読書歴』 昭和24年4月10日 実業之日本社 著書 四六判 362頁(372頁) 「自序」(1～4頁)  
「柳田國男先生著作集」の1冊として、公刊された。昭和8年7月20日に刊行された、同名書の復刊である。
- 『北小浦民俗誌』 昭和24年4月15日 三省堂出版 著書 四六判 162頁(172頁) 「各地民俗誌の計画について」(1～5頁), 「あとがき」(1～3頁)  
「日本民俗誌叢書」の1冊として、公刊された。なお、「各地民俗誌の計画につ
-

いて」は日本民俗誌として刊行された、『越前石徹白民俗誌』（宮本常一 昭和24年4月15日）、『北小浦民俗誌』（昭和26年3月20日）、『日間賀島民俗誌』（瀬川清子 昭和26年5月5日 本書以降の出版社は刀江書院）、『越前石徹白民俗誌』（昭和26年3月20日）、『檜枝岐民俗誌』（今野円輔 昭和26年7月5日）、『常陸高岡村民俗誌』（大間知篤三 昭和26年7月20日）、『美濃徳山村民俗誌』（桜田勝徳 昭和26年7月30日）、『黒河内民俗誌』（最上孝敬 昭和26年10月15日）、更に原稿は整っていたが書肆の閉鎖に合い出版に至らず後に改めて刊行された『二王子山麓民俗誌』（佐久間惇一 昭和39年3月25日 学生書房）にも収められている。

『海村生活の研究』 昭和24年4月20日 日本民俗学会 編纂書 菊判 472頁（486頁） 「海村調査の前途」（1～10頁）

なお、本書は「再刊にあたって」（国書刊行会）を加えて、昭和50年6月30日に東京の国書刊行会から復刊された。

『標準語と方言』 昭和24年5月10日 明治書院 著書 四六判 177頁（182頁） 「自序」（1～3頁）

『言葉のいろいろ』 昭和24年6月5日 寥科書房 著書 四六判 258頁（一） 「序にかえて」（伊東一夫・今井信雄）

「ワールド文庫」の1冊として、公刊された。実態は、編者の編纂に成ったものである。

『生活のさまざま』 昭和24年6月5日 寥科書房 著書 四六判 246頁（一） 「序にかえて」（伊東一夫・今井信雄）

「ワールド文庫」の1冊として、公刊された。「序にかえて」は前掲の『生活のさまざま』と同文である。なお、前掲書と同様に、実態は編者の編纂に成ったものである。

『祭のはなし』 昭和24年7月30日 三省堂出版 瀬川清子との共著 四六判 205頁（219頁） 「はじめに」（無署名）

「社会科文庫」の1冊として、公刊された。瀬川清子の、執筆に成るものである。

『民俗学の話』 昭和24年10月15日 共同出版社 他者（民俗学研究所）の編著書 四六判 199頁（203頁） 「はしがき」（民俗学研究所同人）

「吉日思想」（133～138頁）、「神道の原始形態（対談）」（165～180頁）を収めている。

『社会科の諸問題』 昭和24年11月10日 三省堂出版 他者（民俗学研究所）の編著書 四六判 140頁（141頁） 序文なし

「社会科叢書」の1冊として、公刊された。「文部省社会科関係者との座談会」（21～59頁）、「社会科教育をめぐる座談会」（61～94頁）、「社会科教育と民俗学についての座談会」（「目次」には「社会科教育と民俗学」と記されている 95～110頁）の発言を収めている。

『母の手毬歌』 昭和24年12月1日 芝書店 著書 181x174 180頁（185頁） 「あとがき」（176

- 
- ～180頁)  
「学友文庫」の1冊として、公刊された。
- 『遠野』 昭和24年12月10日 遠野町 他者(遠野町PTA連合会)の編著書 153頁(165頁) 「序」(三浦栄), 「小序」(坂本種芳), 「編集後記」(坂本生) 「序」(頁は記されていない)を、収めている。
- 『老読書歴』 昭和25年1月10日 実業之日本社 著書 四六判 330頁(342頁) 「自序」(1～6頁)  
「柳田國男先生著作集」の1冊として、公刊された。
- 『方言と昔他』 昭和25年1月20日 朝日新聞社 著書 四六判 266頁(299頁) 「序」(頁は付されていない)  
「朝日文庫」の1冊として、公刊された。書中に著作に関する、柳田自身の稿に成る「解題」を収めている。
- 『私の哲学』 昭和25年1月25日 中央公論社 他者(川島武宣)の編著書 四六判 323頁(一) 「発刊の辞」(川島武宣)  
「ひとびとの哲学叢書」の1冊として、公刊された。「村の信仰」(212～265頁)を、収めている。
- 『西はどっち－国語変遷の一つの例－』 昭和25年3月10日 甲文社 著書 四六判 378頁(387頁) 「自序」(1～7頁)  
副題が付されたことを除いて、書名や内容は昭和23年6月10日に同社から刊行された同名書と同一であるが、前書のことについては言及されていない。
- 『日本伝説名彙』 昭和25年3月10日 日本放送出版協会 監修書 菊判 468頁(487頁) 「序」(古垣鉄郎)  
「伝説のこと」(1～13頁)を、収めている。なお、本書は「復刊にあたって」(前田義徳), 「改版に際して」(大藤時彦)を加えて、昭和46年12月20日に、同出版協会から復刊(第2版)された。
- 『ふるさとの生活』 昭和25年3月10日 朝日新聞社 他者(宮本常一)の編著書 四六判 242頁(246頁) 「あとがき」(宮本常一)  
「旅と文章と人生」(頁は付されていない)を、収めている。
- 『神を助けた話』 昭和25年5月20日 実業之日本社 著書 四六判 218頁(230頁) 「再刊に際して」(1～7頁)  
「柳田國男先生著作集」の1冊として、公刊された。大正9年2月20日に刊行された、同名書の復刊である。
- 『現代日本の教養人』 昭和25年6月1日 実業之日本社 他者(辰野隆)の編著書 四六判 329頁(337頁) 「序」(辰野隆), 「後記」(石川道義)  
「南方熊楠」(175～182頁)を、収めている。なお、柳田も教養人の1人に選ばれており、沢田四郎作が執筆している。
- 『明治大正新詩選 上』 昭和25年6月15日 創元社 他者(日夏耿之助)の編著書 四六判 316頁(一)
-



- 
- 「序」(日夏耿之助),「後記」(無署名)  
創元選書の1冊として,公刊された。松岡國男の名で,「都の塵・花陰の歌」(98～100頁)を,収めている。
- 『民俗学研究 第一輯』昭和25年6月25日 日本民俗学会 他者(直江広治・堀一郎)の編著書 菊判 196頁(227頁) 「序」(日夏耿之助)  
「序文」(1～2頁),「神社のこと」(179～196頁)を,収めている。
- 『小さき者の声』 昭和25年7月15日 ジープ社 著書 四六判 203頁(209頁) 「自序」(「目次」には「序」と記されている1～3頁)  
昭和17年11月25日に刊行された,同名書の復刊である。
- 『日本の伝説』 昭和25年7月25日 ジープ社 著書 四六判 270頁(278頁) 「世に送る言葉」(1～4頁),「はしがき」(1～3頁)  
昭和15年12月20日に三国書房・大東出版社から刊行された,同名書の復刊である。
- 『日本の昔話』 昭和25年7月25日 ジープ社 著書 四六判 243頁(264頁) 「始めに」(1～5頁),「はしがき」(1～4頁)  
昭和16年9月25日に三国書房から刊行された,同名書の復刊である。三国書房版の「新訂版の始めに」と本書の「始めに」は冒頭の数語が異なっている。
- 『児やらひ』 昭和25年7月30日 ジープ社 他者(大藤ゆき)の編著書 四六判 220頁(229頁) 「自序」(大藤ゆき)  
昭和19年5月30日に刊行された,同名書の復刊である。「四鳥の別れ」(1～4頁)を,収めている。
- 『本邦離島村落の調査』 昭和25年7月 民俗学研究所 指導書 127x188 9頁(一)  
「趣旨」(1～2頁)を,収めている。
- 『離島採集手帳』 (参考) 昭和25年7月 民俗学研究所 他者(民俗学研究所)の編著書 四六判 196頁(一) 序文なし  
昭和25年から27年にかけて実施された,「本邦離島村落の調査研究」の採集手帳である。この調査では本手帳とは別に,上記の『本邦離島村落の調査-趣旨及び調査項目表-』が用意された。本手帳は罫線が引いてあるだけで,文字や頁等は記されていない。
- 『村の女性』 昭和25年8月20日 ジープ社 他者(能田多代子)の編著書 四六判 260頁(271頁) 「自序」(能田多代子)  
昭和18年3月30日に刊行された,同名書の復刊である。「序」(1～11頁)を,収めている。
- 『日本現代詩大系 第一巻』 昭和25年9月30日 河出書房 他者(山宮允)の編著書 四六判 481頁(487頁) 序文なし  
「日本現代詩大系」の1冊として,公刊された。雑誌『文学界』に掲載された作品中から,2篇の作品(435～436頁)を,収めている。
-

- 
- 『高嶋米峰自叙伝』 昭和25年11月15日 学風書院 他者(高嶋米峰)の編著書 四六判 432頁(一)  
「序」(下村海南),「自序」(高嶋米峰),「後記」(高橋春雄)  
「追憶」の部に,「新仏教のことなど」(151~155頁)を収めている。
- 『日本現代詩大系 第二巻』 昭和25年11月30日 河出書房 他者(日夏耿之助)の編著書 四六判 520頁(527頁)序文なし  
「日本現代詩大系」の1冊として, 公刊された。明治30年4月29日に刊行された『抒情詩』中に編んだ詞華集「野辺のゆきゝ」の全作品(219~231頁)と, 同31年1月5日の『山高水長』に収録された作品中から5篇の作品(311~313頁)を収めている。
- 『民俗学辞典』 昭和26年1月31日 東京堂 監修書 四六判 714頁(736頁)「序」(3~4頁)
- 『北小浦民俗誌』 昭和26年3月20日 刀江書院 著書 四六判 162頁(172頁)「各地民俗誌の計画について」(3~5頁)  
「日本民俗誌叢書」の1冊として, 公刊された。昭和24年4月15日に, 三省堂出版から刊行された同名書と同一である。
- 『香川県祭事習俗調査報告書』 昭和26年5月15日 香川県教育委員会 他者(香川県教育委員会)の編著書 菊判 44頁(一)「後記」(無署名)  
「サンバイ降しの日」(3~10頁)を, 収めている。
- 『水海道を何と読む』 昭和26年8月25日 常総文化研究会 他者(富村登)の編著書 四六判 54頁(57頁)「後記」(富村登)  
「常総文化」の1冊として, 公刊された。「附録 論叢 水海道古称」(45~50頁)を, 収めている。
- 『大白神考』 昭和26年9月1日 実業之日本社 著書 四六判 295頁(298頁)「序文-おしらせとニコライ・ネフスキー」(3~43頁)  
「柳田國男先生著作集」の1冊として, 公刊された。
- 『言語生活 上』 昭和26年9月5日 刀江書院 他者(国語教育講座編集委員会)の編著書 菊判 81頁(82頁)序文なし  
「国語教育講座」の1冊として, 公刊された。「言語生活」(1~22頁),「はなしことば」(23~35頁)を収めている。
- 『島の人生』 昭和26年9月15日 創元社 著書 四六判 170頁(178頁)「自序」(1~5頁)  
「創元選書」の1冊として, 公刊された。
- 『私の信条』 昭和26年10月5日 岩波書店 安部能成等との共著(実質は他者の編著書)新書判 212頁(216頁)「まえがき」(編集者)  
柳田は, 189~196頁に掲載されている。
- 『後狩詞記』 昭和26年10月10日 実業之日本社 著書 菊判 69頁(135頁)「開白」(折口信夫),「あとがき」(大藤時彦)  
柳田の喜寿を記念し, 柳田國男先生喜寿記念会が編纂し公刊した。明治42年3月15日に自費出版された同名書に,「柳田國男先生年譜」「柳田國男先生著作目
-

- 
- 録」を、併せて一書にしている。
- 『中世の文学』 昭和 26 年 12 月 15 日 河出書房 他者(齋藤清衛)の編著書 菊判 250 頁(一)序文なし  
「日本文学講座」の 1 冊として、公刊された。「史論・抄物-特に十訓抄について-」(171~176 頁)を、収めている。
- 『俳諧評釋』 昭和 26 年 12 月 30 日 創元社 著書 四六判 296 頁(299 頁)「はしがき」(1~3 頁)  
「創元選書」の 1 冊として、公刊された。昭和 22 年 8 月 10 日に刊行された、同名書の復刊である。
- 『こども風土記』 昭和 26 年 12 月 30 日 河出書房 著書 文庫判 149 (一)「小序」(3~6 頁)  
「市民文庫」の 1 冊として、公刊された。昭和 17 年 2 月 27 日に刊行された、同名書の復刊である。
- 『人神考序説』 昭和 27 年 3 月 1 日 発行所の記載なし 著書 四六判 38 頁(40 頁)「序」(頁は付されていない)
- 『東国古道記』 昭和 27 年 6 月 20 日 上小郷土研究会 著書 菊判 44 頁(46 頁)「はしがき」(1~2 頁)、「あとがき」(安間清)  
「上小郷土叢書」の 1 冊として、公刊された。
- 『現代短歌大系 第一巻』 昭和 27 年 8 月 5 日 河出書房 他者(小泉琴三)の編著書 四六判 442 頁(451 頁)序文なし  
「現代短歌大系」の 1 冊として、公刊された。明治 42 年 4 月 3 日に刊行された『松楓集』に収載された作品中から、10 句の作品(210~211 頁)を収めている。
- 『母の手毬歌』 昭和 27 年 10 月 5 日 ポプラ社 著書 四六判 250 頁(一)「あとがき」(大間知篤三)  
「知識文庫」の 1 冊として、公刊された。昭和 24 年 12 月 1 日に刊行された、同名書の増補版である。なお、背と表紙カバーには「少年少女知識文庫」と記されている。
- 『なぞとことわざ』 昭和 27 年 10 月 30 日 筑摩書房 著書 四六判 260 頁(269 頁)序文なし  
「中学生全集」の 1 冊として、公刊された。巻末に、「読者のために」(高藤武馬)を付している。柳田は、同全集の監修者であった。
- 『古典の新研究』 昭和 27 年 10 月 30 日 角川書店 他者(松尾三郎)の編著書 菊判 360 頁(363 頁)  
「国学院大学創立七十周年記念論文集序」(石川岩吉)、「後記」(松尾三郎)  
「古典と国語」(5~13 頁)を、収めている。
- 『神樹篇』 昭和 28 年 3 月 10 日 実業之日本社 著書 四六判 369 頁(373 頁)「まへがき」(編者)  
「柳田國男先生著作集」の 1 冊として、公刊された。
- 『現代日本の百人』 昭和 28 年 4 月 25 日 文芸春秋新社 他者(田村茂)の編著書 B5 判 103 頁(111 頁)「撮影後記」(田村茂)
-

- 
- 記事または談話と肖像写真が見開きになっており、頁は記事頁にのみ付されている。柳田の談話と肖像写真は、15頁に掲載されている。
- 『能登文集』 昭和28年5月1日 石川県観光連盟 他者（笹川準治）の編著書 126x182 46頁（47頁）  
「能登の海」（28頁）を、収めている。柳田の肩書きを、文学博士と誤記している。
- 『社会科教育法』 昭和28年6月1日 実業之日本社 和歌森太郎との共著 四六判 199頁（202頁）序文なし  
和歌森太郎の、執筆に成るものである。なお、本書は「実業之日本社 教科用教科書 柳田国男『日本の社会』」の復刻の一環として、昭和60年11月25日に東京の第一書房から復刻された。
- 『鹿角方言考』 昭和28年6月1日 鹿角方言刊行会 他者（大里武八郎）の編著書 四六判 291頁（302頁）「序」（兼常清佐）、「はしがき」（大里武八郎）  
「小序」（1～3頁）を、収めている。なお、本書は「補遺一・補遺二・附一・附二・附三」と「あとがき」（子息・斉藤千代）を加え、背文字を「かつぬ方言考」と改め（本扉・奥付・函の表記は変更されていない）、昭和49年10月1日に東京のBOC出版部から改訂増補版が刊行された。
- 『不幸なる芸術』 昭和28年6月10日 筑摩書房 著書 四六判 263頁（265頁）序文なし
- 『年中行事図説』 1953年6月10日 岩崎美術社 他者（民俗学研究所）の編著書 四六倍判 286頁（292頁）  
「序」（頁は付されてていない）を、収めている。
- 『能楽全書 第四巻』 昭和28年8月30日 創元社 他者（野上豊一郎・三宅襄）の編著書 菊判 240頁（241頁）序文なし  
同社から刊行された既刊の「能楽全書」を再編集したもので、新編の「能楽全書」の1冊として公刊された。「能と力者」（133～143頁）を、収めている。
- 『万葉集大成 民俗篇』 昭和28年10月31日 平凡社 他者（下中弥三郎）の編著書 菊判 389頁（391頁）「民俗篇跋」（高木市之助）  
「民謡性・その他」（本文中では「民謡性、その他」と記されている 柳田と森本治吉・堀一郎との対談 357～386頁）を、収めている。
- 『初瀬とこれさまと五反田節』 昭和28年11月3日 川崎郷土史研究会 他者（伊藤葦天）の編著書 172x125 59頁（一）「序」（金刺不二太郎）、「跋」（伊藤葦天）  
「榎戸懐古」（44～57頁）を、収めている。
- 『新嘗の研究 第一輯』 昭和28年11月23日 創元社 他者（にひなめ研究会）の編著書 菊判 256頁（一）「はしがき」（三笠宮崇仁）、「あとがき」（松平齊光）  
「新嘗の研究」の1冊として、公刊された。「稲の産屋」（11～60頁）を、収めている。
- 『つきもの持ち迷信の歴史的考察 狐持ちの家に生まれて』 1953年11月30日 柏林書房 他者（速水保孝）の編著書 四六判 206頁（一）「序」（恒松安夫）、「あとがき」（速水保孝）
-

---

「序」(1～8頁)を収めている。

『現代隨筆全集 第一卷』昭和29年1月30日 創元社 笠信太郎との合書 四六判 439頁(444頁) 序文なし

「柳田國男集」(7～228頁)と「笠信太郎集」(229～439頁)とから成る。「柳田國男集」の巻末に「年譜」と「解説」(豊川昇)を付している。

『美しい国語・正しい国字』昭和29年2月20日 河出書房 他者(武藤辰男)の編著書 新書判 194頁(一)「編集者のことば」(武藤辰男),「あとがき」(日本コトバの会運営委員会)

「河出新書」の1冊として、公刊された。「標準語の話」(8～23頁)を、収めている。

『拾樵雑話 稚狭考』1954年3月30日 福井県立図書館 他者(福井県立図書館・郷土誌懇談会)の編著書 菊判 796頁(818頁)「刊行の辞」(千田専平)

「序-県外一読者の喜びと願ひ-」(3～10頁)を、収めている。

『明治文化史 風俗編』昭和29年9月30日 洋々社 編纂書 菊判 591頁(611頁)「後記」(587～591頁)

「明治文化史」の1冊として、公刊された。

『国民文学と言語』昭和29年10月15日 河出書房 他者(竹内好)の編著書 新書判 167頁(一)「あとがき」(日本コトバの会運営委員会)

「河出新書」の1冊として、公刊された。「日本における新造語の問題」(138～151頁)を、収めている。

『民俗学手帖』昭和29年10月25日 古今書院 他者(民俗学研究所)の編著書 四六判 323頁(一)「採訪の新らしい意味」(1～3頁)

「民俗選書」の1冊として、公刊された。「村の個性」(3～12頁),「感覚の記録」(13～16頁),「セビラの方法」(17～20頁)を、収めている。

『月曜通信』昭和29年12月15日 修道社 著書 四六判 241頁(一)「著者の言葉」(1～4頁) 巻末に、『水曜手帖』の近刊予告が出ている。同書は未完で終わった。

『日本人』昭和29年12月15日 毎日新聞社 編纂書 四六判 285頁(295頁)「あとがき」(284～285頁)

「毎日ライブラリー」の1冊として、公刊された。「日本人とは」(1～13頁),「家の観念」(33～57頁)の項を、執筆している。

『柳田國男集 12』昭和30年1月15日 筑摩書房 著書 菊判 422頁(一) 序文なし

「現代日本文学全集」の1冊として、公刊された。巻末に「柳田さんのこと」(井伏鱒二),「解説」(亀田純一郎),「年譜」を付している。

『猫』昭和30年3月15日 中央公論社 有馬頼義等との合書 新書判 191頁(一) 序文なし

「どら猫観察記」(165～177頁),「猫の島」(178～191頁)を収めている。なお、本書は2004年7月25日に、新たに創作デザインを加えて同社から復刊された。

---

- 
- 『東筑摩教育会七十周年記念誌』昭和30年3月30日 東筑摩教育会 他者（記念誌編集委員会）の編著書 A5判 132頁（133頁）「折口先生短歌」（折口信夫）、「巻頭言」（兄玉武干代）、「後記」（編集委員会）  
「郷土研究と東筑摩教育会の思い出」（38～45頁）を、収めている。
- 『日本民族図録』昭和30年4月20日 朝日新聞社 監修書 四六倍判 350頁（一）「序」（1～3頁）  
「図録シリーズ」の1冊として、公刊された。巻初から巻末を通した頁は、付されていない。
- 『学年別 日本のむかし話』昭和30年6月5日 実業之日本社 監修書 A5判 「監修者のことば—父兄と教師の方々に—」（頁は付されていない）  
同日に、1年生から6年生までの6冊が公刊された。頁数は、各冊150～160頁。
- 『年中行事図説』1955年6月15日 岩崎書店 監修書 四六倍判 286頁（292頁）「序」（頁は付されていない）  
「図説全集」の1冊として、公刊された。1953年6月10日に同書店から刊行されたものと同ーであるが、前書のことは触れられていない。
- 『総合日本民俗語彙 第一巻』昭和30年6月30日 平凡社 監修書 四六倍判 477頁（491頁）「序」（1～6頁）、「編纂の趣旨」（7～10 無署名）  
刊行に先立って作成された「内容見本」に、680字程の監修者の言葉が掲載されている。なお、本書は昭和37年4月1日を発行日とする版がある。改訂版が昭和45年10月30日、昭和52年9月20日に、同社から公刊された。
- 『日本語さまざま』昭和30年7月28日 筑摩書房 他者（西尾実）の編著書 新書判 179頁（一）「はしがき」（西尾実）  
「どうもありがとう」（9～15頁）を、収めている。
- 『年中行事覚書』昭和30年10月5日 修道社 著書 180x120 238頁（一）「著者の言葉」（1～2頁）  
「現代選書」の1冊として、公刊された。
- 『祭の話』昭和30年11月5日 三省堂 瀬川清子との共書 新書判 169頁（176頁）「まえがき」（著者1～2頁）  
「三省堂百科シリーズ」の1冊として、公刊された。昭和24年7月30日に同社から刊行された、『祭のはなし』の字句を改めたものである。
- 『磐城北神谷の話』1955年12月10日 日本常民文化研究所 他者（高木誠一）の編著書 A5判 140頁（143頁）「追記」（岩崎敏夫）  
「常民文化研究」の1冊として、公刊された。「第二部 民俗書簡集 附答」（60～71頁）に、高木に宛てた、柳田の書簡が収められている。
- 『柳田國男先生 葬制の沿革について』昭和30年12月15日 岡山民俗学会 著書 四六倍判 24頁（26頁）「はしがき」（土井卓治）  
『人類学雑誌』（第500号記念特別号）に掲載した論考を、岡山民俗学会が柳田の許諾を得て復刻したものである。
- 『稲の日本史』昭和30年12月20日 農林協会 他者（盛永俊太郎）の編著書 四六判 256頁（264
-

- 
- 頁)「まえがき」(盛永俊太郎),「あとがき」(小泉幸一)  
「稲作史研究叢書」の1冊として, 公刊された。柳田の2つの発表「コンモンインテレストとしての稲」(1~78頁),「稲と水」(79~149頁)を, 収めている。  
なお, 上製本と並製本の2つの本がある。
- 『新たなる太陽』 昭和31年1月1日 修道社 著書 180x120 203頁 (一) 序文なし  
「現代選書」の1冊として, 公刊された。
- 『稲の日本史』 昭和31年1月10日 農林省農業総合研究所 他者(盛永俊太郎)の編著書 四六判 256頁(264頁)「まえがき」(盛永俊太郎),「あとがき」(小泉幸一)  
前掲書と同一書であるが, 農林省農業総合研究所から刊行されたものである。
- 『新俳句歳時記(一)春の部』 昭和31年2月5日 光文社 他者(山本健吉)の編著書 新書判 283頁 (一)「編者のことば」(山本健吉)  
「新俳句歳時記」の1冊として, 公刊された。「『新俳句歳時記』に寄せて」(5~8頁)を, 収めている。
- 『年中行事覚書』 昭和31年2月10日 修道者 著書 四六判 238頁(一)「著者の言葉」(1~2頁)  
同社から昭和30年10月5日に刊行された, 同名書を単行本として刊行したものである。
- 『こども文集 第一集』 昭和31年3月20日 東京書籍 他者(東京教育研究所)の編著書 A5判 128頁 (一)  
東京教育研究所の「こども文集」の1冊として, 公刊された。「はじめのことば 募集作品を前にして」(頁は付されていない)を, 収めている。
- 『日本語を愛する人に』 1956年5月30日 三光社 他者(太田行蔵)の編著書 四六判 222頁 (一)  
「あとがき」(太田行蔵)  
「にがい祝詞」(67~71頁)の中に, 柳田の祝辞を収めている。
- 『ことばの講座 第2巻 これからの日本語』 昭和31年7月15日 東京創元社 他者(石黒修ほか)の編著書 B6判 281頁 (一) 序文なし  
「ことばの講座」の1冊として, 公刊された。「聞きことばの将来」(205~215頁)を, 収めている。
- 『新版 毎日の言葉』 昭和31年7月31日 創元社 著書 四六判 170頁(185頁)「新版自序」(頁は付されていない),「旧版自序」(頁は付されていない)  
「創元選書」の1冊として, 公刊された。同社から昭和21年7月1日に刊行された, 同名書を増補したものである。
- 『峠と高原』 昭和31年9月1日 河出書房 他者(藤木九三・川崎隆章)の編著書 B6判 191頁 (一) 序文なし  
「登山全書」の「随想篇1」として, 公刊された。「山の彼方」(7~12頁)を, 収めている。
- 『夜泣石の話』 昭和31年9月30日 筑摩書房 他者(小池直太郎)の編著書 四六判 204頁(208頁)「あとがき」(大月松二)
-

- 
- 「序」(1～2頁)を、収めている。
- 『山の風俗誌』 昭和31年10月10日 河出書房 他者(藤木九三・川崎隆章)の編著書 B6判 193頁 (一)序文なし  
「登山全書」の「随想篇2」として、公刊された。「山村民俗随談」(7～12頁)を、収めている。
- 『鈴木重光先生古稀記念文集 神奈川県民俗』 昭和31年11月3日 ひでばち民俗談話会 他者(中村亮雄・安西勝・小島瑛礼)の編著書 B5判 30頁 (一)「編集後記」(中村亮雄)長谷川一郎稿の「内郷村調査の思い出」中に、柳田の「相州内郷村話(某会席上にて記録の一節抜萃)」と「柳田先生書翰(其一)」「柳田先生書翰(其二)」(3～4頁)を収め、註を付している。
- 『野草雑記』 昭和31年11月30日 甲鳥書林 著書 菊半截判 174頁(191頁)「記念の言葉」(1～13頁)  
昭和15年11月30日に刊行された、同名書の復刊。ただし、前書のことは触れられていない。次頁の書と共に函に入れて公刊されたもので、本書に刊記はなく次書の奥付によった。
- 『野鳥雑記』 昭和31年11月30日 甲鳥書林 著書 菊半截判 262頁(266頁)序文なし  
昭和15年11月30日に刊行された、同名書の復刊。ただし、前書のことは触れられていない。
- 『福岡三九郎の話』 昭和31年12月15日 筑摩書房 他者(胡桃沢勘内)の編著書 四六判 193頁(204頁)「あとがき」(今井武志)  
「序」(1～3頁)を、収めている。
- 『妖怪談義』 昭和31年12月25日 修道社 著書 180xI20 252頁 (一)「自序」(1～8頁)  
「現代選書」の1冊として、公刊された。
- 『富士北麓昔話集』 昭和32年1月10日 山梨民俗の会 他者(土橋里木)の編著書 四六判 281頁(297頁)「あとがき」(土橋里木)  
「甲斐民俗叢書」の1冊として、公刊された。「序 味噌買橋」(頁は付されていない)を、収めている。
- 『問答有用 夢声対談集 Ⅷ』 昭和32年2月28日 朝日新聞社 他者(李家正文)の編著書 四六判 334頁(349頁)序文なし  
「夢声対談集」の1冊として、公刊された。昭和22年から『週刊朝日』誌上で連載された徳川夢声の対談「問答有用」から、33名を収めている。柳田の項は、201～211頁。
- 『第二 稲の日本史』 昭和32年3月1日 農林協会 他者(盛永俊太郎)の編著書 四六判 247頁(254頁)「まえがき」(東畑精一)、「あとがき」(小泉幸一)  
「稲作史研究叢書」の1冊として、公刊された。柳田の発言が、全編を通して記されている。
- 『第二 稲の日本史』 昭和32年3月31日 農林省農業総合研究所 他者(盛永俊太郎)の編著書 四
-



- 
- 六判 247 頁 (254 頁) 「まえがき」(東畑精一), 「あとがき」(小泉幸一)  
前掲書と同一書であるが, 農林省農業総合研究所から刊行されたものである。
- 〔平家物語〕 昭和 32 年 6 月 10 日 角川書店 他者 (高木市之助・富倉徳次郎) の編著書 四六判 411 頁 (一) 「解説」(富倉徳次郎)  
「日本古典鑑賞講座」の 1 冊として, 公刊された。「有王と俊寛僧都」(345 ~ 357 頁) を, 収めている。
- 〔少年と国語〕 昭和 32 年 7 月 15 日 創元社 著書 菊判 155 頁 (一) 「「少年」と「国語」」(1 ~ 4 頁), 巻末に「読書のとびき」(高藤武馬) を付している。  
なお, 本書は上製本カバー装であるが, 昭和 33 年 3 月 10 日に刊行された再版は上製本で函に入れられている。
- 〔史料としての伝説〕 昭和 32 年 10 月 15 日 村山書店 著書 四六判 201 頁 (一) 「序」(頁は付されていない)  
昭和 19 年 6 月 20 日に刊行された同名書に, 更に 6 篇の論考と座談会の記録を纏めて, 増補したものである。
- 〔方言と文化〕 昭和 32 年 10 月 20 日 宝文館 他者 (日本放送協会) の編著書 四六判 326 頁 (330 頁) 「はしがき」(川上行蔵)  
「NHK 国語講座」の 1 冊として, 公刊された。金田一春彦との「対談」(315 ~ 322 頁) を, 収めている。
- 〔昔話覚書〕 昭和 32 年 10 月 25 日 修道社 著書 180x120 282 頁 (290 頁) 「改版序」(1 ~ 6 頁)  
「創元選書」の 1 冊として, 公刊された。昭和 18 年 4 月 10 日に刊行された, 同名書の改版である。
- 〔年中行事図説〕 1958 年 1 月 20 日 岩崎書店 監修書 四六倍判 286 頁 (292 頁) 「序」(頁は付されていない)  
1955 年 6 月 15 日に刊行された, 同名書と同一書である。前書のごとは, 触れられていない。
- 〔現代国民文学全集 18 巻 国民の言葉 百人百言葉〕 昭和 33 年 2 月 15 日 角川書店 他者 (編者代表 亀井勝一郎) の編著書 A5 判 407 頁 (一) 「後記」(亀井勝一郎・他 14 名記名)  
「現代国民文学全集」の 1 冊として, 公刊された。「身辺雑事・読物について・随筆・色々な考へ方・外国の著作物が多過ぎる・書物の豊富に苦しめられる・標準語で物を考へる・よい言葉の根源・自然の常在・風景と人間・笑ひ・方言・日本の女性」(326 ~ 329 頁) などの小見出しを付して, 収めている。
- 〔現代紀行文学全集 西日本篇〕 昭和 33 年 4 月 15 日 修道社 他者 (志賀直哉・佐藤春夫・川端康成) の編著書 四六判 437 頁 (443 頁) 序文なし  
「現代紀行文学全集」の 1 冊として, 公刊された。「熊野路の旅」(212 ~ 216 頁) を, 収めている。なお, 本全集は昭和 35 年に同社から軽装版 (普及版) が, 更に昭和 51 年 8 月に東京のほるぷ出版から復刊された。
- 〔現代紀行文学全集 東日本篇〕 昭和 33 年 5 月 15 日 修道社 他者 (志賀直哉・佐藤春夫・川端康成)
-

- 
- の編著書 四六判 452頁(458頁) 序文なし  
「現代紀行文学全集」の1冊として、公刊された。「游秦野記」(287～290頁)を、収めている。
- 『現代紀行文学全集 中部日本篇』昭和33年6月15日 修道社 他者(志賀直哉・佐藤春夫・川端康成)の編著書 四六判 445頁(451頁) 序文なし  
「現代紀行文学全集」の1冊として、公刊された。「秋風帖」(20～41頁),「遊海島記」(43～52頁),「秋風の吹く頃に」(203～206頁),「佐渡一巡記」(314～324頁)を、収めている。
- 『講座 現代倫理 第6巻 過去につながる習俗と倫理』昭和33年6月20日 筑摩書房 他者(古田晃)の編著書 A5判 318頁(321頁) 序文なし  
「講座 現代倫理」の1冊として、公刊された。柳田と桑原武夫との対談「日本人の道徳意識」(131～154頁)を、収めている。
- 『現代紀行文学全集 北日本篇』昭和33年7月15日 修道社 他者(志賀直哉・佐藤春夫・川端康成)の編著書 四六判 429頁(455頁) 序文なし  
「現代紀行文学全集」の1冊として、公刊された。「津軽の旅」(152～155頁),「をがさべり」(231～245頁),「豆の葉と太陽」(250～252頁),「清光館哀史」(253～258頁),「勢至峠から白河へ」(400～402頁)を、収めている。
- 『現代紀行文学全集 山岳篇下』昭和33年8月20日 修道社 他者(志賀直哉・佐藤春夫・川端康成)の編著書 四六判 423頁(429頁) 序文なし  
「現代紀行文学全集」の1冊として、公刊された。「木曾より五箇山へ」(219～226頁)を、収めている。
- 『講座 現代倫理 第5巻 内と外の倫理』昭和33年8月20日 筑摩書房 他者(古田晃)の編著書 A5判 328頁(332頁) 序文なし  
「講座 現代倫理」の1冊として、公刊された。「日本における内と外の観念」(3～22頁)を、収めている。
- 『現代紀行文学全集 南日本篇』昭和33年9月15日 修道社 他者(志賀直哉・佐藤春夫・川端康成)の編著書 四六判 458頁(464頁) 序文なし  
「現代紀行文学全集」の1冊として、公刊された。「四国の旅(通信)」(111～113頁),「海南小記抄」(419～435頁)を、収めている。
- 『現代紀行文学全集 補遺篇』昭和33年10月20日 修道社 他者(志賀直哉・佐藤春夫・川端康成)の編著書 四六判 464頁(470頁) 序文なし  
「現代紀行文学全集」の1冊として、公刊された。「遠野物語」(15～44頁),「北国紀行」(212～254頁)を、収めている。
- 『かながわ郷土文学読本』昭和33年11月1日 有隣社 他者(斎藤昌三・沓掛伊左吉・石井光次郎)の編著書 A5判 253頁(261頁) 「序」(内山岩太郎),「あとがき」(斎藤昌三) 「游秦野記」(181～189頁)を、収めている。なお、表紙の意匠を変え、判型を10ミリ(縦)と5ミリ(横)小さくした2種類の本がある。
-

- 
- 『炭焼日記』 昭和 33 年 11 月 15 日 修道社 著書 四六判 355 頁 (360 頁) 「自序」 (1 ~ 4 頁)
- 『第三 稲の日本史』 昭和 33 年 12 月 10 日 農林協会 他者 (盛永俊太郎) の編著書 四六判 279 頁 (288 頁) 「まえがき」 (石黒忠篤), 「あとがき」 (小泉幸一)  
「稲作史研究叢書」の 1 冊として, 公刊された。発表者の発表後になされた, 柳田の発言を取めている。
- 『第三 稲の日本史』 昭和 33 年 12 月 10 日 農林省農業総合研究所 他者 (盛永俊太郎) の編著書 四六判 279 頁 (288 頁) 「まえがき」 (石黒忠篤), 「あとがき」 (小泉幸一)  
前掲書と同一書であるが, 農林省農業総合研究所から刊行されたものである。
- 『現代紀行文学全集 写真篇』 (参考) 昭和 33 年 12 月 20 日 修道社 他者 (志賀直哉・佐藤春夫・川端康成) の編著書 四六判 314 頁 (322 頁) 序文なし  
「現代紀行文学全集」の 1 冊として, 公刊された。「山岳篇」の「木曾より五箇山へ」を除いて, 各巻に収録した作品中から一部を抜粋し, それぞれに関連した写真を添えている。
- 『武蔵野』 昭和 33 年 12 月 25 日 宝文館 他者 (上林暁) の編著書 四六判 273 頁 (277 頁) 序文なし  
「日本の風土記」の 1 冊として, 公刊された。「武蔵野の昔」 (1 ~ 16 頁) を, 取めている。
- 『民間伝承と文学』 昭和 34 年 1 月 10 日 岩波書店 著書 四六判 33 頁 (一) 序文なし  
「岩波講座日本文学史」の 1 冊として, 公刊された。
- 『信濃・木曾路』 昭和 34 年 2 月 5 日 宝文館 他者 (長尾宏也) の編著書 四六判 264 頁 (269 頁) 序文なし  
「日本の風土記」の 1 冊として, 公刊された。「新野の盆踊」 (119 ~ 129 頁) を, 取めている。
- 『現代教養全集 7 日本人』 昭和 34 年 3 月 20 日 筑摩書房 他者 (日井吉見) の編著書 A5 判 428 頁 (一) 序文なし  
「現代教養全集」の 1 冊として, 公刊された。「なぞとことわざ」 (7 ~ 58 頁) を取め, 「解説」 (日井吉見) を付している。
- 『世界紀行文学全集 北アメリカ編』 昭和 34 年 3 月 25 日 修道社 他者 (志賀直哉・佐藤春夫・川端康成) の編著書 A5 判 442 頁 (446 頁) 序文なし  
「世界紀行文学全集」の 1 冊として, 公刊された。「サンフランシスコまでの日誌より」 (124 ~ 125 頁) を, 取めている。なお, 本全集は昭和 54 年に東京のほるぷ出版から復刊された。
- 『大和路』 昭和 34 年 4 月 1 日 宝文館 他者 (滝井孝作) の編著書 四六判 291 頁 (296 頁) 序文なし  
「日本の風土記」の 1 冊として, 公刊された。「和州地名談」 (1 ~ 9 頁) を, 取めている。
- 『みちのく 後編』 昭和 34 年 4 月 20 日 宝文館 他者 (今官一) の編著書 四六判 273 頁 (278 頁) 序
-

---

文なし

「日本の風土記」の1冊として、公刊された。「空から見た東北」(17～21頁)、「海に沿ひて行く」(139～144頁)を、収めている。

『世界紀行文学全集 イタリア編』昭和34年4月20日 修道社 他者(志賀直哉・佐藤春夫・川端康成)の編著書 A5判 444頁(448頁) 序文なし

「世界紀行文学全集」の1冊として、公刊された。「伊太利だより」(266～267頁)を、収めている。

『兵庫県文学読本』昭和34年4月20日 のじぎく文庫 他者(のじぎく文庫)の編著書 四六判 344頁(356頁) 「序」(富田碎花)、「編集を終わって」(無署名)

「北国紀行」抄」(159～163頁)を、収めている。

『現代教養全集 10 生きた言葉 生きた文章』昭和34年6月20日 筑摩書房 他者(白井吉見)の編著書 A5判 441頁(一) 序文なし

「現代教養全集」の1冊として、公刊された。「毎日の言葉」(28～57頁)を収め、「解説」(白井吉見)を付している。

『世界紀行文学全集 フランス編 I』昭和34年9月20日 修道社 他者(志賀直哉・佐藤春夫・川端康成)の編著書 A5判 426頁(431頁) 序文なし

「世界紀行文学全集」の1冊として、公刊された。「フランスより」(274～275頁)を、収めている。

『世界紀行文学全集 イタリア・スイス編 I』昭和34年10月20日 修道社 他者(志賀直哉・佐藤春夫・川端康成)の編著書 A5判 426頁(431頁) 序文なし

「世界紀行文学全集」の1冊として、公刊された。「スイスにて」(265～266頁)を、収めている。

『大和の伝説(増補版)』昭和34年11月5日 大和史蹟研究会 他者(高田十郎)の編著書 四六判 554頁(618頁) 「序(増補版)」(沢田四郎作)、「緒言」(高田十郎)、「増補のことば」(仲川明・山田熊夫・森川辰蔵・乾健治)

昭和8年1月15日に、同会から刊行された同名書の増補版である。改めて柳田の「小序第二(増補版)」(頁は付されていない)を加え、元版と同一の、「大和の人々に」(頁は付されていない)を収めている。

『故郷七十年』 昭和34年11月20日 のじぎく文庫 著書 四六判 405頁(422頁) 「起筆の言葉」(頁は付されていない)、「母の思ひ出に-序にかへて-」(頁は付されていない)、「あとがき」(嘉治隆一)、「柳田國男年譜」「柳田國男著作目録」を収めている。

『現代教養全集 15 日本文化の反省』昭和34年11月20日 筑摩書房 他者(白井吉見)の編著書 A5判 416頁(一) 序文なし

「現代教養全集」の1冊として、公刊された。「鳴濤の文学」(111～133頁)を収め、「解説」(白井吉見)を付している。

『現代教養全集 16 戦後の教育』昭和34年12月20日 筑摩書房 他者(白井吉見)の編著書 A5判 415頁(一) 序文なし

---

- 
- 「現代教養全集」の1冊として、公刊された。「ウソと子供」(136～143頁)、「涕泣史談」(144～156頁)を収め、「解説」(臼井吉見)を付している。
- 『郁文館学園七十年史』昭和35年2月1日 郁文館学園 他者(郁文館学園七十年史編集委員)の編著書 A5判 256頁(258頁)「郁文館学園七十年史の序」(棚橋勝太郎)  
「在学中の思い出・其の他」(97～99頁)。本稿は昭和35年5月29日に行われた取材内容の一部を抄出したもので、その後刊行された『郁文館学園八十年史』(昭和43年11月13日)、『郁文館学園百年史』(平成元年2月10日)にも転載されている。なお、雑誌『列島の文化史 9』(1994年6月30日 日本エディタースクール出版部)誌上に、当日の取材テープの相当部分を新たに翻刻した「柳田國男翁聴き書き-昭和34年5月29日-」(田中正明稿)が掲載されている。
- 『古典日本文学全集 16 平家物語』昭和35年4月10日 筑摩書房 他者(富倉徳次郎)の編著書 A5判 477頁(479頁)序文なし  
「古典日本文学全集」の1冊として、公刊された。「有王と俊寛僧都」(436～445頁)を、収めている。
- 『世界紀行文学全集 ドイツ・オーストリア・オランダ・ベルギー編』昭和35年7月20日 修道社 他者(志賀直哉・佐藤春夫・川端康成)の編著書 A5判 375頁(381頁)序文なし  
「世界紀行文学全集」の1冊として、公刊された。「オーストリアにて」(115～116頁)を、収めている。
- 『世界紀行文学全集 樺太・朝鮮・台湾・南洋諸島編』昭和35年9月20日 修道社 他者(志賀直哉・佐藤春夫・川端康成)の編著書 A5判 348頁(349頁)序文なし  
「世界紀行文学全集」の1冊として、公刊された「樺太紀行」(3～10頁)を、収めている。なお、奥付に記されている書名は『世界紀行文学全集 樺太・朝鮮・台湾・南洋編』。
- 『方言学講座 第一巻』昭和36年1月31日 東京堂 他者(東條操)の編著書 四六判 422頁(426頁)  
「刊行のことば」(無署名)  
「方言学講座」の1冊として、公刊された。「わたしの方言研究」(305～320頁)を、収めている。
- 『遠藤民俗聴書』昭和36年3月30日 藤沢市教育委員会 他者(丸山久子)の編著書 A5判 136頁(144頁)「「遠藤民俗聴書」の発刊に寄せて」(及川顕善)、「終りに」(丸山久子)  
「序」(口述・文責丸山久子 頁は記されていない)を、収めている。
- 『海上の道』昭和36年7月15日 筑摩書房 著書 菊判 310頁(318頁)「まへがき」(1～6頁)、「あとがき」(無署名)
- 『古典日本文学全集 18 宇治拾遺物語 お伽草子』昭和36年8月5日 筑摩書房 他者(永積安明・福永武彦・永井龍夫・円地文子・谷崎潤一郎)の編著書 A5判 386頁(一)序文なし
-

- 
- 「古典日本文学全集」の1冊として、公刊された。「昔話と文学」(337～353頁)を、収めている。なお、本書は昭和41年9月15日に普及版が刊行された。
- 『第四 稲の日本史』昭和36年11月23日 農林協会 他者(盛永俊太郎)の編著書 四六判 254頁(268頁) 「まえがき」(松平信広)、「あとがき」(小泉幸一)  
「稲作史研究叢書」の1冊として、公刊された。発表者の発表後になされた、柳田の発言を収めている。
- 『古典日本文学全集 17 義経記 曾我物語』昭和36年12月5日 筑摩書房 他者(高木卓)の編著書 A5判 400頁(一) 序文なし  
「古典日本文学全集」の1冊として、公刊された。「義経記成長の時代」(367～375頁)を、収めている。なお、本書は昭和41年8月15日に普及版が刊行された。
- 『海南小記 山の人生 北の人 猪・鹿・狸』1961年12月23日 平凡社 柳田・金田一京助・佐々木喜善・早川孝太郎との合書 485頁(一) 序文なし  
「世界教養全集」の1冊として、公刊された。「海南小記」(5～95頁)、「山の人生」(99～209頁)、大藤時彦が「解説」を付している。なお、本書は函入り上製本であるが、昭和49年4月20日に並製本の第2版が刊行された。
- 『なぞとことわざ』1962年4月10日 筑摩書房 著書 四六判 260頁(269頁) 序文なし  
「中学生全集」の1冊として昭和27年10月30日に刊行されたもので、意匠を変え新装版の「新版中学生全集」として公刊された。巻末に、前書と同文の「読者のために」(高藤武馬)を付している。
- 『心の群像』 昭和37年6月25日 河出書房新社 他者(嘉治隆一)の編著書 376頁(一) 「あとがき」(嘉治隆一)  
「穀母信仰のことども」(34～39頁)を、収めている。
- 『現代日本文学講座 評論・随筆2』昭和37年7月25日 三省堂 他者(伊藤整・稲垣達郎・勝本清一郎・成瀬正勝・吉田精一)の編著書 菊判 346頁(352頁) 「あとがき」(鳥居邦朗)  
「現代日本文学講座」の1冊として、公刊された。「作家・作品の鑑賞と研究」中に、「雪国の春」の一部(132～138頁)を収めている。
- 『先祖の話』 昭和37年9月11日 柳田家 著書 菊判 152頁(一) 「自序」(3～6頁)  
昭和21年4月15日に刊行された同名書を、柳田の五七忌の法要に際して柳田家で復刊し頒ったものである。
- 『柳田先生はがき集』昭和37年9月25日 久松文庫 他者(蓮仏重寿)の編著書 176x128 64頁(65頁) 「後記」(蓮仏重寿)  
「久松文庫」の1冊として、公刊された。孔版。
- 『日本随筆・随想集』1962年11月20日 平凡社 他者(川端康成)の編著書 B6判 513頁(一) 序文なし  
「世界教養全集」の1冊として、公刊された。「書物を愛する道」(287～294頁)
-

---

を収めている。

『柳田國男先生』 昭和 37 年 12 月 25 日 近畿民俗学会 他者(沢田四郎作)の編著書 菊判 96 頁(100 頁) 「はじめに」(沢田四郎作)

雑誌『近畿民俗』の第 31 号(近畿民俗学会)を、単行本としたもので、「柳田國男自伝」(1～5 頁)を収めている。

『第五 稲の日本史』 昭和 38 年 9 月 15 日(発行日を訂正した紙片を貼ってある)農林協会 他者(盛永俊太郎)の編著書 四六判 267 頁(277 頁) 「まえがき」(永井威三郎), 「あとがき」(小泉幸一)

「稲作史研究叢書」の 1 冊として、公刊された。発表者の発表後になされた、柳田の発言を収めている。

『第五 稲の日本史』 昭和 38 年 9 月 15 日(発行日を訂正した紙片を貼ってある)農林漁業振興会 他者(盛永俊太郎)の編著書 四六判 267 頁(277 頁) 「まえがき」(永井威三郎), 「あとがき」(小泉幸一)

「稲作史研究叢書」の 1 冊として、公刊された。発表者の発表後になされた、柳田の発言を収めている。前掲書と同一であるが、発行所、と造本が異なっている(前掲書はカバー装 定価 480 円, 本書は布クロス装・函入り 定価 580 円)。

『分類祭祀習俗語彙』 昭和 38 年 11 月 30 日 角川書店 著作書 四六判 508 頁(一) 「序文」(1～3 頁), 「あとがき」(佐佐木行忠)

なお、本書は昭和 57 年 6 月 30 日に、同書店から再版が刊行された。

『因伯民談 柳田先生述 今日の民俗学』 昭和 39 年 8 月 1 日 久松文庫 他者(蓮仏重寿)の編著書 180x126 17 頁(一) 「後記」(蓮仏重寿)

雑誌『因伯民談』の第 4 号(昭和 11 年 5 月)と第 5 号(同年 6 月)に掲載された、柳田の講演筆記を纏めたものである。孔版。なお、発行年月日の"七"の上に、ボールペンで"八"と上書きされている。

『聴耳草子』 1964 年 9 月 2 日 筑摩書房 他者(佐々木喜善)の編著書 「凡例」(佐々木喜善) 四六判 320 頁(一) 「聴耳の持ち主」(益田勝実), 「佐々木喜善のこと」(山下久男)

昭和 6 年 2 月 1 日に公刊された同名書を、「筑摩叢書」の 1 冊として復刊したものの。「序」(1～3 頁)を、収めている。

『柳田國男対談集』 昭和 39 年 11 月 15 日 筑摩書房 他者(氏名は記されていない)の編著書 四六判 290 頁(一) 「あとがき」(臼井吉見)

「筑摩叢書」の 1 冊として、公刊された。

『武蔵野』 昭和 39 年 11 月 30 日 雪華社 柳田・国木田独歩・田山花袋・河井醉名との共著 四六判 126 頁(128 頁) 「編集後記にかえて」(串田孫一)

「武蔵野の昔」(35～63 頁)を、収めている。

『現代のエスプリ 日本人のこころ』 昭和 40 年 3 月 25 日 至文堂 他者(梅棹忠夫)の編著書 菊判 248 頁(一) 序文なし

---

- 
- 背と本扉に記されている書名は「日本人のこころ 現代のエスプリ」。「明治大正史 世相篇」(137～193頁)を収め、「解説」(梅棹忠夫)を付している。
- 『柳田国男』 1965年7月20日 筑摩書房 他者(益田勝美)の編著書 四六判 409頁(一)「あとがき-編集にあたって-」(益田勝美)  
「現代日本思想大系」の1冊として、公刊された。多数の著作を収め巻初に「解説柳田国男の思想」(益田勝美)、巻末に「著作・参考文献」を付している。
- 『民俗学について 第二柳田國男対談集』 昭和40年9月25日 筑摩書房 他者(氏名は記されていない)の編著書 四六判 283頁(一)序文なし  
「筑摩叢書」の1冊として、公刊された。巻末に、「解題」(大藤時彦)を付している。
- 『日本文化論』 昭和41年5月20日 徳間書店 他者(加藤秀俊)の編著書 四六判 382頁(一)「はじめに」(加藤秀俊)  
「近代日本の名著」の1冊として、公刊された。「酒<酒の変遷と近代の変遷>」(225～239頁)を、収めている。
- 『続柳田先生はがき集』 昭和41年7月1日 久松文庫 他者(蓮仏重寿)の編著書 176x128 25頁(一)「はじめに」(蓮仏重寿)  
表紙には「昭和四十一年六月発行」と記されている。「久松文庫」の1冊として、公刊された。孔版。
- 『離島生活の研究』 昭和41年10月25日 集英社 指導書 A5判 959頁(965頁)「序にかえて」(頁は付されていない)  
函と本扉には「柳田國男指導 日本民俗学会編」、奥付には「著者 日本民俗学会」と記されている。巻末に、「調査経過報告」(大藤時彦)を付している。なお、本書は「民俗語彙索引」を加えて昭和50年7月30日に、東京の国書刊行会から復刊された。
- 『生活の知恵』 昭和41年11月15日 文芸春秋 他者(亀井勝一部・臼井吉見)の編著書 B6判 385頁(一)「「生活の知恵」について(解説)」(河盛好蔵)  
「人生の本」の1冊として、公刊された。「なぞとことわざ」(25～49頁)を、収めている。
- 『歴史と風土』 昭和42年3月10日 文芸春秋 他者(亀井勝一郎・臼井吉見)の編著書 B6判 397頁(一)「「歴史と風土」について(解説)」(中村光夫)  
「人生の本」の1冊として、公刊された。「烏勸請のこと」(25～79頁)を、収めている。
- 『郷土生活の研究』 昭和42年4月25日 筑摩書房 著書 四六判 260頁(一)序文なし  
「筑摩叢書」の1冊として、公刊された。昭和10年8月18日に刊行された『郷土生活の研究法』を改題したもので、元版の「序」と編者の「あとがき」を除き、巻末に「解説」(大藤時彦)を付している。
- 『ユーモアのすすめ』 昭和42年5月10日 文芸春秋 他者(亀井勝一郎・臼井吉見)の編著書 B6
-



- 
- 判 401 頁 (一) 「「ユーモアのすすめ」について (解説)」 (池田弥三郎)  
 「人生の本」の 1 冊として、公刊された。「笑いの本願」(68～156 頁)を、収めている。
- 『不幸なる芸術』 昭和 42 年 5 月 25 日 筑摩書房 著書 四六判 239 頁 (一) 序文なし  
 「筑摩叢書」の 1 冊として、公刊された。昭和 28 年 6 月 10 日に同書房から刊行された、同名書の復刊である。巻末に、「不幸なる芸術 解説」(山本健吉)を付している。
- 『海上の道』 昭和 42 年 6 月 25 日 筑摩書房 著書 四六判 277 頁 (290 頁) 「まえがき」(1～5 頁), 「あとがき」(無署名)  
 「筑摩叢書」の 1 冊として、公刊された。昭和 36 年 7 月 15 日に同書房から刊行された、同名書の復刊である。巻末に、「海上の道」解説」(島尾敏雄)を付している。
- 『日本の美』 昭和 42 年 7 月 10 日 文芸春秋 他者(亀井勝一郎・臼井吉見)の編著書 B6 判 401 頁 (一) 「日本の美」について (解説)」(山本健吉)  
 「人生の本」の 1 冊として、公刊された。「美しき村」(221～237 頁)を、収めている。
- 『稲と祭儀』 昭和 42 年 7 月 20 日 協同出版 他者(いなめ研究会)の編著書 菊判 228 頁(一)  
 「序文」(三笠宮崇仁)  
 「新嘗の研究」の 1 冊として、公刊された。函と本扉には、「稲と祭儀 新嘗の研究 第三輯」と記されている。「米の島考 (遺稿および資料)」(「解説」鎌田久子 207～228 頁)を、収めている。
- 『明治大正史 世相篇』昭和 42 年 12 月 10 日 平凡社 著書 全書判 351 頁(364 頁) 「自序」(1～5 頁)  
 「東洋文庫」の 1 冊として、公刊された。昭和 6 年 1 月 20 日に刊行された同名書を、復刊したものである。
- 『日本のふるさと伊勢』昭和 43 年 1 月 10 日 広済堂出版 他者(中山伊知郎・岡潔ほか)の共著 四六判 419 頁 (429 頁) 「あとがき」(桜井勝之進)  
 「信仰と民俗」(146～159 頁)を、収めている。
- 『柳田國男集 36 卷』昭和 43 年 2 月 19 日 講談社 著作書 菊判 446 頁 (一) 「筆蹟」(6 頁)  
 「日本現代文学全集」の 1 冊として、公刊された。巻末に「柳田國男入門」(大藤時彦), 「参考文献」(鎌田久子)を、付している。なお、本書は昭和 55 年 5 月 26 日に増補改訂版が刊行された。
- 『自然との対話』 昭和 43 年 3 月 10 日 文芸春秋 他者(臼井吉見・河盛好藏)の編著書 B6 判 386 頁 (一) 「自然との対話」について (解説)」(申田孫一)  
 「生活の本」の 1 冊として、公刊された。「南の島の清水」(138～156 頁)を、収めている。
- 『私の聞き書き帖』 昭和 43 年 7 月 25 日 慶友社 他者(大西伍一)の編著書 四六判 331 頁(一) 「聞き書きについて-序に代へて-」(大西伍一), 「あとがき」(大西伍一)
-

- 
- 「柳田國男」(13～48頁)に、柳田の談話を多数収めている。
- 『保守の思想』 1968年11月25日 筑摩書房 他者(橋川文三)の編著書 四六判 401頁(405頁) 序文なし  
「戦後日本思想大系」の1冊として、公刊された。「先祖の話」(99～157頁)、「対談 文学・学問・政治(抄)」(中野重治と柳田との対談 179～195頁)を収めている。
- 『柳田國男集 20』 昭和44年3月15日 筑摩書房 著作書 菊判 451頁(454頁) 序文なし  
「現代日本文学大系」の1冊として、公刊された。巻末に、「詩人時代の柳田國男先生」(柳田泉)、「偉大なる未完成」(石田英一郎)、「柳田國男の思想」(中村哲)を、付している。
- 『稲の日本史 上』 1969年3月30日 筑摩書房 他者(盛永俊太郎)の編著書 四六判 374頁(一)  
「再刊のことば」(盛永俊太郎)、「第一部の「まえがき」(盛永俊太郎・東畑精一・石黒忠篤・松本信広・永井威三郎)  
「筑摩叢書」の1冊として、公刊された。昭和30年代に刊行された、5冊の同名書を、2冊に纏めて復刊したものである。表紙に「柳田國男・安藤広太郎・盛永俊太郎他」、奥付に「編者 盛永俊太郎」と記されている。
- 『世田谷の文学』 昭和44年3月31日 世田谷区教育委員会 他者(世田谷区教育委員会)の編著書 B5判 104頁(105頁) 「はしがき」(世田谷区教育委員会)、「編集を終えて」(世田谷の文学編集委員)  
「鳥の話など」(82～83頁)を、収めている。
- 『増補 山島民譚集』 昭和44年4月10日 平凡社 著作書 全書判 404頁(422頁) 「小序」(3頁)、「再版序」(5～7頁)  
「東洋文庫」の1冊として、公刊された。大正3年7月4日及び昭和17年11月30日に刊行された同名書を増補したもので、巻末に「解説」(関敬吾)を付している。函と本扉に「柳田國男著 関敬吾・大藤時彦編」、奥付に「編者関敬吾・大藤時彦」と記されている。
- 『くらしの伝統』 昭和44年5月25日 主婦の友社 他者(井上靖・白井吉見)の編著書 四六判 396頁(一) 序文なし  
「10冊の本」の1冊として、公刊された。「衣・食・住」の項に「木綿以前の事」(203～224頁)を収め、「解説」(樋口清之)を付している。なお、昭和47年7月15日発行の別本がある。
- 『火の昔 他七編』 昭和44年6月1日 新学社 著作書 新書判 220頁(一) 「柳田國男先生の学問」(折口信夫)  
新学社文庫の1冊として、公刊された。巻末に「柳田國男の人と学問」(大藤時彦)、「読書のしかた－柳田國男集「火の昔 他」について」(福島惣一郎)を、付している。なお、本書は奥付に発行年月日が記載されていない特装本(発行所 新学社教友館)と、奥付に「昭和43年5月1日発行 昭和57年6月1日重版」
-

- 
- (発行所 新学社), 「昭和 44 年 5 月 1 日発行 昭和 53 年 6 月 1 日重版」(発行所 新学社教友館) と記されている本がある。
- 『日本の文学 柳田国男・斎藤茂吉・折口信夫 26』昭和 44 年 7 月 5 日 中央公論社 柳田国男・斎藤茂吉・折口信夫の合書 四六判 564 頁 (一) 序文なし  
「日本の文学」の 1 冊として公刊された。「柳田国男」(5～182 頁), 卷末に「注解」(阿部正路), 「解説」(大岡昇平) を付している。
- 『稲の日本史 下』1969 年 7 月 10 日 筑摩書房 他者(盛永俊太郎)の編著書 四六判 375 頁 (一) 第一部～第五部の「あとがき」(いずれも小泉幸一)  
「筑摩叢書」の 1 冊として, 公刊された。昭和 30 年代に刊行された, 5 冊の同名書を, 2 冊に纏めて復刊したものの下巻である。卷末に, 「解説」(和歌森太郎) を付している。表紙に「柳田国男・安藤広太郎・盛永俊太郎他」, 奥付に「編者 盛永俊太郎」と記されている。
- 『随想全集 5 貝塚茂樹・増田四郎・柳田國男』昭和 45 年 2 月 5 日 尚学図書 貝塚茂樹・増田四郎・柳田國男の合書 四六判 402 頁 (一) 序文なし  
「随想全集」の 1 冊として, 公刊された。「柳田國男集」(271～402 頁) の卷末に, 「解説」(大藤時彦) を付している。
- 『今昔物語集』昭和 45 年 3 月 1 日 有精堂出版 他者(日本文学研究資料刊行会)の編著書 A5 判 311 頁(315 頁) 「『日本文学研究資料叢書』刊行に際して」(日本文学研究資料刊行会)  
「日本文学研究資料叢書」の 1 冊として, 公刊された。「藁しべ長者と蜂」(221～228 頁) を, 収めている。
- 『國木田独歩・田山花袋集 11』昭和 45 年 3 月 15 日 筑摩書房 他者(國木田独歩・田山花袋)の編著書 A5 判 459 頁(462 頁) 序文なし  
「現代日本文学大系」の 1 冊として, 公刊された。「田山花袋君の作と生き方」(426～428 頁) を, 収めている。
- 『棒の歴史』1970 年 3 月 30 日 全国学校図書館協議会 著書 四六判 39 頁 (一) 序文なし  
「集団読書テキスト」の 1 冊として, 公刊された。卷末に, 「注解」を付している。
- 『火の昔 少年と国語 あたらしい数の博物館』昭和 45 年 8 月 4 日 講談社 今野武雄との合書 230x190 292 頁 (一)  
「世界の名作図書館」の 1 冊として, 公刊された。「火の昔 少年と国語」(7～200 頁) を収め, 卷末に「解説」(奥野健男) を付している。
- 『先祖の話』昭和 45 年 9 月 25 日 筑摩書房 著書 菊判 253 頁(263 頁) 「自序」(1～4 頁)  
筑摩書房は, 同書を昭和 21 年 4 月 15 日に出版した。自社の創業 30 周年記念出版として, 同一の装丁で復刻したもの。
- 『平安朝物語 I』昭和 45 年 11 月 20 日 有精堂出版 他者(日本文学研究資料刊行会)の編著書 A5 判 300 頁(304 頁) 「『日本文学研究資料叢書』刊行に際して」(日本文学研究資料刊行会)
-

- 
- 「日本文学研究資料叢書」の1冊として、公刊された。「竹取翁考」(110～127頁)を、収めている。
- 『協同組合の名著 第二巻 柳田国男・岡田良一郎・他』昭和46年5月10日 家の光協会 柳田国男・岡田良一郎・福住正兄・加納久宜の合書 四六判 417頁(一)「凡例」(無署名)「産業組合の名著」の1冊として、公刊された。4人の著作から成り、柳田の項(3～268頁)は「最新産業組合通解」「時代ト農政-抄録-」を収め、巻末に「解題柳田国男集について」(東畑精一)を付している。なお、奥付には「著者 柳田国男・他」と記されている。
- 『沖縄文化論叢 第二巻 民俗編Ⅰ』昭和46年5月13日 平凡社 他者(太藤時彦・小川徹)の編著書 A5判 511頁(519頁)「凡例」(無署名)「沖縄文化論叢」の1冊として、公刊された。「海神宮考」(42～76頁)を収め、「解説」(大藤時彦)を付している。
- 『柳信追風』 昭和46年7月16日 橘山房 他者(今井善一郎)の編著書 178x126 57頁(一)「序」(上野勇)、「あとがき」(今井善一郎)柳田からの来信を翻刻し、解説を付している。
- 『柳田国男 遠野物語をめぐる』(参考)昭和46年10月1日 さとう工房 他者(富木友治)の編著書 160x120 126頁(一)「序」(富木友治)、「本書の発行について」(佐藤朔太郎)『遠野物語』を中心とする、柳田の文章が収められている。なお、本書は昭和63年12月25日に同工房から判型を変えて再刊行された。
- 『昔話と文学』 昭和46年11月10日 白風社 著書 四六判 293頁(一)「序」(7～11頁)「白風社名著選」の1冊として、公刊された。昭和13年12月10日に刊行された、同名書の復刊である。巻末に、「注釈」(編集部)、「解説」(大藤時彦)を付している。
- 『沖縄文化論叢 第三巻 民俗編Ⅱ』昭和46年12月23日 平凡社 他者(馬淵東一・小川徹)の編著書 A5判 526頁(534頁)「凡例」(無署名)「沖縄文化論叢」の1冊として、公刊された。「南島研究の目途」(58～62頁)を収め、「解説」(馬淵東一・小川徹)を付している。
- 『年中行事覚書』 昭和46年12月25日 修道社 著書 四六判 245頁(250頁)「著者の言葉」(1～2頁)「柳田國男選集」の1冊として、公刊された。「解説」(鎌田久子)を付している。
- 『昔話覚書』 昭和47年1月3日 修道社 著書 四六判 289頁(297頁)「改版序」(1～6頁)「柳田國男選集」の1冊として公刊された。「解説」(大藤時彦)を付している。
- 『月曜通信』 昭和47年2月29日 修道社 著書 四六判 250頁(一)「著者の言葉」(1～4頁)「柳田國男選集」の1冊として、公刊された。「解説」(大藤時彦)を付している。
- 『紀行Ⅰ』 昭和47年4月10日 修道社 著書 四六判 231頁(233頁)序文なし「柳田國男選集」の1冊として、公刊された。「先生の旅(解説にかえて)」(鎌
-

- 
- 田久子), を付している。
- 『紀行Ⅱ』 昭和47年5月10日 修道社 著書 四六判 210頁(211頁) 序文なし  
 「柳田國男選集」の1冊として, 公刊された。「解説」(大藤時彦), を付している。
- 『妖怪談義』 昭和47年5月30日 修道社 著書 四六判 259頁(269頁) 「自序」(5~10頁)  
 「柳田國男選集」の1冊として, 公刊された。「解説」(大藤時彦), を付している。
- 『新編 人生の本9 生活の中の知恵』 昭和47年6月20日 文芸春秋 他者(江藤淳・曾野綾子)の  
 編著書 四六判 401頁(一) 「『生活の中の知恵』について」(小松左京)  
 「新編 人生の本」の1冊として, 公刊された。「手拭沿革」(120~149頁)を,  
 収めている。
- 『新たなる太陽』 昭和47年6月30日 修道社 著書 四六判 218頁(220頁) 序文なし  
 「柳田國男選集」の1冊として, 公刊された。「解説」(鎌田久子), を付している。
- 『くらしの伝統』 昭和47年7月15日 主婦の友社 他者(井上靖・白井吉見)の編著書 四六  
 判 396頁(一) 序文なし  
 「木綿以前の事」(203~224頁)を収め, 「解説 知恵としての伝統」(樋口清之)  
 を付している。昭和44年5月25日に, 同社の「10冊の本」の1冊として公刊  
 された本と同一である。非売品。
- 『炭焼日記』 昭和47年7月30日 修道社 著書 四六判 355頁(367頁) 「自序」(1~4頁)  
 「柳田國男選集」の1冊として, 公刊された。「解説」(大藤時彦), を付している。
- 『説話文学』 昭和47年11月1日 有精堂出版 他者(日本文学研究資料刊行会)の編著  
 書 A5判 314頁(318頁) 「『日本文学研究資料叢書』刊行に際して」(日本文  
 学研究資料刊行会)  
 「日本文学研究資料叢書」の1冊として, 公刊された。「若宮部と雷神」(48~  
 59頁)を, 収めている。
- 『遠野物語』 1972年11月30日 大和書房 著書 A5判 291頁(一) 「初版序文」(55~57頁),  
 「再版覚書」(59~61頁), 「後記」(折口信夫)  
 昭和10年7月31日に刊行された, 『遠野物語 増補版』の復刊である。巻末に,  
 「解説」(谷川健一), 「補注」(島享)を付している。
- 『明治詩人集(一) 60』 昭和47年12月20日 筑摩書房 他者(外山正一)の編著書 菊判 424頁(426  
 頁) 序文なし  
 「明治文学全集」の1冊として, 公刊された。明治30年4月29日に刊行された  
 『抒情詩』を収載し, 書中に松岡國男が編んだ「野辺のゆきゝ」(58~68頁)  
 を収め, 巻末に「解説」(矢野峰人)を付している。
- 『幻妖 叢刊日本文学における美と情念の流れ』 1972年12月25日 現代思潮社 他者(大久保典夫・  
 他5名)の編著書 四六判 342頁(344頁) 序文なし  
 「叢刊 日本文学における美と情念の流れ」の1冊として, 公刊された。「一寸法  
 師譚」(116~127頁)を収め, 「校注・解題」(田中伸・山田清市)と「解  
 説 幻妖のコスモロジー」(渋沢龍彦)を付している。
-

- 
- 『柳田先生と私の細道－東北の民俗文化－』昭和48年12月15日 錦正社 他者（岩崎敏夫）の編著書 四六判 368頁（一）「後記」（岩崎敏夫）  
「柳田国男先生書簡集」（35～59頁）を、収めている。
- 『柳田国男集 45』昭和48年12月25日 角川書店 他者（発行者 角川源義）の編著書 菊判 466頁 「凡例」（無署名）  
「日本近代文学大系」の1冊として、公刊された。巻初に「柳田国男集解説」（山本健吉）を収め、巻末に「注釈者あとがき」（鎌田久子）を付している。
- 『故郷七十年』1974年3月20日 朝日新聞社 著書 B6判 410頁（一）「起筆の言葉」（1頁）、「母の思い出に－序にかえて－」（3～6頁）  
「朝日選書」の1冊として、公刊された。昭和34年11月20日に刊行された、同名書の復刊である。巻末に、「『故郷七十年』について」（鎌田久子）を収めている。なお、2002年に「オンデマンド版」の対応をしている。
- 『分類食物習俗語彙』昭和49年4月10日 角川書店 著作書 四六判 495頁（一）「刊行によせて」（佐藤謙三）、「あとがき」（坪井洋文）  
巻末に、「分類食物習俗語彙引用文献目録」を付している。
- 『黒百合姫物語』昭和49年5月25日 さとう工房 編書 153x113 170頁（一）「はしがき」（藤原相之助）  
昭和19年6月10日に刊行された、同名書の新装版である。巻末に、「本書の成立ちについて」（佐藤朔太郎）を収めている。
- 『日本の名著 柳田国男』昭和49年5月30日 中央公論社 他者（神島二郎）の編著書 四六判 473頁（一）序文なし  
「日本の名著」の1冊として、公刊された。巻初に「柳田国男の学問」（伊藤幹治・神島二郎）を収め、巻末に「補注」を付している。
- 『日本人の手紙』昭和50年2月25日 白馬出版 他者（池田弥三郎）の編著書 四六判 325頁（329頁）「あとがき」（池田弥三郎）  
柳田の書簡1通（94～98頁）を収め、「解説」（池田弥三郎）を付している。
- 『砂のいろ』1975年3月1日 法政大学出版局 他者（野口喜久子）の編著書 四六判 241頁（245頁）「はじめに」（野口喜久子）  
「昭和17年5月23日、水交社における故松岡静雄氏追悼座談会記録」（42～81頁）に、柳田の発言を収めている。なお、本書は2005年8月7日、柳田國男・松岡家顕彰会主催の第26回山桃忌に合わせ、当該箇所（1～40頁）を含んだ同一書名の抄本が刊行された。
- 『物語と語り物』昭和50年4月30日 角川書店 著書 四六判 222頁（一）「自序」（3～4頁）  
「角川選書」の1冊として、公刊された。昭和21年10月10日に同社から刊行された同名書を、選書に加えたものである。巻末に、「解説」（岡見正雄）を付している。
- 『農政論集』1975年7月10日 法政大学出版局 他者（藤井隆至）の編著書 菊判 380頁（383頁）
-

- 
- 頁)「凡例」(無署名)  
 柳田の明治30年代の農政論と旅行の記録を収録し、巻末に「解説」(藤井隆至)を付している。
- 『柳田國男先生稿「南島旅行見聞記」』昭和50年8月15日 南島研究会 著作書 B5判 175頁(一)  
 「南島見聞記」の発刊について」(酒井卯作)  
 「南島見聞記」(7～147頁)を収め、「解説 海南小記の成立と沖縄研究」(酒井卯作)を付している。
- 『近代日本思想大系 14 柳田国男集』1975年8月20日 筑摩書房 他者(鶴見和子)の編著書 四六判 472頁(474頁) 序文なし  
 「近代日本思想大系」の1冊として、公刊された。奥付の欄外に「編集 鶴見和子」、奥付に「著者 柳田国男」と記されている。巻末に、「柳田国男の祖先観」(桜井徳太郎)、「解説」(鶴見和子)を付している。
- 『先祖の話』 1975年10月20日 筑摩書房 著書 四六判 238頁(249頁)「自序」(1～5頁)  
 「筑摩叢書」の1冊として、公刊された。昭和21年4月15日に同社から刊行された同名書を、叢書に加えたものである。巻末に、「『先祖の話』解説」(桜井徳太郎)を付している。
- 『食料名彙』 昭和50年11月 柳田國男・松岡家顕彰会記念館 著作書 四六判 310頁(一) 序文なし  
 昭和17年に、雑誌『民間伝承』に連載した「食料名彙」の原稿を、同館の竣工記念にそのまま複写して製本し1冊の本にしたものである。本書とは別に、「食料名彙」について」と題した解説文が添えられている。
- 『土とふるさとの文学全集 土俗の魂 1』昭和51年1月20日 家の光協会 他者(臼井吉見・他4名)の編著書 A5判 533頁(一) 序文なし  
 「土とふるさとの文学全集」の1冊として、公刊された。「遠野物語」(5～90頁)を収め、巻末に「解説」(水上勉)を付している。
- 『新信濃紀行集』 昭和51年3月10日 信濃毎日新聞社 他者(信濃毎日新聞社出版部)の編著書 四六判 386頁(一) 序文なし  
 「北国紀行」(285～293頁)、「新野の盆踊り」(352～365頁)を収めている。
- 『柳田国男 南方熊楠 往復書簡集』昭和51年3月26日 平凡社 他者(飯倉照平)の編著書 四六判 464頁(467頁)「あとがき」(飯倉照平)  
 巻末に、「書簡目録」を付している。
- 『最新産業組合通解 時代ト農政』昭和51年8月10日 農山漁村文化協会 著作書 A5判 354頁(一) 序文なし  
 「明治大正農政経済名著集」の1冊として、公刊された。巻初に、「解題」(伝田功)を付している。
- 『柳田國男アルバム 原郷』(参考)昭和51年8月31日 柳田國男・松岡家顕彰会記念館 他者(宮崎修二郎)の編著書 B5判 53頁(一)「わたくしごと」(宮崎修二郎)
-

- 
- 『故郷七十年』をはじめとした著作からの引用が、随所に収められている。なお、本書は発行日を昭和63年8月31日とする別本がある。
- 『日本人』 昭和51年9月30日 毎日新聞社 編書 四六判 285頁(295頁) 「あとがき」(284～285頁)  
昭和29年12月15日に同社から刊行された、同名書の新装版である。「日本人とは」(1～13頁)、「家の観念」(33～57頁)を収めている。
- 『子育ての書 3』 昭和51年11月25日 平凡社 他者(山住正己)の編著書 全書判 430頁(459頁) 「あとがき」(山住正己)  
「東洋文庫」の1冊として、公刊された。「付録-子育ての習俗研究の糸口-」として、「産育習俗語彙」(345～430頁)を収めている。
- 『稿本 大阪府民具図録』 昭和52年9月20日 広文堂(頒布所) 他者(小谷方明)の編著書 菊判 和装 38丁 "序文"(沢田四郎作)、「まへがき」(小谷方明)  
「和泉郷土文庫叢書」の1冊として、公刊された。昭和14年5月19日に同文庫から刊行されたものの、改訂版である。「民具研究の将来に対する注文」(巻初の8丁)を、収めている。
- 『柳田國男』 昭和53年2月10日 講談社 他者(色川大吉)の編著書 四六判 491頁(一) 「まえがき」(色川大吉)  
「日本民俗文化大系」の1冊として、公刊された。柳田の著作からの引用と紹介を、多数収めている。
- 『石』 (参考) 昭和53年6月5日 木耳社 他者(池上隆裕)の編著書 A5判 372頁(378頁) 「『石』特輯号の復刻に当って」(池上隆裕)  
池上隆裕を編輯兼発行者として昭和7年7月25日に郷土発行所(発行所)、岡書院(発売所)から公刊された民俗学雑誌『郷土』(「柳田國男先生の旧著『石神問答』を機縁として此の一卷を編む」と明記されている、第二巻第一・二・三号の合冊)を単行本として復刻したもの。『石神問答』の、"序文"を収めている。
- 『柳田國男 その原郷』(参考) 1978年8月20日 朝日新聞社 他者(宮崎修二郎)の編著書 B6判 265頁(270頁) 「旅だちのことば」(宮崎修二郎)  
「朝日選書」の1冊として、公刊された。『故郷七十年』をはじめとする著作からの引用が、随所に収められている。
- 『折口信夫対話 3 万葉集論講』 昭和53年8月31日 角川書店 他者(池田弥三郎・岡野弘彦・加藤守雄・角川源義)の編著書 四六判 460頁(一) 「あとがき」(池田弥三郎)  
「折口信夫対話」の1冊として、公刊された。「旅人の妻への挽歌 I・II」(折口信夫・西角井正慶・穂積忠・金田一京助・柳田の対話 403～450頁)を、収めている。「解説」(岡野弘彦)
- 『名文』 昭和54年3月30日 筑摩書房 他者(中村明)の編著書 四六判 355頁(362頁) 「はしがき」(中村明)
-



「言語生活叢書」の1冊として、公刊された。「雪国の春」の一部(144～147頁)を、収めている。なお、本書は「ちくま学芸文庫」の1冊として、1979年3月30日に同書房から再刊行された。

『明治文化史 風俗 13』昭和54年4月23日 原書房 編纂書 四六判 591頁(611頁)「後記」(587～591頁)

「明治文化史」の1冊として昭和29年9月30日に刊行された同名書の、新装版である。ただし、元版は「風俗編」であったが、新装版では「風俗」と改められている。

『ささやなる昔』1979年6月15日 筑摩書房 著書 四六判 210頁(215頁)序文なし

「筑摩叢書」の1冊として、公刊された。巻末に、「解説」(岡谷公二)を付している。本書は柳田の生前に原稿が整えられ、出版が予定されていたが果たされなかったものである。

『日本のむかし話 (一)』1979年10月 ポプラ社 著書 新書判 165頁(一)「はしがき」(2～4頁)昭和5年3月20日に刊行された『日本昔話集(上)』を、2分冊に改め、「ポプラ社文庫」の1冊として公刊された。巻末に、「解説 昔話について」(柴田勝)を付している。

『日本のむかし話 (二)』1979年10月 ポプラ社 著書 新書判 165頁(一)序文なし

昭和5年3月20日に刊行された『日本昔話集(上)』を、2分冊に改め、「ポプラ社文庫」の1冊として公刊された。巻末に、「解説 柳田国男先生のことなど」(柴田勝)を付している。

『日本の伝説 (一)』1980年1月 ポプラ社 著書 新書判 172頁(一)「はしがき」

昭和4年5月3日に刊行された『日本神話伝説集』を、2分冊に改め、「ポプラ社文庫」の1冊として公刊された。巻末に、「解説 伝説について」(丸山久子)を付している。

『日本の伝説 (二)』1980年1月 ポプラ社 著書 新書判 166頁(一)序文なし

昭和4年5月3日に刊行された『日本神話伝説集』を、2分冊に改め、「ポプラ社文庫」の1冊として公刊された。巻末に、「解説 伝説とお地藏さま」(丸山久子)を付している。

『日本の伝説』昭和55年3月10日 春陽堂書店 著書 文庫判 259頁(一)「はしがき」(頁は付されていない)

昭和7年11月15日に同社から刊行された同名書で、文庫に改めて公刊したものである。

『民間伝承論』1980年7月20日 伝統と現代社 著書 A5判 246頁(一)「序」(1～8頁)、「巻末小記」(後藤興善)

昭和9年8月25日に刊行された同名書を、復刊したものである。巻末に、「あとがき」(大藤時彦)を付している。

『柳田國男の手紙 ニソの杜民俗誌』1980年9月10日 大和書房 他者(安間清)の編著書 四六

- 
- 判 212 頁 (一) 「はじめに」(安間清)  
「柳田国男未公開書簡」(7～56 頁) を収めて「註」を、また巻末に「解説」(宮田登) を付している。
- 『寺田寅彦・柳田国男・和辻哲郎・田中美知太郎』昭和 55 年 11 月 10 日 加藤中道館 他者(今井栄吉) の編著書 四六判 103 頁(110 頁) 「監修者のことば」(築瀬一雄), 「はしがき」(今井栄吉)  
「現代文演習シリーズ」の 1 冊として、公刊された。「柳田国男編」(27～49 頁) に、各地の大学の入学試験問題として出題された、「国語の将来・海上の道・毎日の言葉・蝸牛考」の一部と、設問等を収めている。
- 『平福百穂書簡集』昭和 56 年 1 月 10 日 翠楊社 他者(富木友治) の編著書 四六判 429 頁(一) 「序にかえて」(無署名), 「あとがき」(編集部)  
「郷土の研究」の 1 冊として、公刊された。「平福百穂君と時代」(50～54 頁) を、収めている。
- 『日本人の自伝 13 南方熊楠・柳田国男』1981 年 11 月 10 日 平凡社 南方熊楠との合書 430 頁(一) 序文なし  
「日本人の自伝」の 1 冊として、公刊された。「柳田国男」の部(61～416 頁) は『故郷七十年』を収め、巻末に「解説」(川村二郎) を付している。
- 『森のふくろう - 柳田国男の短歌』昭和 57 年 6 月 18 日 河出書房新社 他者(来嶋靖生) の編著書 四六判 227 頁(一) 「序」(ロナルド・A・モース), 「はじめに」(来嶋靖生), 「あとがき」(来嶋靖生)  
柳田の短歌を主題にした書で、多数の作品を収めている。なお、本書は平成 6 年 4 月 5 日に同社から新装版が公刊された。
- 『みちのく余情』1982 年 7 月 30 日 有楽出版社 他者(山本容朗) の編著書 四六判 237 頁(239 頁) 「編者あとがき」(山本容朗)  
「清光館哀史」(101～106 頁) を、収めている。
- 『新版 日本民俗学入門』昭和 57 年 11 月 25 日 名著出版 関敬吾との共著 四六判 472 頁(482 頁) 「序」(1～6 頁)  
昭和 17 年 8 月 11 日に刊行された、同名書の新装版である。巻末に、「解説」(関敬吾) を付している。
- 『越後・佐渡の旅情』昭和 57 年 12 月 19 日 文化出版局 他者(山本容朗) の編著書 四六判 239 頁(241 頁) 「編者あとがき」(山本容朗)  
「佐渡一巡記」(21～32 頁) を、収めている。
- 『柳田国男教育論集』1983 年 2 月 16 日 新泉社 著書 四六判 350 頁(一) 序文なし  
「叢書 名著の復興」の 1 冊として、公刊された。巻末に、「解説」(長浜功) を付している。
- 『柳田国男随行記』(参考) 昭和 58 年 7 月 31 日 秋山書店 他者(今野圓助) の編著書 四六判 198 頁(一) 「はじめに」(今野圓助)
-

---

「秋山叢書」の1冊として、公刊された。昭和16年秋の柳田の九州講演旅行の随行記で、全篇を通じて柳田の談話や講演要旨などを収めている。

『柳田国男文化論集』1983年8月1日 新泉社 著書 四六判 345頁 (一) 序文なし

「叢書 名著の復興」の1冊として、公刊された。巻末に、「解説」(長浜功)を付している。

『徳川夢声の問答有用 1』昭和59年9月20日 朝日新聞社 他者(徳川夢声)の編著書 文庫判 339頁 (一) 序文なし

「徳川夢声の問答有用」の1冊として、公刊された。昭和22年から『週刊朝日』誌上で連載された徳川夢声の対談「問答有用」から、14名を収めている。柳田の項(177～197頁)は、「ひとつ目小僧から記紀まで」の副題が付されている。

『山村海村民俗の研究』昭和59年10月3日 名著出版 編纂書 A5判 420頁(一)「復刊に際して」(大藤時彦)、「刊行にあたって」(名著出版)

昭和10年代に実施し刊行された、山村・海村調査の報告書と、3種類の採集手帖を合本し、『山村海村民俗の研究』と題して復刊したものである。各冊ごとに独立しており、巻初から巻末を通した頁は付されていない。巻末に、「解説-「山村調査」と「海村調査」-」(福田アジオ)を付している。

『ことばの花束』(参考)1984年12月17日 岩波書店 他者(岩波書店編集部)の編著書 文庫判 172頁(207頁)「読者へ」(岩波書店編集部)

岩波文庫に収められている『不幸なる芸術・笑の本願』(11頁)、『青年と学問』(130頁)、『海上の道』(167頁)から引き出した章句が収載されている。

『日本の名著 50 柳田国男』昭和59年12月20日 中央公論社 他者(神島二郎)の編著書 155x112 473頁 (一) 序文なし

「中公バックス 日本の名著」の1冊として、公刊された。昭和49年5月30日に刊行された、同名書と同一である。

『南方熊楠選集 別巻 柳田国男 南方熊楠 往復書簡集』1985年3月8日 平凡社 他者(飯倉照平)の編著書 A5判 468頁(473頁) 序文なし

「南方熊楠選集」の別巻として、公刊された。昭和51年3月26日に、同社から刊行された『柳田国男 南方熊楠 往復書簡集』の復刊である。巻末に、「南方熊楠の全体像」(飯倉照平)を付している。

『野草雑記』1985年5月10日 八坂書房 著書 B5判 102頁(一)「記念の言葉」(11～15頁)

昭和15年11月30日に刊行された同名書に、三島三治の挿画を合わせて、一書としたものである。巻末に、「柳田先生と野草」(金田一春彦)を付している。

『ことばの贈物』(参考)1985年5月16日 岩波書店 他者(岩波書店編集部)の編著書 文庫判 179頁(221頁)「読者へ」(岩波書店編集部)

岩波文庫に収められている『木綿以前の事』(55頁)、『不幸なる芸術・笑の本願』(79頁・136頁)、『遠野物語・山の人生』(176頁)から引き出した章句が収載されている。

---

- 
- 『全集日本野鳥記 II』昭和61年6月10日 講談社 内田清之助・老田敬吉・佐野昌男他との合書 四六判 395頁 (一) 序文なし  
「全日本野鳥記」の1冊として、公刊された。「野鳥雑記」(3～83頁)を収め、巻末に「解説」(藤原英司)を付している。
- 『野鳥雑記』 1986年8月15日 八坂書房 著書 B5判 123頁 (一) 序文なし  
昭和15年11月30日に刊行された同名書に、嶋田雅一の挿画を今わけて、一書としたものである。
- 『民間伝承論』 1986年10月20日 第三書館 著書 A5判 246頁 (一) 「序」(1～8頁)、「巻末小記」(後藤興善)  
1980年7月20日に刊行された同名書を、新版として復刊したものである。巻末に、「あとがき」(大藤時彦)を付している。
- 『近代作家追悼文集成 第十八巻』昭和62年4月25日 ゆまに書房 A5判 他者(稲村徹元)の監修書 序文なし  
「近代作家追悼文集成」の1冊として、公刊された。本書は上田万年・岡本かの子・北原白秋・島騎藤村・泉鏡花の追悼文集成で、北原白秋の項に「白秋さんと小鳥」(198～199頁)を収めている。
- 『柳田国男談話稿』 1987年4月27日 法政大学出版局 他者(柳田為正・千葉徳爾・藤井隆至)の編著書 四六判 244頁(262頁) 「はしがき－各所講演同行の記」(柳田為正)、「あとがき」(千葉徳爾)  
初期の「講演用手控」と、晩年の構想に成る「民俗学教本案」を収録したもの。巻末に、「第一部解説」(藤井隆至)と「第二部解説」(千葉徳爾)を付している。
- 『現代国語教育論集成 柳田国男』1987年6月 明治図書出版 他者(現代国語教育論集成編集委員会)の編著書 A5判 376頁 (一) 「現代国語教育論集成刊行にあたって」(渋谷孝・田近洵一・大槻和夫)  
「現代国語教育論集成」の1冊として、公刊された。
- 『分類児童語彙』 昭和62年10月5日 国書刊行会 丸山久子との共編書 A5判 345頁(390頁) 「緒言」(頁は付されていない)  
昭和24年1月15日に刊行された同名書に、未完であった下巻を併せて一書にしたもの。巻末に、「『分類児童語彙』の発刊まで」(大藤時彦)、「解説」(大藤ゆき)を付している。
- 『近代国語教育論大系 別巻I』昭和62年12月1日 光村図書出版 他者(井上敏夫・倉沢栄吉・野地潤家・飛田多喜雄・望月久貴)の編著書 A5判 558頁 (一) 「序」(井上敏夫・他4名)、「『近代国語教育論大系』の増補再版にあたって」(井上敏夫・他4名)  
続巻と別巻を加えて増補された「近代国語教育論大系」の1冊として、公刊された。  
「国語の将来」(103～238頁)を、収めている。
- 『近代の文章』 1988年1月15日 筑摩書房 他者(分銅惇作・鈴木醇爾)の編著書 A5判 226
-

- 
- 頁 (237 頁)「はじめに」(分銅惇作)  
 「木綿以前の事」(123～128 頁)を、収めている。
- 『新嘗の研究 3 稲作と信仰』昭和 63 年 7 月 25 日 学生社 他者(にひなめ研究会)の編著書 A5 判 216 頁(一)「序文」(三笠宮崇仁),「後記」(伊藤清司)  
 「新嘗の研究」の 1 冊として、公刊された。「米ノ島考」(155～210 頁)を、収めている。
- 『昭和文学全集 第 4 巻』平成元年 4 月 1 日 小学館 合書 菊判 1137 頁(一)序文なし  
 「昭和文学全集」の 1 冊として、公刊された。「柳田國男」(5～156 頁)を収め、「解説 柳田國男・人と作品」(宮田登)を付している。
- 『故郷七十年』1989 年 4 月 20 日 神戸新聞総合出版センター 著書 四六判 434 頁(一)「起筆の言葉」(1 頁),「母の思い出に-序にかえて」(3～6 頁),「あとがき」(嘉治隆一)  
 昭和 34 年 11 月 20 日に刊行された同名書の、オリジナル版である。巻末に、「柳田國男年譜」「柳田國男著作目録」を付している。
- 『長野県文学全集 2』平成元年 11 月 18 日 郷土出版社 合書 四六判 451 頁(一)序文なし  
 「長野県文学全集」の 1 冊として、公刊された。「北国紀行(抄)」(265～274 頁),「峠に関する二三の考察」(275～284 頁)を、収めている。
- 『長野県文学全集 3』平成元年 11 月 18 日 郷土出版社 合書 四六判 461 頁(一)序文なし  
 「長野県文学全集」の 1 冊として、公刊された。「新野の盆踊り」(257～274 頁)を、収めている。
- 『遠ざかる風景』平成 2 年 3 月 31 日 野田市 他者(野田市役所秘書広報課)の編著書 297x211 203 頁(一)“序”(川島健正)  
 「柳田國男氏によるつく舞に関する講演の記録」(170～177 頁)を、収めている。なお、同講演は昭和 29 年 7 月 16 日に行われたもので、その際に録音したテープを翻刻したものである。
- 『方言と共通語』平成 2 年 6 月 30 日 河出書房新社 他者(氏名は記されていない)の編著書 四六判 239 頁(一)序文なし  
 「シリーズ・ことば読本」の 1 冊として、公刊された。「ブランコの話」(96～103 頁)を、収めている。
- 『日本の食文化』(参考)1990 年 9 月 20 日 岩崎美術社 他者(成城大学民俗学研究所)の編著書 B5 判 667 頁(683 頁)「はしがき」(大藤時彦),「あとがき」(森岡清美)  
 昭和 16 年に、民俗学研究所の事業として実施された、食習採集に基づく『食習採集手帖』58 冊を集成したものである。巻末に、「食習採集手帖」と「食習調査」(田中宣一)を付している。
- 『村と学童』1990 年 10 月 15 日 海鳴社 著書 A5 判 238 頁(240 頁)「はしがき」(1～6 頁)  
 「柳田國男児童読み物集」の 1 冊として、公刊された。巻末に、「読書の手びき」(植垣一彦)を付している。
-

- 
- 『柳田国男』 平成3年1月25日 城ヶ崎文化資料館 他者(木村博)の編著書 B6判 127頁(一)  
「はじめに」(木村博), 「あとがき」(木村博)  
「塔の沢」(7～9頁), 「人形と信仰生活」(11～30頁), 「柳田国男先生からの  
書簡(木村博宛)とその解釈」(83～92頁)を, 収めている。
- 『恵比須信仰』 平成3年2月5日 雄山閣 他者(北見俊夫)の編著書 A5判 306頁(312頁)  
「はじめに」(北見俊夫)  
「民衆宗教史叢書」の1冊として, 公刊された。「百姓恵比須考」(181～183頁)  
を, 収めている。
- 『南方熊楠百話』 1991年4月10日 八坂書房 他者(飯倉照平・長谷川興蔵)の編著書  
227x160 502頁(510頁) 「まえがき」(飯倉照平), 「あとがき」(長谷川興蔵)  
「突然ながら一書拝呈仕り候」(177頁), 「南方熊楠」(381～387頁)を, 収め  
ている。
- 『柳田國男を読む』(参考) 1991年6月28日 東京堂出版 他者(千葉徳爾)の編著書 四六判 319  
頁(325頁) 「まえがき」(千葉徳爾)  
柳田國男の文章入門として著わされたもので, 柳田の論考や作品を多数収めて  
いる。
- 『火の昔』 1991年6月29日 海鳴社 著書 A5判 264頁(268頁) 「自序」(1～2頁)  
「柳田国男児童読み物集」の1冊として, 公刊された。巻末に, 「読書の手びき」  
(小田富英)を付している。
- 『田山花袋宛 柳田国男書簡集』 平成3年12月25日 館林市 他者(館林市教育委員会文化振興課)  
の編著書 A5判 469頁(478頁) 「序」(山本達司), 「あとがき」(小林一郎),  
「あとがき」(館林市教育委員会文化振興課)  
「田山花袋記念館研究叢書」の1冊として, 公刊された。
- 『少年と国語』 1992年2月15日 海鳴社 著書 A5判 270頁(274頁) 序文なし  
「柳田国男児童読み物集」の1冊として, 公刊された。巻末に, 「読書の手びき」  
(尾崎光弘)を付している。
- 『伊良湖と柳田國男』(参考) 平成4年5月 渥美町教育委員会 他者(渥美町教育委員会)の編著  
書 四六判 123頁(133頁) 「はじめに」(山本吉夫)  
柳田の著作の中から, 伊良湖崎一帯に関連した記述を抜粋して, 1冊に纏めた  
もの。巻初に, 「伊良湖からの連想」(後藤総一郎)を付している。
- 『柳田國男』 1992年6月20日 筑摩書房 著書(実質は他者の編著書) 文庫判 477頁(一) 序  
文なし  
「ちくま日本文学全集」の1冊として, 公刊された。巻末に, 「解説」笑う偉人」  
(南伸坊)を付している。
- 『柳田國男の遠野紀行』(参考) 平成4年7月3日 遠野常民大学運営委員会 他者(遠野常民大学運  
営委員会)の編著書 188x158 133頁(137頁) 「遠野紀行の実像」(後藤総一郎),  
「編集にあたって」(高柳俊郎)
-

柳田と遠野との関係を主題にしたもので、遠野に関連した記述や講演を多数収めている。

『遠野物語』 (参考) 1992年7月10日 河出書房新社 他者(口訳者 佐藤誠輔)の編著書 A5判 226頁(一) 「『口語訳』出版にあたって」(後藤総一郎), 「初版序文」(7～11頁), 「訳者あとがき-原典への橋渡しとして」(佐藤誠輔)

明治43年6月14日に刊行された同名書を口語訳し、再構成したもの。口語訳者佐藤誠輔、各話及び巻末に「注」を付している。

『池上隆祐遺文集』 平成4年11月3日 東筑摩塩尻教育会 他者(竹内貞)の編著書 A5判 486頁(510頁) 「序文」(五味義典)

「郷土教育と東筑摩塩尻教育会の思い出(口述)」(9～24頁), 「しだれ桜の問題・地梨と精霊・地藏あそび・厄介及び居候・民間伝承論大意」(218～283頁)を、収めている。

『柳田國男対談集』 1992年11月6日 筑摩書房 他者の編著書(「奥付」には「著者 柳田國男他」と記されている) 文庫判 382頁(一) 「解説」(宮田登)

「ちくま学芸文庫」の1冊として、公刊された。同書房から刊行された『柳田國男対談集』(昭和39年11月15日)と、『民俗学について 第二柳田國男対談集』(昭和40年9月25日)をもとに、新たに編集したもの。

『近代作家追悼文集成 第二十八巻』 平成4年12月8日 ゆまに書房 他者(稲村徹元)の監修書 A5判 282頁(289頁) 序文なし

「近代作家追悼文集成」の1冊として、公刊された。本書は、吉江喬松・馬場狐蝶の追悼文集成で、吉江喬松の項に「野鳥と海洋文学」(53～57頁), 座談会「窪田空穂先生を囲んで故吉江喬松先生を聴く」(89～110頁)の発言を収めている。

『柳田國男と「竹馬餘事」』 平成5年2月7日 発行所の記載なし 他者(松岡房夫)の編著書 四六判 108頁(一) 「跋文」(松岡房夫)

『竹馬餘事』は、國男が13歳の時にそれまでに作った漢詩・漢文・和歌を纏めて真書きした著書といわれている。これを印刷に付し、解説を加えている。

『諸国叢書 第十輯』 平成5年3月15日 成城大学民俗学研究所 他者(成城大学民俗学研究所)の編著書 A5判 155頁(156頁) 「編集後記」(S・T)

「諸国叢書」の1冊として、公刊された。柳田が直接筆写した桂女文書と直筆のメモとを写真版にしたもので、「柳田國男筆写資料」(1～114頁), 「私考」(116～117頁), 「収集資料メモ」(118～136頁)を収め、「解題」(田中宣一)を付している。

『抄訳 後狩詞記』 (参考) 平成5年3月 椎葉村教育委員会 他者(椎葉村教育委員会・「後狩詞記」教材化編集委員会)の編著書 B5判 98頁(一) 「この本を読むみなさんへ」(植野幸雄), 「あとがき」(無署名)

奥付に、「編著者 柳田國男」「監修者 牛島盛光」と記されている。明治42年3月15日に自費出版された『後狩詞記』の本文を収め、抄訳と注釈を付している。

- 
- 『翁童信仰』 平成5年5月20日 雄山閣 他者(鎌田東二)の編著書 A5判 364頁(372頁)  
「はしがき」(鎌田東二)  
「民衆宗教史叢書」の1冊として、公刊された。「海神少童」(111～136頁)を、収めている。
- 『ふるさと文学館 第四巻 岩手』平成5年8月15日 ぎょうせい 他者(工藤英寿)の編著書 A5判 667頁(668頁) 「解説」(星野富一郎・田中紀平・遊座昭吾)  
「ふるさと文学館」の1冊として、公刊された。「遠野物語」(159～195頁)を、収めている。
- 『遠野物語・山の人生』1993年12月16日 岩波書店 著書 四六判 330頁(一) 「解説」(桑原武夫)  
「ワイド版 岩波文庫」の1冊として、公刊された。
- 『柳田国男と短歌－続森のふくろう』平成6年4月5日 河出書房新社 他者(来嶋靖生)の編著書 四六判 245頁(一) 「終わりに」(来嶋靖生)  
昭和57年6月18日に、同社から公刊された同名書の続編である。
- 『柳田国男・南方熊楠 往復書簡集 上』1994年6月15日 平凡社 他者(飯倉照平)の編著書 160x110 379頁(一) 序文なし  
昭和51年3月26日に同社から公刊された同名書を上・下2分冊に分け、「平凡社 ライブラリー」の1冊として、公刊された。
- 『柳田国男・南方熊楠 往復書簡集 下』1994年6月15日 平凡社 他者(飯倉照平)の編著書 160x110 390頁(一) 「あとがき」(飯倉照平), 「解説－灼熱する対話の果てに」(松居竜五)  
昭和51年3月26日に同社から公刊された同名書を上・下2分冊に分け、「平凡社 ライブラリー」の1冊として、公刊された。
- 『徳川夢声の世界 問答有用 文学者篇Ⅱ』1994年8月15日 深夜叢書社 他者(徳川夢声)の編著書 A5判 238頁(一) 「刊行にあたって」(深夜叢書社)  
「深夜叢書」の1冊として、公刊された。昭和22年から『週刊朝日』誌上に連載された徳川夢声の対談「問答有用」から、19名を収めている。柳田(46～57頁)との対談は、昭和30年11月24日に行われた。
- 『いろは遠野物語』(参考)平成6年8月20日 鈴木重三(発行者) 他者(鈴木重三)の編著書 A5判 147頁(一) 「遠野人による『遠野物語』考」(後藤総一郎), 「あとがき」(無署名)  
「遠野物語」「遠野物語拾遺」の中から代表的な話を抜き出して「いろはかるた詞」にまとめ、解説を加えたもの。
- 『文学－馬と近代文学』1994年12月20日 財団法人馬事文化財団 他者(岩井宏実)の編著書 A5判 549頁(一) 「発刊のことば」(吉岡裕), 「発刊によせて」(渡辺五郎), 「監修のことば」(江上波夫・木下順二・児玉幸多), 「編者のことば」(吉井由吉), 「解題」(岩井宏実)  
「馬の文化叢書」の1冊として、公刊された。「馬の仕合吉」(63～64頁), 「名
-



- 
- 馬小耳」(80～81頁),「絵馬と馬」(82～84頁)を,収めている。
- 『柳田國男の民俗学』1995年2月 岩田書院 他者(岩崎敏夫)の編著書 A5判 403頁(413頁)「あ  
とがき」(岩崎敏夫)  
「岩崎敏夫著作集」の1冊として,公刊された。「柳田國男ほか数氏の高木誠一  
宛書簡」(191～219頁),「柳田國男の岩崎敏夫宛書簡」(220～242頁)を,収  
めている。
- 『民俗－馬の文化史』1995年4月15日 財団法人馬事文化財団 他者(岩井宏実)の編著書 A5  
判 524頁(525頁)「発刊のことば」(吉岡裕),「発刊によせて」(渡辺五郎),「監  
修のことば」(江上波夫・木下順二・児玉幸多),「編者のことば」(岩井宏実),「解  
題」(岩井宏実)  
「馬の文化叢書」の1冊として,公刊された。「河童駒引」(82～135頁),「板  
絵沿革」(190～195頁)を,収めている。
- 『ふるさと文学館 第六巻 秋田』平成7年5月15日 ぎょうせい 他者(工藤英寿)の編著書 A5  
判 675頁(676頁)「解説」(佐々木久春・あゆかわのぼる・伊多英夫)  
「ふるさと文学館」の1冊として,公刊された。「おがさべり－男鹿風景談」(124  
～139頁)を,収めている。
- 『柳田國男 鈔』平成7年6月1日 島根日日新聞社 他者(石塚尊俊)の編著書 202x204 189頁  
(196頁)「『柳田國男 鈔』はしがき」(石塚尊俊)  
「山陰民俗叢書」の1冊として,公刊された。本扉に「この書はまず御帰幽三十  
三年にならせたまう柳田國男先生の御霊に捧げまつる」と記されている。「将来  
の農政・柳田翁のはがき・日本を知る為に・ミハカリ考の試み」(7～45頁)を,  
収めている。
- 『ふるさと文学館 第二八巻 三重』平成7年6月15日 ぎょうせい 他者(藤田明)の編著書 A5  
判 683頁(684頁)「解説」(藤田明)  
「ふるさと文学館」の1冊として,公刊された。「遊海鳥記」(406～416頁)を,  
収めている。
- 『近代名作館② 評論・随筆』1995年7月28日 文英堂 他者(桑名靖治)の編著書 A5判 284頁(一)序  
文なし  
「近代名作館」の1冊として,公刊された。「狐のわな－「豆手帖から」」(64～  
71頁)を,収めている。なお,本書は同一書名で「高校生におくる近代名作館」  
の1冊として,1998年9月20日に公刊されている。ただし奥付は「新装第一刷」  
と記されている。
- 『ふるさと文学館 第一八巻 神奈川II』平成7年8月15日 ぎょうせい 他者(清原康正)の編著  
書 A5判 691頁(692頁)「解説」(清原康正)  
「ふるさと文学館」の1冊として,公刊された。「箱根の宿」(598～603頁)を,  
収めている。
- 『世界は笑う』 1995年9月25日 筑摩書房 他者(鶴見俊輔・安野光雅・森毅・井上ひさし・
-

- 
- 池内紀)の編著書 195x137 393頁(一)  
「新・ちくま文学の森」の1冊として、公刊された。「笑いの練習」(343～349頁)を、収めている。
- 『日本の食文化 補遺編』(参考)1995年10月16日 岩崎美術社 他者(成城大学民俗学研究所)の編著書 B5判 337頁(355頁)「はしがき」(伊藤幹治)  
同研究所から1990年9月20日に公刊された、『日本の食文化』の補遺編。同書刊行後に得た資料を収め、『日本の食文化』(補遺編)と橋浦泰雄旧蔵資料(田中宣一)を付している。
- 『はなしことば大百科』1996年11月11日 ベネッセコーポレーション 他者(井上ひさし)の編著書 B6判 214頁(一)「はなしことばと書きことば」(井上ひさし)  
「日本語で生きる」の1冊として、公刊された。「あいさつの言葉」(90～106頁)を、収めている。
- 『近代作家追悼文集成 第三十五巻』平成9年1月24日 ゆまに書房 他者(稲村徹元)監修書 A5判 401頁(413頁)序文なし  
「近代作家追悼文集成」の1冊として、公刊された。本書は、伊東静雄・堀辰雄・折口信夫の追悼文集で、折口信夫の項に「和歌の未来といふことなど」(231～232頁)を、収めている。
- 『うたの信濃』 1997年4月9日 信濃毎日新聞社 他者(草田照子)の編著書 四六判 287頁(一)  
「問いかけてくる信濃」(馬場あき子)、「まえがき」(草田照子)  
柳田の短歌4首(194～195頁・245～246頁)を、収めている。
- 『改訂 分類児童語彙』平成9年5月20日 国書刊行会 丸山久子との共書 A5判 344頁(389頁)  
「緒言」(氏名 頁は付されていない)  
昭和62年10月5日に刊行された同名書の改訂版、巻末に『分類児童語彙』の発刊まで(大藤時彦)、「解説」(大藤ゆき)を付している。
- 『注釈 遠野物語』(参考)1997年8月20日 筑摩書房 他者(遠野常民大学)の編著書 A5判 406頁(一)「『遠野物語』の新地平」(後藤総一郎)「『遠野物語』三部作の成立」(石井正己)、「あとがき」(小井口有)、「編集を終えて」(高柳俊郎)  
明治43年6月14日に公刊された『遠野物語』の本文を掲げ、全編にわたって注釈を付したもの。
- 『柳田國男』 1998年4月25日 日本図書センター 著書 A5判 261頁(一)「解説」(岡谷公二)  
「作家の自伝」の1冊として、公刊された。「詩篇」「田山花袋宛書簡」「さゝやかなる昔(抄)」「故郷七十年(抄)」「故郷七十年拾遺(抄)」等を収めている。
- 『海風に吹かれて』1998年4月25日 作品社 他者(作品社編集部)の編著書 A5判 253頁(一)序文なし  
「新編 日本随筆紀行 心にふるさとがある」の1冊として、公刊された。「干瀬の人生」(243～253頁)を、収めている。
-

- 
- 『柳田國男』 1999年2月28日 晶文社 著書 192x134 124頁 (一) 序文なし  
「21世紀の日本人へ」の1冊として、公刊された。「毎日の言葉」「喜談日録 より」を、収めている。
- 『妖怪』 1999年5月24日 国書刊行会 他者(東雅夫)の編著書 A5判 277頁(278頁) 序文なし  
「書物の大国」の1冊として、公刊された。「ダイダラ坊の足跡」(203～219頁)を、収めている。
- 『現代神道研究集成 第四卷 祭祀研究編Ⅰ』平成11年6月30日 神社新報社 他者(現代神道研究集成編集委員会)の編著書 A5判 650頁(654頁) 「凡例」(無署名)  
「現代神道研究集成」の1冊として、公刊された。「祭日考(抜粋)」(229～257頁)を、収めている。
- 『憑きもの持ち迷信 その歴史的考察』1999年10月25日 明石書店 他者(速水保孝)の編著書 四六版 159頁(175頁) 「序」(恒松安夫),「改訂に当たって」(速水保孝),「解説」(内藤正中)  
1953年11月30日に刊行された、同名書の改訂版である。「序文」(i～vi)を、収めている。
- 『現代神道研究集成 第五卷 祭祀研究編Ⅱ』平成11年6月30日 神社新報社 他者(現代神道研究集成編集委員会)の編著書 A5判 650頁(654頁) 「凡例」(無署名)  
「現代神道研究集成」の1冊として、公刊された。「神社のこと」(27～39頁)を、収めている。
- 『明治大正史 世相篇』2000年4月25日 クレス出版 著書 A5判 398頁(417頁) 「自序」(1～6頁)  
昭和6年1月20日に公刊された、同名書を復刊したものである。
- 『民俗学研究所紀要 第二十四集 別冊』平成12年3月10日 成城大学民俗学研究所 他者(成城大学民俗学研究所)の編著書 A5判 296頁(297頁)  
表紙に、「柳田國男の日記」と記されている。柳田が著した4篇の日記(「学問の日記」「木曜会日記」「大正9年8月以降東北旅行」「水曜手帖 付録」)の影印を掲げ、平山敏治郎・丸山久子が施した積文を収め、「読後の覚え書」(平山敏治郎),「追い書」(鎌田久子),「あとがき」(伊藤幹治)を付している。
- 『柏崎刈羽文学散歩』 2000年5月20日 玄文社 他者(巻口省三)の編著書 A5判 302頁 (一)  
「序」(箕輪真澄),「文学愛好の熱意と探求」(吉田昭一),「あとがき」(巻口省三)  
「北国紀行」の一部(214～217頁)を、収めている。
- 『柳田国男』 (参考)2000年10月25日 筑摩書房 他者(船曳建夫)の編著書 A5判 158頁 (一) 「柳田国男を読もう」(無署名),「あとがき」(船曳建夫)  
「快速リーディング」の1冊として、公刊された。全編を通じて随所に、柳田の文章が収められている。
- 『柳田國男 私の歩んできた道』 2000年10月 岩田書院 他者(田中正明)の編著書 A5判 436頁 (一) 「はじめに」(田中正明),「あとがき」(田中正明)
-

- 
- 柳田自身が語った言葉と綴った文章を中心に生涯を回顧したもので、全編を通じて柳田の言葉と文章を収め、「解説」を付している。
- 『明治大正史 世相篇』 2001年8月10日 中央公論社 著書 新書判 438頁(466頁) 「同時代を読む」(加藤秀俊), 「自序」(3～8頁)  
「中公クラシックス」の1冊として、公刊された。昭和6年1月20日に刊行された同名書を復刊したものである。
- 『神隠し譚』 2001年9月20日 桜桃書房 他者(小松和彦)の編著書 四六判 352頁(一) 「解説-神隠しとは何か」(小松和彦)  
「山の人生」(305～341頁)を、収めている。
- 『つく舞考』 2002年4月 岩田書院 他者(古谷津順郎)の編著書 A5判 234頁(一) 「はじめに」(古谷津順郎), 「解説 つく舞の源流を求めて」(橋本裕之)  
「つく舞に関する講演」(161～192頁), 「ツク舞について」(193頁)を収めている。
- 『近代短歌の鑑賞 77』 2002年6月5日 新書館 他者(小高賢)の編著書 212x139 240頁(一) 「はしがき」(小高賢)  
柳田国男の項(73頁)に、11首の作品を収めている。
- 『教科書でおぼえた名文』 2002年8月2日 文春ネスコ(発行所)・文芸春秋(発売所) 他者(文春ネスコ)の編著書 189x125 270頁(一) 「序にかえて～『心の小径から』～」(金田一京助) ” 跋” (文春ネスコ編集部)  
「ことわざと天気うらない～『なぞとことわざ』から～」(38～42頁), 「おわりに はなむけのことば-青年期の話-」(259～267頁)を、収めている。
- 『民俗と地域差に関する研究』 2002年8月 岩田書院 他者(石塚尊俊)の編著書 A5判 372頁(379頁) 「民俗研究の今までとこれから-序に代えて-」(石塚尊俊)  
「柳田国男翁の書簡」(337～369頁)を収め、解説を付している。
- 『美しい日本語を究める やまとことば』 2003年3月20日 河出書房新社 他者(河出書房新社編集部)の編著書 文庫判 253頁(一) 序文なし  
「子供と言葉」(194～211頁)を、収めている。
- 『柳田国男の武蔵野』 2003年10月30日 三交社 他者(立川柳田国男を読む会)の編著書 A5判 196頁(一) 「あとがき」(高橋昭男)  
『登高行』創刊号(大正8年7月11日)・『登高行』第2号(大正9年6月25日)に掲載された「武蔵野の昔」の本文を掲げ、全編にわたって注釈を付している。
- 『注釈 東国古道記』(参考) 2003年10月31日 柳田国男記念伊那民俗学研究所・飯田柳田国男研究会 他者(柳田国男記念伊那民俗学研究所・飯田柳田国男研究会)の編著書 四六判 225頁(229頁) 「まえがき」(後藤総一郎), 「あとがき」(中村健一)  
昭和27年6月20日に公刊された『東国古道記』の本文を掲げ、全編にわたって注釈を付している。
- 『毎日の言葉』 2004年1月9日 教育出版 著書 新書判 214頁(218頁) 「新版自序」(3～4頁),
-

- 
- 「自序」(5～6頁)  
 「読んでおきたい日本の名作」の1冊として、公刊された。「解説」(沢木幹栄)を、付している。
- 『柳田國男』 2004年4月12日 新学社 著書 文庫判 322頁 (一) 序文なし  
 「近代浪漫派文庫」の1冊として、公刊された。
- 『柳田國男』 2005年2月25日 日本図書センター 著書 四六判 332頁 (一) 序文なし  
 「人間の記録」の1冊として、公刊された。昭和33年11月15日に刊行された『炭焼日記』を、復刊したものである。
- 『柳田國男の絵葉書－家族にあてた二七〇通』 2005年6月25日 晶文社 他者(田中証明)の編著書 B5判 331頁 (一) 「柳田民俗学のかくし味」(鶴見和子), 「はじめに」(田中証明), 「絵はがきの心」(柳田富美子), 「編者解説 柳田國男旅と絵葉書」(田中証明)  
 明治23年から昭和26年にかけて国内外から家族に当てた270通の絵葉書(一部簡易書簡を含む)の影印と釈文を掲げ、一葉ごとに解説(備考)を付している。
- 『海上の道』 2005年7月15日 岩波書店 著書 四六判 328頁 (一) 「まえがき」(5～10頁)  
 「ワイド版 岩波文庫」の1冊として、公刊された。
- 『ハイライトで読む 美しい日本人』 2005年7月25日 文芸春秋 他者(齋藤孝)の編著書 B6判 341頁 (一) 「はじめに」(齋藤孝), 「あとがき」(齋藤孝)  
 「言葉争い」(269～276頁)を、収めている。
- 『柳田國男文芸論集』 2005年10月10日 講談社 他者(井口時男)の編著書 文庫判 314頁 (一)  
 「解説」(井口時男), 「著書目録」(田中証明)  
 「講談社文芸文庫」の1冊として、公刊された。
- 『柳田國男と教科書』 2006年4月21日 二松学舎松葉叢書刊行会・開成出版 他者(田中証明)の編著書 A5判 118頁 (一) 「はじめに」(田中証明), 「おわりに」(田中証明)  
 「柳田國男『日本の社会』内容見本」(83～116頁)を、収めている。なお、本書は内容は同一であるが表紙・本扉・奥付・背文字を異にし、発行所を変えた2種類の本がある。
- 『学生諸君!』 2006年12月20日 光文社 他者(光文社学芸編集部)の編著書 四六版 276頁  
 「[解説] かつて生徒であったすべての大人たちへ」(齋藤慎爾)  
 「旅と歴史」(215～234頁)を収めている。
- 『柳田國男集 幽冥談』 2007年8月10日 筑摩書房 他者(東雅夫)の編著書 文庫判 393頁 (一)  
 「解説 科学と文学と」(東雅夫)  
 「文豪怪談傑作選」の1冊として、公刊された。
- 『まなびの郷 田原小学校100周年記念誌』 平成19年12月吉日 100周年記念事業実行委員会(発行者)・田原小学校(発行所) 他者(100周年記念事業実行委員会編集部)の編著書 B5判 238頁(241頁) 「挨拶」(奥平成俊・高寄十郎・澤田和也), 「編集後記」(編集部)
-

---

「『日本の社会』編集趣意」(67頁)を、収めている。

『新訂 先祖の話』 2008年8月31日 石文社 著書 四六判 「自序」(i~vi) 289頁(346頁)  
昭和21年4月15日に刊行された同名書に、柳田自身が朱筆を施した自筆書き  
入れ本に基づく補訂を加え、全編にわたって補注を付して刊行したもの。巻末に、  
「柳田家の『先祖の話』」(柳田富美子),「『先祖の話』の執筆と刊行」(田中正明),  
「新訂版発刊の辞」(小島宏允)を、付している。

『南島旅行見聞記』 2009年11月24日 森話社 著書 四六判 265頁  
編者が昭和50年8月15日に公刊した『柳田國男先生稿「南島旅行見聞記」』を  
底本に全編にわたって補注を付し、「著者 柳田國男・編者 酒井卯作」として刊  
行したもの。「翁の我儘 本書が刊行されるまで」(吉成直樹),「『南島旅行見聞記』  
について」(酒井卯作),「旅する貴族『南島旅行見聞記』解説」(酒井卯作)を、  
付している。

『水木しげるの遠野物語』(参考) 2010年2月3日 小学館 A5判 256頁  
明治43年6月14日に公刊された『遠野物語』を底本として、水木しげるがコ  
ミック化し『ビッグコミック』誌上に連載。連載終了後単行本として刊行した  
もの。表紙に「原作 柳田國男」、奥付に「著者 水木しげる・柳田國男」と記さ  
れている。

(二松学舎大学国際政治経済学部, 国立歴史民俗博物館共同研究員)  
(2010年7月26日受付, 2010年11月30日審査終了)